

令和元年度  
浦安市児童育成クラブに係る評価事業  
報 告 書

令和2年3月  
浦 安 市

# 目次

第1章 浦安市児童育成クラブに係る評価事業の全体像	1
1. 浦安市児童育成クラブに係る評価事業の概要	2
2. 事業者自己評価の考え方	3
3. 利用者調査の考え方	9
4. 公表・フィードバックの考え方	12
第2章 令和元年度 児童育成クラブに係る評価結果	15
1. 調査の概要	16
2. 事業者自己評価の結果	17
3. 利用者調査の結果	23
4. クラブ別評価結果	34
資料	89
1. 令和元年度 事業者自己評価シート	90
2. 令和元年度 利用者調査	100

## 第 1 章 浦安市児童育成クラブに係る評価事業の全体像

# 第1章 浦安市児童育成クラブに係る評価事業の全体像

## 1. 浦安市児童育成クラブに係る評価事業の概要

### (1) 評価事業の目的

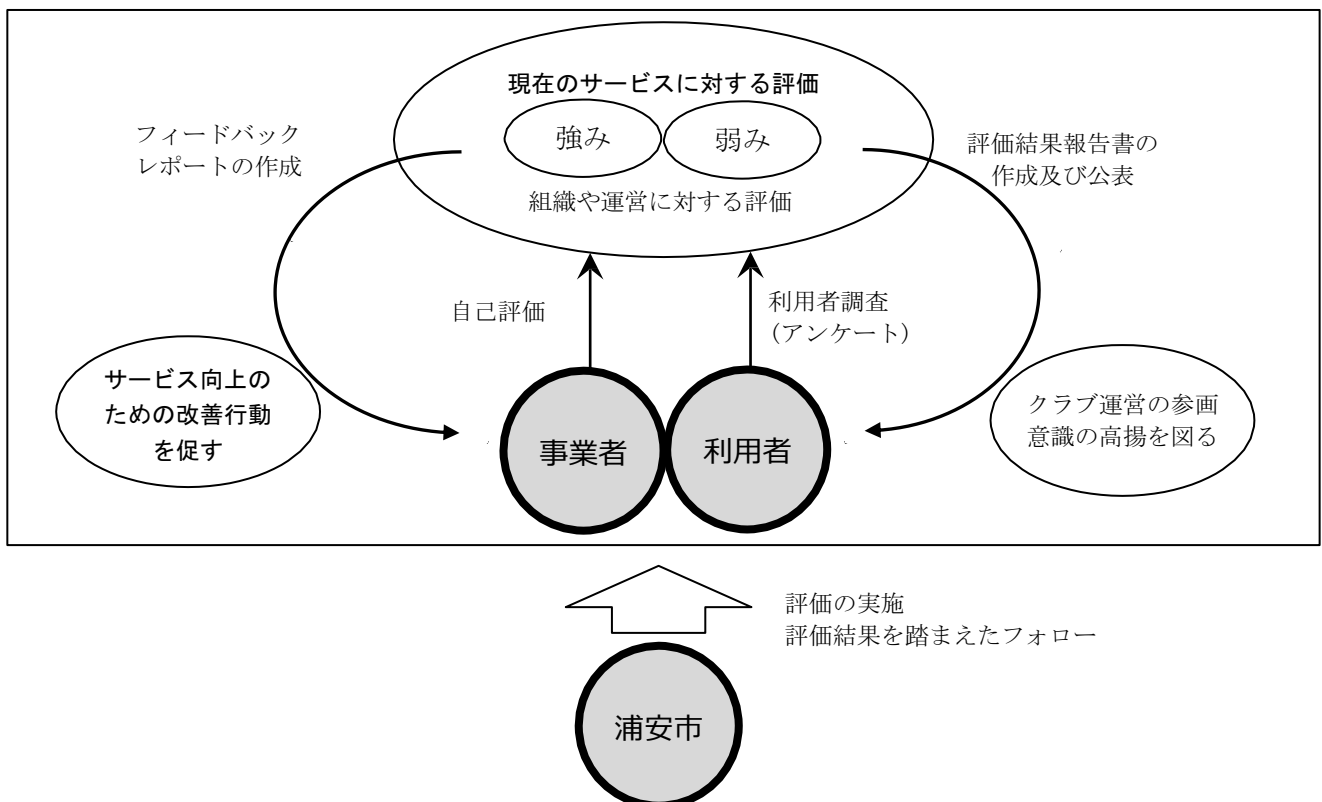
浦安市児童育成クラブに係る評価事業（以下、「本事業」と言う。）は、国が定める「放課後児童クラブ運営指針」の第7章3.（3）の「運営内容の評価と改善」にもとづき、児童育成クラブの運営について評価を行い、その結果をもとに運営の改善を進め、サービスの向上を図るとともに、これらを公表することにより、利用者から信頼される開かれた児童育成クラブを目指すものである。具体的には、次の目的を達成する。

- 各クラブにおけるサービスの強み（サービスの特徴）や弱み（改善の方向性）を洗い出し、運営事業者におけるサービス向上のための改善行動を促す。
- 利用者の声を吸い上げ、その結果を公表することにより、利用者のクラブ運営の参画意識の高揚を図る。

### (2) 評価の仕組み

本事業では、児童育成クラブの運営事業者（以下、「事業者」と言う。）に対し事業者自己評価を、児童育成クラブの利用者（児童）とその保護者に対し利用者調査を実施することで、“事業者”と“利用者”の二者から見た評価を行った。

#### <本事業の全体イメージ>



## 2. 事業者自己評価の考え方

---

### (1) 目的

事業者の職員がサービスの内容について振り返り、良い点、改善が必要な点を把握することを目的とする。

### (2) 評価の対象

市内の児童育成クラブ 17 クラブに対して実施した。

※東小学校地区児童育成クラブは、1つのクラブあるが、評価結果は、本室と分室とで、分けて記載する。

### (3) 事業者自己評価の実施方法

市が定めた事業者自己評価シートを使用して実施し、評価シートは、電子メールにより配布・回収した。実施方針については、以下のとおりである。

#### ①事業者自己評価における客観性の確保

事業者自己評価を実施するにあたり、客観性を確保するために、事業責任者が単独で行うのではなく、可能な限り職員の参加による評価を行うことを前提とし、事業責任者およびサービスに関わる複数の職員、場合によっては全職員が相談をしながら評価を行い、評価シートに記入する方法を採用した。なお、ここでいう職員には、常勤者と同等にサービスに関わっている非常勤職員を含む。

#### <実施体制の例>

- ア. 幹部職員および一般職員による評価チームをつくり、自己評価を行う。
- イ. 通常の職員会議等の場を活用し、自己評価を行う。
- ウ. その他（ア、イ以外の方法で自己評価を行う）

#### ②具体的な取り組みの事実に基づく評価

今回実施するこの事業者自己評価は、あくまで事業者の自己責任で実施するものであり、原則として、公開対象となっている項目は、記載内容をそのまま公表する。このため、事業者には具体的な取り組みの事実に基づいて評価を実施することを求めた。

#### (4) 事業者自己評価シートの構成

事業者自己評価シートの構成は、以下のとおりである。

##### ①総合評価と事業プロフィール

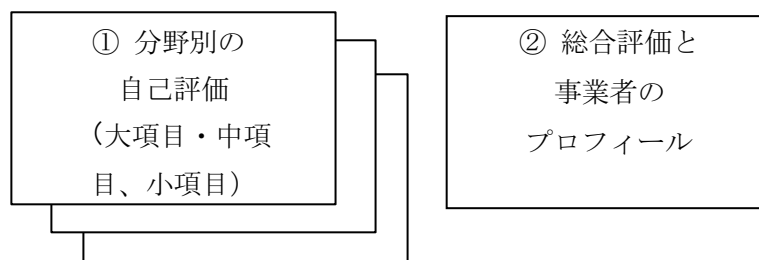
###### ・総合評価

大項目のそれぞれについて総合的な評価を行う。大項目別の自己評価の結果に基づき、当該事業者の強みとサービス改善に向けた取り組みを具体的に記述し、大項目別に達成度を5段階で評価する。

###### ・事業プロフィール

名称、所在地、連絡先、事業規模、サービスにあたって大切にしていることなど、当該事業の概要を記述する。

##### <事業者自己評価シートの構成>



##### ②分野別の自己評価

大項目ごとに中項目、小項目を設定し、当該事業者の運営およびサービス提供について詳細な自己評価を行う。小項目ごとに設定された評価の視点（判断基準）と当該事業者における具体的な取り組みの事実を照らし合わせ、達成度を評価する。

## (5) 評価項目

評価項目は、以下のとおりである。

大項目は 3 項目、中項目は 22 項目、小項目は 67 項目で構成される。

### I 組織と運営

中項目 (6 項目)	小項目 (26 項目)
1 運営	① 理念・方針の職員への周知
	② 重要な意思決定時における職員や利用者への説明
	③ 職員が意見や提案を発言しやすい雰囲気づくり
	④ 利用者意見に対する適切な対応
	⑤ 利用者意向の事業計画への反映
	⑥ 全職員でのサービス改善への取り組み
	⑦ 市との連携や情報共有
	⑧ 学校との連携や情報共有
2 人事	① 職員研修の開催
	② 日常的な職員の意向把握
	③ 職員の適正な採用
3 情報	① 指示・連絡・報告・相談の体制
	② 利用者の家族に対する定期的な情報提供
	③ 情報公開の仕組み
4 適正な会計事務の執行	① 現金取り扱いの際の複数チェック体制の構築
	② 当施設の経費等の管理
5 危機管理	① 災害・緊急時の対策
	② 施設や設備の安全点検及び危険箇所への対処
	③ ケガや急病に対する救護対策
	④ 衛生管理（感染症の拡大防止）
	⑤ 衛生管理（食中毒の防止）
	⑥ ケガや事故の再発防止
6 個人情報保護	① 守秘義務の研修
	② 守秘義務のための取り組み
	③ 個人情報利用の利用者への説明
	④ プライバシーの確保

## Ⅱ サービス提供のプロセス

中項目（7 項目）	小項目（16 項目）
1 利用希望者への対応	① 見学者の受け入れ、分かりやすい説明対応
	② 説明資料の読みやすさ
2 計画作成・見直し	① 子どもや保護者の意見を反映した計画作成
	② 利用書への計画説明及び同意
	③ 実施計画の定期的な見直し
3 サービスの標準化	① 個々のサービスに応じたマニュアル作成
	② 新人職員に対する実地指導
4 苦情解決	① 苦情の受付体制、職員への周知、サービスへの反映
	② 苦情の迅速な解決
	③ 苦情に関する情報共有
5 保護者に対するサポート	① 保護者からの相談対応
6 人権の尊重	① 虐待防止のための具体的な仕組み
	② 家庭等の虐待兆候の早期発見及び見守り
7 地域との連携・交流	① 施設外での活動範囲を広げるための取り組み
	② ボランティア・実習生に対する事前説明
	③ 関係諸機関・団体との連携のための取り組み



### Ⅲ サービスの内容

中項目 (9 項目)	小項目 (25 項目)
1 基本原則	① 子どもの主体的な活動の援助
	② 子どもの状況や要望に応じた支援
	③ 提供したサービスの記録
2 コミュニケーション	① 子どもの自己決定の促進・受け止め
	② 子どもの人格や価値観を尊重した対応
3 相談等の援助	① 子どもからの相談対応
	② 子どもの生活状況の把握、職員間の情報共有、支援への反映
4 健康管理	① 適切な服薬管理
	② 子どものケガや急病時の対応及び報告
	③ アレルギー疾患への配慮
5 自傷他害への対応	① 自傷、他害、物損などに対する適切な対応
	② 専門家の協力を得た支援方法の工夫
6 活動	① 活動メニューの多様性や、子どもが選んで参加できる仕組み
	② 子どもが自由に遊べる時間の確保
	③ 学習活動を自主的に行える環境整備
	④ 子どもの豊かな人間関係が育つような配慮
	⑤ 互いに認め合い尊重し合える人間性が育つための支援
	⑥ 障がいのある子どもが活動する際の支援
7 おやつを提供	① 質の高いおやつの提供
	② 子どもの嗜好や成長に合わせたおやつの提供
	③ おやつを楽しむことが出来るような配慮
8 施設環境	① 子どもが快適に生活するための施設環境の配慮
	② 施設内の清掃・整理
	③ 安全に活動するための設備・備品への配慮
9 来所・帰宅	① 子どもひとりでの来所・帰宅に対する安全指導

## (6) 事業者自己評価の基準

事業者自己評価は、下記の小項目の評価の視点（判断基準）を元にして、中項目と大項目の平均値を算出した。

### ◆小項目の評価の視点（判断基準）

#### [小項目の評価基準]

- 4 優れた取組が出来ている
- 3 おおむねできている
- 2 あまりできていない
- 1 まったくできていない

### ◆大項目は、平均値の値をもとに、下記のような基準により、4段階で評価した。

#### [大項目の評価基準]

- A = 大項目の平均値が 3.5 以上
- B = 大項目の平均値が 2.5 以上 3.5 未満
- C = 大項目の平均値が 1.5 以上 2.5 未満
- D = 大項目の平均値が 1.5 未満

◆小項目、中項目の評価点をつける中で気づいたこと、具体的な取り組みの事実などを勘案しながら、良いと思う点、改善が必要だと思う点について、コメントを記述できるようにした。

### 3. 利用者調査の考え方

#### (1) 目的

サービスについて利用者が日頃感じていることを把握し、サービス改善に向けた手がかりとしていくことを目的とする。

#### (2) 評価の対象

各児童育成クラブの利用者及び保護者を対象に実施した。

#### (3) 利用者調査の実施方法

インターネット経由で回答ができるWEBアンケートにより実施した。

「WEBアンケートによる回答方法」を、事業所から利用者へ直接配布し、記載されているURLもしくはQRコードからアクセスして回答していただいた。

#### (4) 調査項目

令和元年度の利用者調査における調査項目は、以下のとおりである。

調査項目	質問番号	質問事項
利用しているクラブの組織と運営について 【◆保護者◆】	Q1	クラブの理念や方針について、保護者に十分な説明や情報提供がありましたか。
	Q2	支援員は、育成支援に関する専門的知識や技術を有していると思いますか。
	Q3	出席確認や不審者対応など、来所時や帰宅時の安全確保に向けた取り組みがなされていると思いますか。
	Q4	クラブ内の部屋について清掃・整頓が行き届いていると思いますか。
	Q5	支援員は、お子さんや保護者の個人情報の保護・取扱いに注意を払っていると思いますか。
	Q6	学校との連携や情報交換が適切に行われていると思いますか。
サービス提供の手順について 【◆保護者◆】	Q7	支援員からクラブに関する内容等について、事前に十分な説明や情報提供がありましたか。
	Q8	あなたは、支援員同士の情報共有が十分になされていると思いますか。
	Q9	連絡帳やおたよりを通じて、お子さんのクラブでの様子が伝わってきますか。
	Q10	お子さんのクラブでの様子など、気になっていることを支援員に相談しやすいですか。
	Q11	クラブに関する意見や要望に対して、クラブ側が誠実に対応していると感じますか。

調査項目	質問番号	質問事項
子どもの発達援助について【◆保護者◆】	Q12	支援員は、おやつを楽しく食べられるように、さまざまな工夫をしていると思いますか。
	Q13	支援員は、遊びや生活を通して自主性や人間関係が育つような配慮をしていると思いますか。
	Q14	支援員は、お子さんが宿題や自習等の学習活動を自主的に行える環境を整えていると思いますか。
	Q15	支援員は、お子さんの成長にあわせて、基本的な生活習慣が身につくよう、配慮をしていると思いますか。
	Q16	季節の行事など、お子さんが楽しく過ごせるような工夫が計画的に行われていると思いますか。
	Q17	クラブにおける発熱など体調変化があった場合や、事故やケガが発生した場合に、処置や保護者への連絡が、適切に行われていると思いますか。
	Q18	支援員は、子どもの人権を尊重し、個人差に配慮しながら、お子さんと接していると思いますか。
	Q19	特別な支援が必要なお子さんが、他のお子さんと交流しやすいよう配慮されていると思いますか。
放課後うらっこクラブについて【◆保護者◆】	Q20	児童育成クラブと放課後子ども教室が交流活動をする「放課後うらっこクラブ」を知っていますか。
	Q21	放課後うらっこクラブの交流活動を評価するとしたら、どのような評価をしますか。
	Q22	Q21の評価をした理由を教えてください。（自由記述）
	Q23	今後の「放課後うらっこクラブ」の交流活動について、ご意見やご希望があればご自由にお書きください。（自由記述）。
児童育成クラブ内での問題点について【◆保護者◆】	Q24	お子さんは児童育成クラブでのことを話しますか。
	Q25	支援員は子ども同士のケンカ等があった場合、適切に対応していると思いますか。
サービス提供の 手順及び発達援助について【◇児童◇】	Q26	じどういくせいクラブのおやつはおいしいですか。
	Q27	じどういくせいクラブのへややトイレはきもちよくつかうことができますか。
	Q26	じどういくせいクラブはたのしいですか。
	Q28	じどういくせいクラブで、こまったことやいやなことがあったとき、クラブの先生は、どうしたらよいか、いっしょにかんがえてくれましたか。
	Q29	じどういくせいクラブの先生は、あなたのきもちをよくわかってくれますか。
自由記述【◇児童◇】		じどういくせいクラブについてかんじていることを、なんでもかいてください。

## (5) 利用者調査の基準

各質問について、利用者（児童）及び保護者が3段階で評価する。

回答結果を次のとおり点数換算し、全回答者の設問別平均点を算出する。

（-1点～1点の範囲）

### [回答の判断基準]

1	は	い	（肯定的評価）	⇒	1点	換算	
2	どちらともいえない		（中間的評価）	⇒	0点	換算	
3	い	い	え	（否定的評価）	⇒	-1点	換算

◆設問別平均点を基に、次のテーマ別に平均点を算出する。その結果を基に、「テーマ別評価」を行う。

### [ 評価区分 ]

評価者	テーマ	設問数	テーマ別平均点
◆保護者◆	利用しているクラブの組織と運営について	6問	-1点 }
	サービス提供の手順について	5問	
	子どもの発達援助について	8問	
◇児童◇	サービス提供の手順および発達援助について	5問	1点

### [テーマ別評価の算出方法]

- A 大変優れている : 設問別平均点が全て 0.75 点以上
- B 優れている : テーマ別平均点が 0.5 点以上  
(テーマ別評価Aとなる場合を省く)
- C 普通 : テーマ別平均点が 0.0 点以上 0.5 点未満
- D やや不十分である : テーマ別平均点が -0.5 点以上 0.0 点未満
- E 極めて不十分である : テーマ別平均点が -0.5 点未満

# 4. 公表・フィードバックの考え方

## (1) 評価結果の公表に関する考え方

### ① 評価結果の公表

事業者自己評価および利用者調査の結果は、「評価事業報告書」として、市のホームページ等で公表する。公表の範囲は、「クラブ・運営事業者のプロフィール」「運営事業者のサービス提供方針」「運営事業者による自己評価結果」「利用者による評価結果」をそれぞれ掲載する。

[公表フォームのイメージ]

**評価結果**

令和元年度 ○○小学校地区児童育成クラブ

◆クラブ・運営事業者のプロフィール

事業者の名称					
クラブの所在地					
クラブの連絡先	電話			F A X	
当該クラブの運営開始日					
開設場所					
定員/現在の利用者数 (令和2年1月末現在)	定員	人	利用者数	人	
職員数 (令和2年1月末現在)	常勤	職員数	人	うち、男性	人
	非常勤			うち、女性	人

◆運営事業者のサービス提供方針

サービスの提供にあたって大切にしていること	
-----------------------	--

I. 組織と運営

- 1 運営
- 2 人事
- 3 情報
- 4 適正な会計事務の執行
- 5 危機管理
- 6 個人情報保護

II. サービス提供の仕組み

- 1 利用希望者への対応
- 2 計画作成・見直し
- 3 サービスの標準化
- 4 苦情解決
- 5 保護者に対するサポート
- 6 人権の尊重
- 7 地域との連携・交流

III. サービスの内容

- 1 基本原則
- 2 コミュニケーション
- 3 相談等の援助
- 4 健康管理
- 5 自傷他害への対応
- 6 活動
- 7 おやつ提供
- 8 施設環境
- 9 来所・帰宅

◆運営事業者による自己評価結果

**児童育成クラブの自己評価(大項目評価)**

・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。  
 ・自己評価を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。  
 ・評価: 大項目平均値 3.5以上=A, 2.5以上3.5未満=B, 1.5以上2.5未満=C, 1.5未満=D

評価項目(大項目)	令和元年度(平成30年度)
I. 組織と運営	A (A)
II. サービス提供のプロセス	A (A)
III. サービスの内容	A (A)

※令和元年度より評価基準が変更になったため、平成30年度は参考値

**児童育成クラブの自己評価**

・各クラブの中項目の平均値と全クラブの平均値をグラフ化している。  
 ・平均値と比べることで、運営面やサービス面における本クラブの強み・評価: 4=優れた取り組みができて、3=おおむねできている

I. 組織と運営

II. サービス提供の仕組み

III. サービスの内容

◆利用者による評価結果

**児童育成クラブの利用者調査(テーマ別)**

・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。  
 ・当該クラブの評価結果を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。  
 ・評価: A=大変優れている, B=優れている, C=普通, D=やや不十分である, E=極めて不十分である

テーマ	令和元年度(平成30年度)
利用しているクラブの組織と運営について	A (A)
サービス提供の手順について	B (A)
子どもの発達援助について	A (A)
サービス提供の手順及び発達援助について	B (B)

◆設問別の評価について、本クラブと全クラブの回答(はいの割合)、前年度における本クラブの回答(はいの割合)を示しています。

I. 保護者の回答

利用しているクラブ組織と運営について

サービス提供の手順について

子どもの発達援助について

II. 児童の回答

サービス提供の手順及び発達援助について

12

## (2) 事業者へのフィードバックに関する考え方

### ① 事業者自己評価のフィードバック

事業者自己評価の結果については、サービスごとの全体集計結果と当該事業者の自己評価結果を対比できる資料を作成し、フィードバックする。これにより、事業者全体における当該事業者の位置づけが確認できる。

### [事業者へのフィードバックレポートのイメージ (自己評価)]

◆運営事業者による自己評価結果

#### 児童育成クラブの自己評価(大項目評価)

・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。  
 ・自己評価を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。  
 ・評価：大項目平均値 3.5以上=A、2.5以上3.5未満=B、1.5以上2.5未満=C、1.5未満=D

評価項目(大項目)	令和元年度(平成30年度)※
I 組織と運営	A (A)
II サービス提供のプロセス	A (A)
III サービスの内容	A (A)

※令和元年度より評価基準が変更になったため、平成30年度は参考値となります。

#### 児童育成クラブの自己評価(中項目評価)

・各クラブの中項目の平均値と全クラブの平均値をグラフ化しています。  
 ・平均値と比べることで、運営面やサービス面における本クラブの強みや弱みを把握します。  
 ・評価：4=優れた取り組みができていて、3=おおむねできていて、2=あまりできていない、1=まったくできていない

##### I. 組織と運営

##### II. サービス提供のプロセス

#### 児童育成クラブの自己評価(小項目評価)

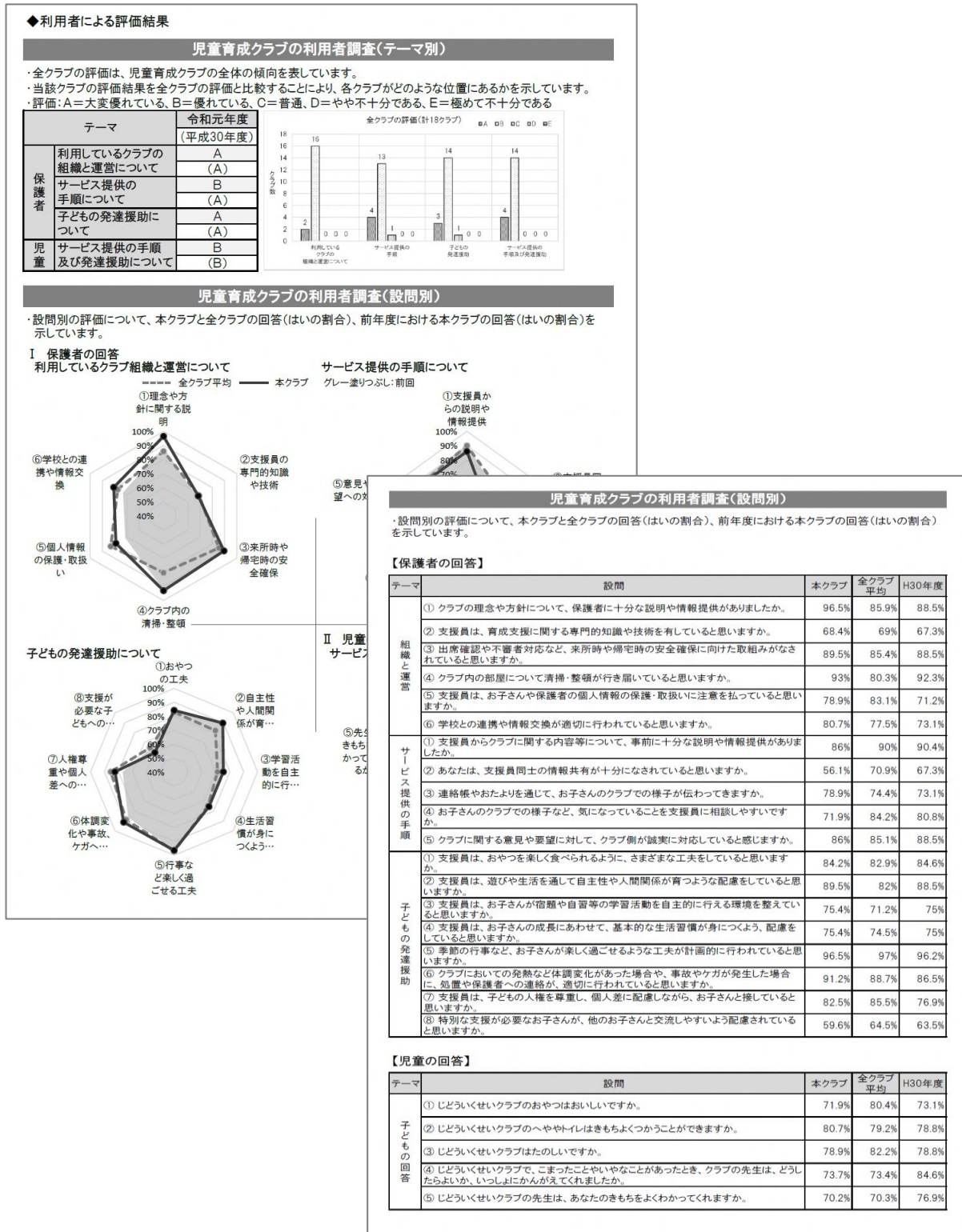
・各クラブの小項目の評価点と全クラブの平均値、平成30年度における評価点を示しています。  
 ・評価：4=優れた取組ができていて、3=おおむねできていて、2=あまりできていない、1=まったくできていない

大項目	中項目	小項目	自己評価	全クラブ平均	H30年度
I 組織と運営	1 運営	① 理念・方針の職員への周知	4	3.2	3
		② 重要な意思決定時における職員や利用者への説明	4	3.5	4
		③ 職員が意見や提案を発言しやすい雰囲気づくり	4	3.6	4
		④ 利用者意見に対する適切な対応	4	3.7	4
		⑤ 利用者意向の事業計画への反映	4	3.4	4
		⑥ 全職員でのサービス改善への取り組み	4	3.8	4
		⑦ 市との連携や情報共有	3	3.7	4
		⑧ 学校との連携や情報共有	4	3.6	4
	2 人事	① 職員研修の開催	3	3.6	4
		② 日常的な職員の意向把握	3	3.6	4
		③ 職員の適正な採用	4	3.5	4
		④ 指示・連絡・報告・相談の体制	4	3.8	4
3 情報	① 利用者の家族に対する定期的な情報提供	4	3.8	4	
	② 情報公開の仕組み	4	3.5	4	
4 適正な会計事務の執行	① 現金取扱いの際の複数チェック体制の構築	4	3.9	-	
	② 当施設の経費等の管理	4	3.9	-	
5 危機管理	① 災害・緊急時の対策	4	3.5	3	
	② 施設や設備の安全点検及び危険箇所への対処	4	3.6	4	
	③ ケガや急病に対する救護対策	4	3.6	4	
	④ 衛生管理(感染症の拡大防止)	4	3.8	4	
	⑤ 衛生管理(食中毒の防止)	4	3.8	4	
	⑥ ケガや事故の再発防止	4	3.8	4	
6 個人情報保護	① 守秘義務の研修	4	3.5	4	
	② 守秘義務のための取り組み	4	3.7	4	
	③ 個人情報利用の利用者への説明	4	3.7	4	
	④ プライバシーの確保	4	3.9	4	
II サービス提供のプロセス	1 利用希望者への対応	① 見学者の受け入れ、分かりやすい説明対応	4	3.8	4
		② 説明資料の読みやすさ	4	3.6	4
	2 計画作成・見直し	① 子どもや保護者の意見を反映した計画作成	4	3.6	4
		② 利用書への計画説明及び同意	4	3.5	4
		③ 実施計画の定期的な見直し	3	3.4	3
	3 サービスの標準化	① 個々のサービスに応じたマニュアル作成	4	3.5	4
		② 新人職員に対する実地指導	4	3.4	4
	4 苦情解決	① 苦情の受付体制、職員への周知、サービスへの反映	3	3.2	3
		② 苦情の迅速な解決	4	3.8	4
		③ 苦情に関する情報共有	4	3.7	4
	5 保護者に対するサポート	① 保護者からの相談対応	4	3.7	4
		② 虐待防止のための具体的な仕組み	4	3.6	4
	6 人権の尊重	① 家庭等の虐待兆候の早期発見及び見守り	4	3.7	4
		② 施設外での活動範囲を広げるための取り組み	4	3.5	3
7 地域との連携・交流	① ボランティア・実習生に対する事前説明	3	3.1	3	
	② 関係諸機関・団体との連携のための取り組み	4	3.5	4	
	③ 関係諸機関・団体との連携のための取り組み	4	3.5	4	

## ②利用者調査結果のフィードバック

利用者調査の結果については、当該事業者の項目別・分野別に見た利用評価が分かる資料を作成し、フィードバックする。ただし、個人情報や、サンプル数および回収数が極端に少なく、利用者が特定される可能性のある場合は、非公開とする。

### [事業者へのフィードバックレポートのイメージ（利用者調査）]





## 第2章 令和元年度児童育成クラブに係る評価結果

## 第2章 令和元年度児童育成クラブに係る評価結果

### 1. 調査の概要

#### (1) 事業者自己評価

①目的	事業所の職員がサービスの内容について振り返り、良い点、改善が必要な点を把握することを目的とする。
②対象	市が設置する児童育成クラブ17クラブ
③期間	令和2年2月17日(月)～令和2年2月28日(金)
④方法	事業者自己評価は、市が定めた事業者自己評価シートを使用して実施し、評価シートは、電子メールにより配布・回収した。

#### (2) 利用者調査

①目的	サービスについて利用者が日頃感じていることを把握し、サービス改善に向けた手がかりとしていくことを目的とする。
②対象	市が設置する児童育成クラブの利用者(児童)及び保護者
③期間	令和2年2月19日(水)～令和2年3月8日(日)
④方法	インターネット経由で回答ができるWEBアンケートにより実施した。 「WEBアンケートによる回答方法」を、事業所から利用者へ直接配布し、記載されているURLもしくはQRコードからアクセスして回答していただいた。

No.	児童育成クラブ名	事業者調査	利用者調査		
		回収状況	児童数	回答数	回答率
1	浦安小学校地区児童育成クラブ	○	85	57	67.1%
2	南小学校地区児童育成クラブ	○	250	110	44.0%
3	北部小学校地区児童育成クラブ	○	193	91	47.2%
4	見明川小学校地区児童育成クラブ	○	123	59	48.0%
5	富岡小学校地区児童育成クラブ	○	92	47	51.1%
6	美浜南小学校地区児童育成クラブ	○	85	44	51.8%
7	東小学校地区児童育成クラブ本室	○	92	52	56.5%
	東小学校地区児童育成クラブ分室	○	72	46	63.9%
8	舞浜小学校地区児童育成クラブ	○	150	70	46.7%
9	美浜北小学校地区児童育成クラブ	○	41	22	53.7%
10	日の出小学校地区児童育成クラブ	○	109	61	56.0%
11	明海小学校地区児童育成クラブ	○	90	53	58.9%
12	高洲小学校地区児童育成クラブ	○	143	79	55.2%
13	日の出南小学校地区児童育成クラブ	○	103	59	57.3%
14	明海南小学校地区児童育成クラブ	○	68	31	45.6%
15	高洲北小学校地区児童育成クラブ	○	102	51	50.0%
16	東野小学校地区児童育成クラブ	○	133	96	72.2%
17	入船小学校地区児童育成クラブ	○	133	70	52.6%
合計		17クラブ	2064	1098	53.2%

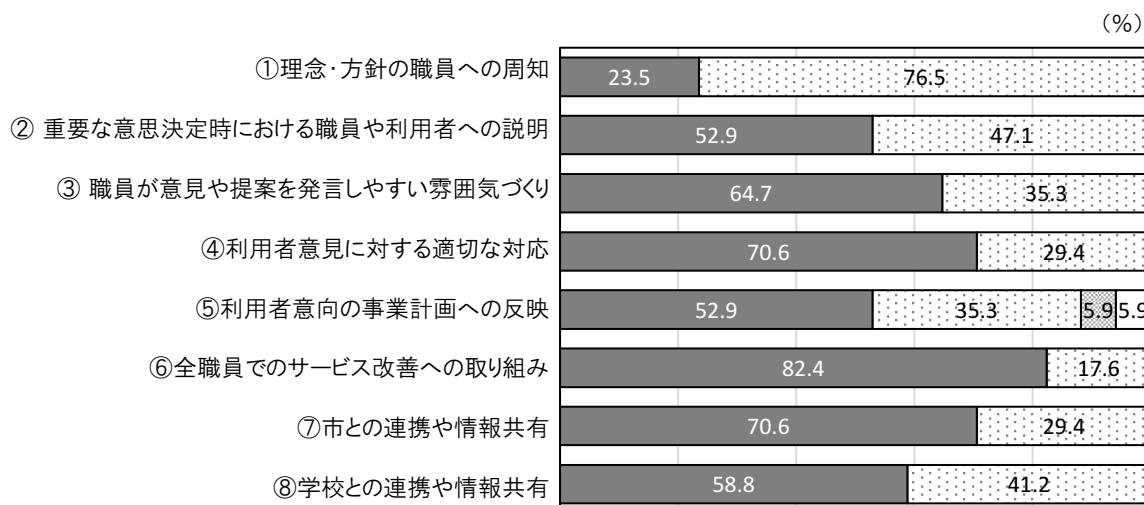
## 2. 事業者の自己評価の結果

事業者自己評価について、全 17 クラブの単純集計の結果は以下のとおりである。

### (1) 組織と運営

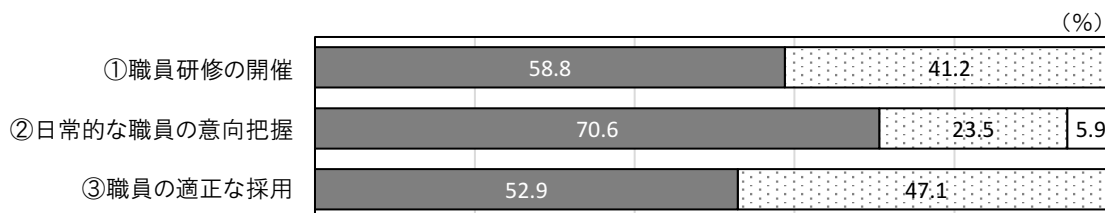
#### ①運営

■ 優れた取組ができている □ おおむねできている ■ あまりできていない □ まったくできていない



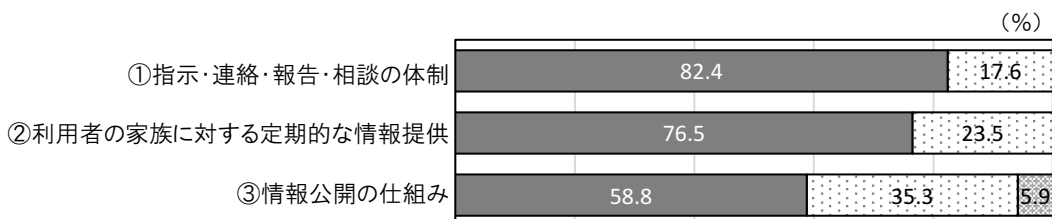
#### ②人事

■ 優れた取組ができている □ おおむねできている ■ あまりできていない □ まったくできていない



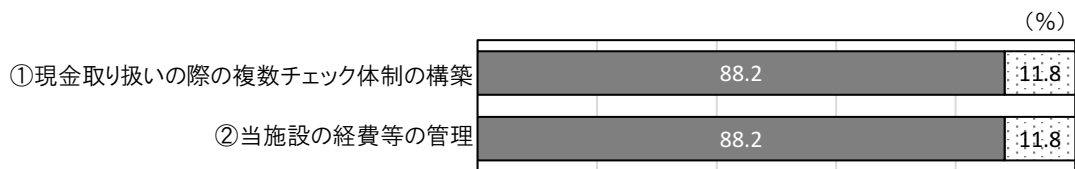
#### ③情報

■ 優れた取組ができている □ おおむねできている ■ あまりできていない □ まったくできていない



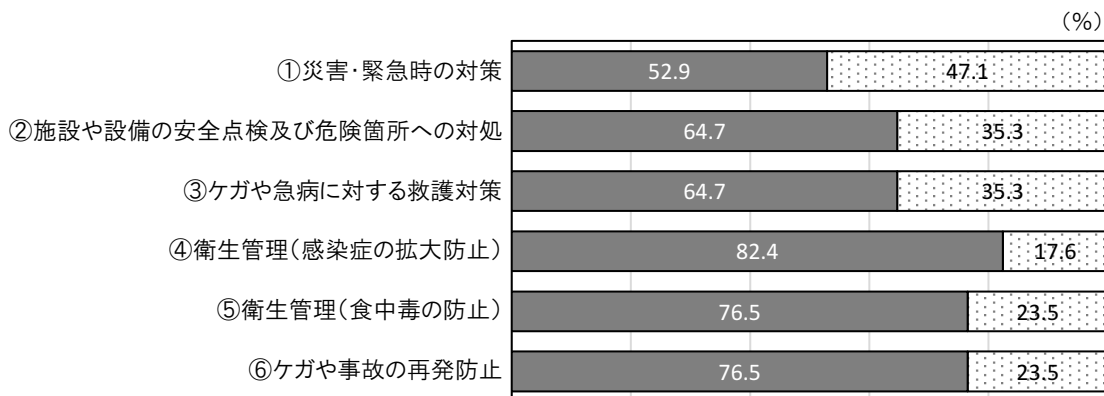
#### ④適正な会計事務の執行

■ 優れた取組ができている □ おおむねできている ■ あまりできていない □ まったくできていない



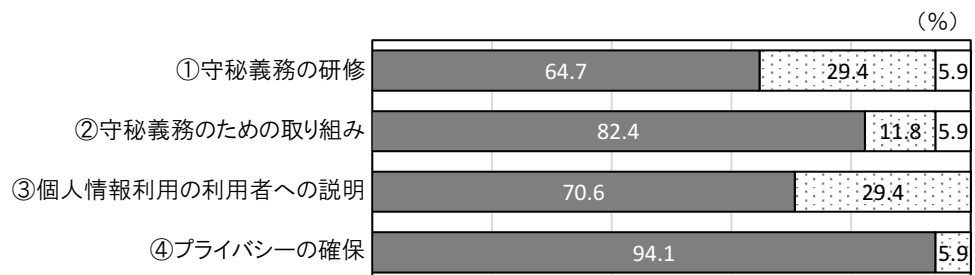
#### ⑤危機管理

■ 優れた取組ができている □ おおむねできている ■ あまりできていない □ まったくできていない



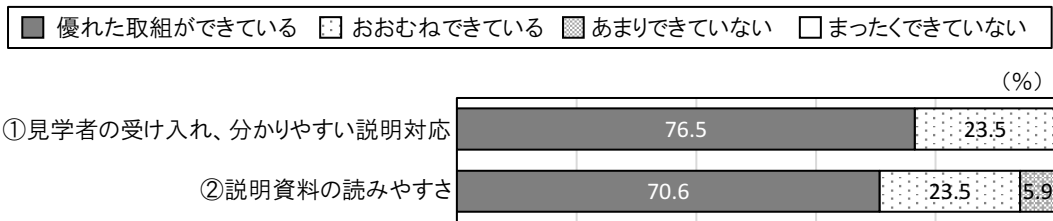
#### ⑥個人情報保護

■ 優れた取組ができている □ おおむねできている ■ あまりできていない □ まったくできていない

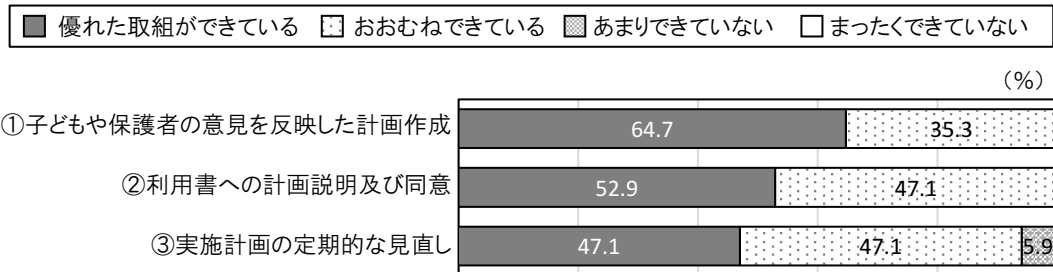


## (2) サービス提供へのプロセス

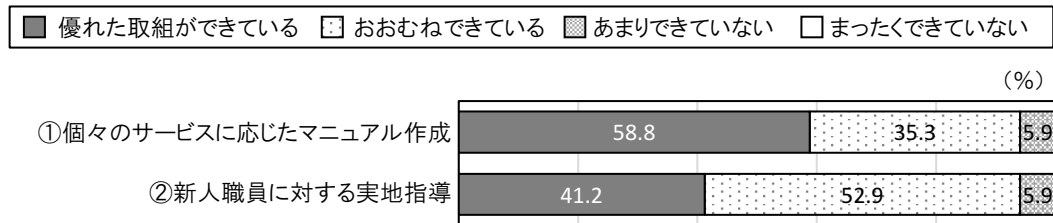
### ①利用希望者への対応



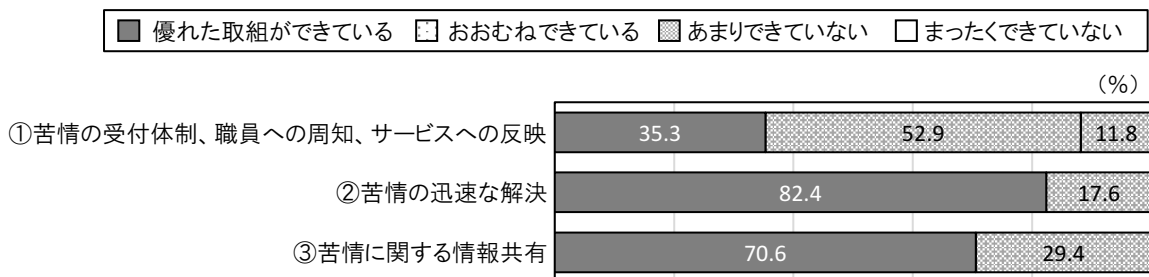
### ②計画作成・見直し



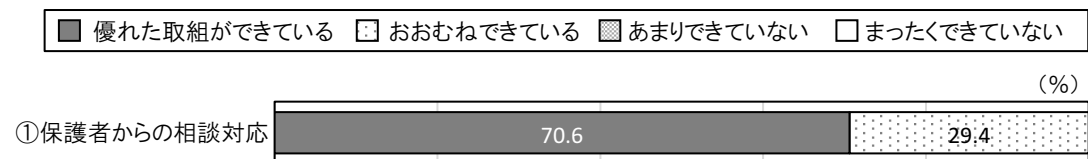
### ③サービスの標準化



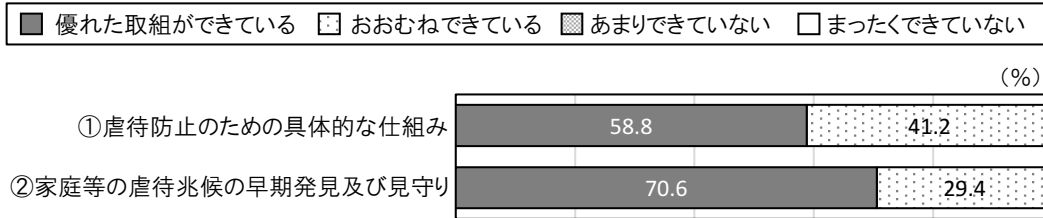
### ④苦情解決



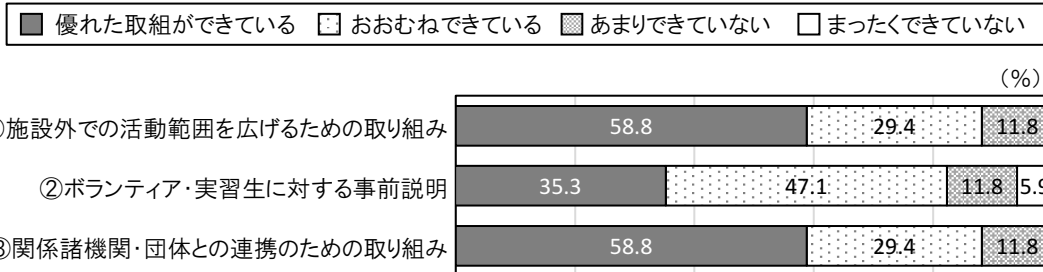
### ⑤保護者に対するサポート



## ⑥人権の尊重

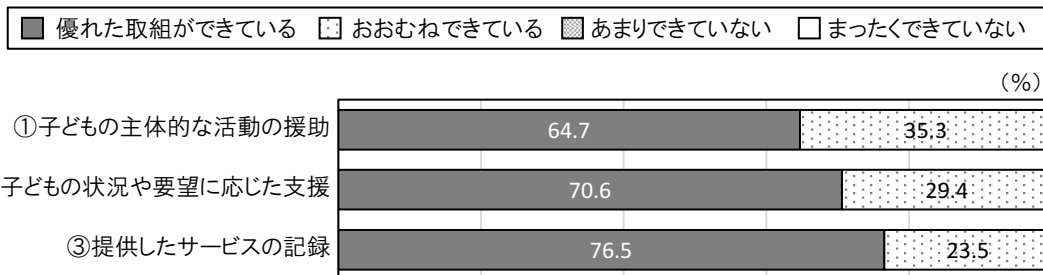


## ⑦地域との連携・交流

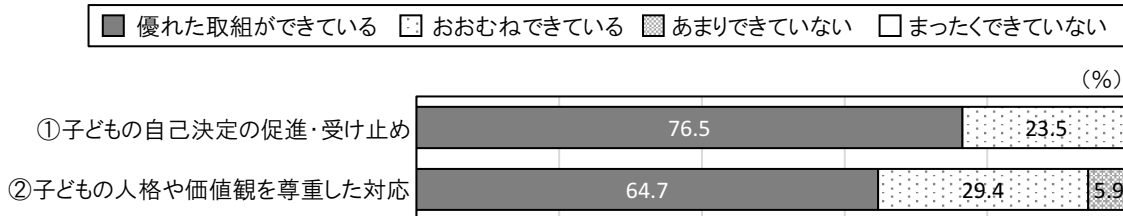


## (3) サービスの内容

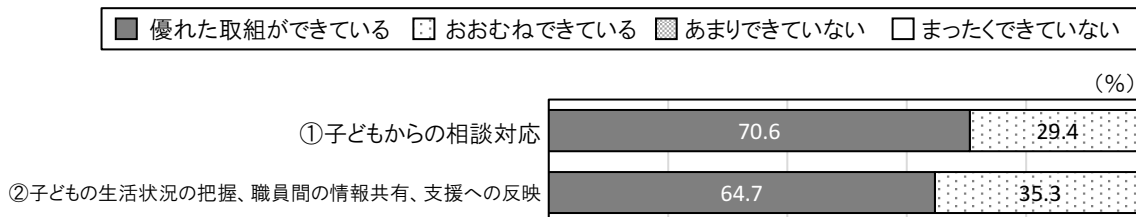
### ①基本原則



### ②コミュニケーション



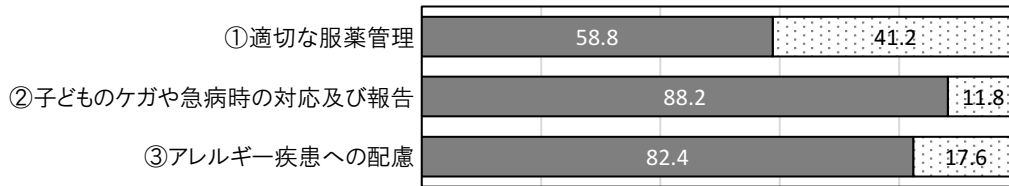
### ③相談等の援助



#### ④健康管理

■ 優れた取組ができている □ おおむねできている ■ あまりできていない □ まったくできていない

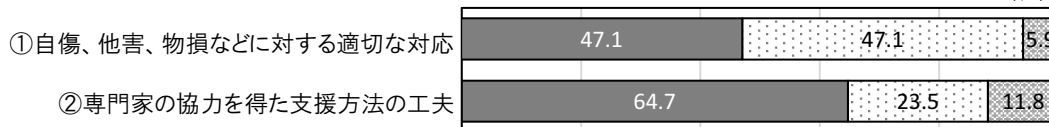
(%)



#### ⑤自傷他害への対応

■ 優れた取組ができている □ おおむねできている ■ あまりできていない □ まったくできていない

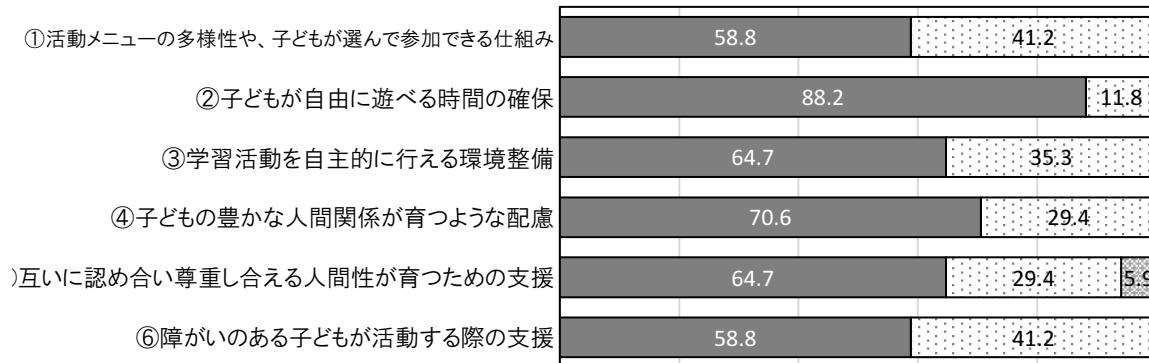
(%)



#### ⑥活動

■ 優れた取組ができている □ おおむねできている ■ あまりできていない □ まったくできていない

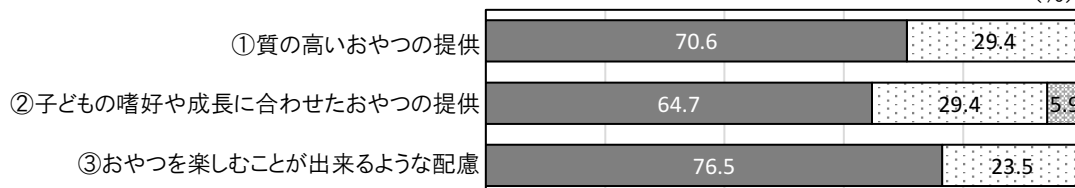
(%)



#### ⑦おやつを提供

■ 優れた取組ができている □ おおむねできている ■ あまりできていない □ まったくできていない

(%)



## ⑧施設環境

■ 優れた取組ができている □ おおむねできている ■ あまりできていない □ まったくできていない

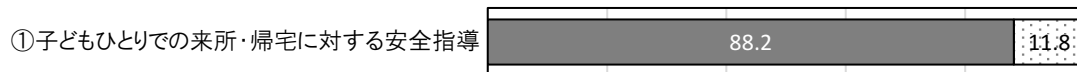
(%)



## ⑨来所・帰宅

■ 優れた取組ができている □ おおむねできている ■ あまりできていない □ まったくできていない

(%)



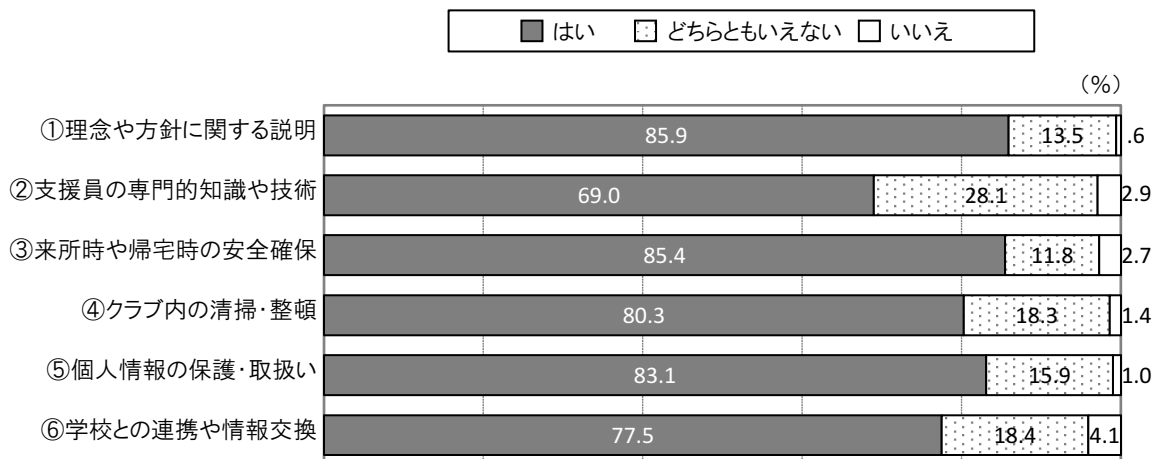


### 3. 利用者調査の結果

利用者調査について、全回答者の単純集計の結果は以下のとおりである。

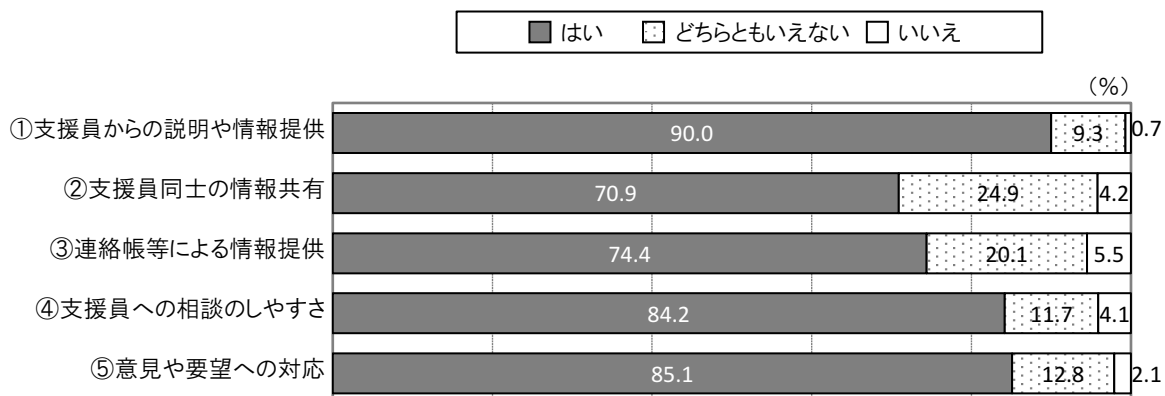
#### (1) 利用しているクラブの組織と運営について

【保護者の回答】 回答者数：1098件



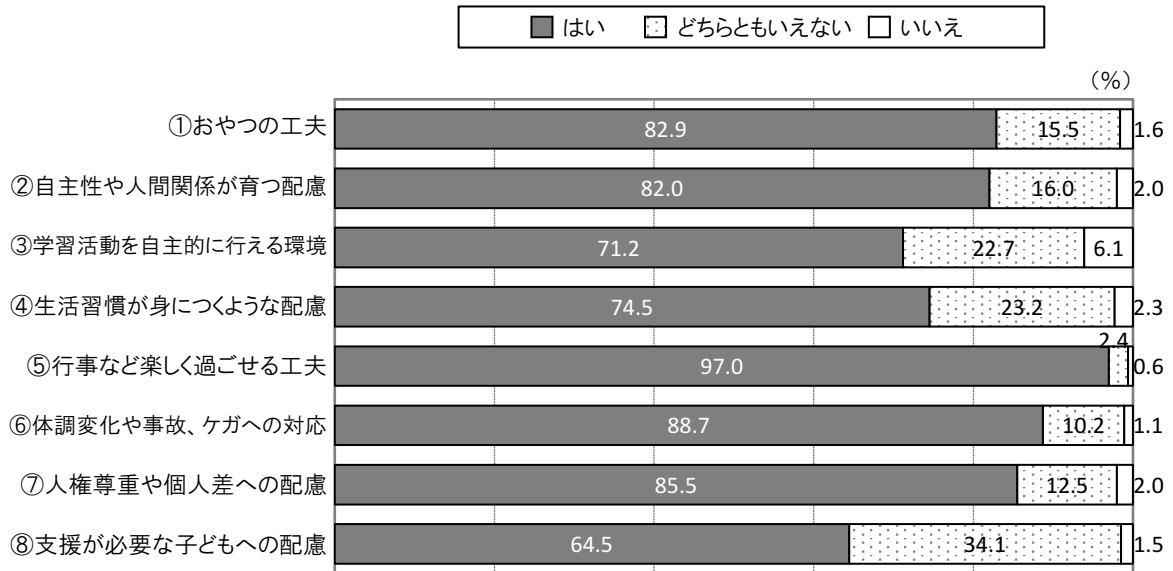
#### (2) サービス提供の手順について

【保護者の回答】 回答者数：1098件



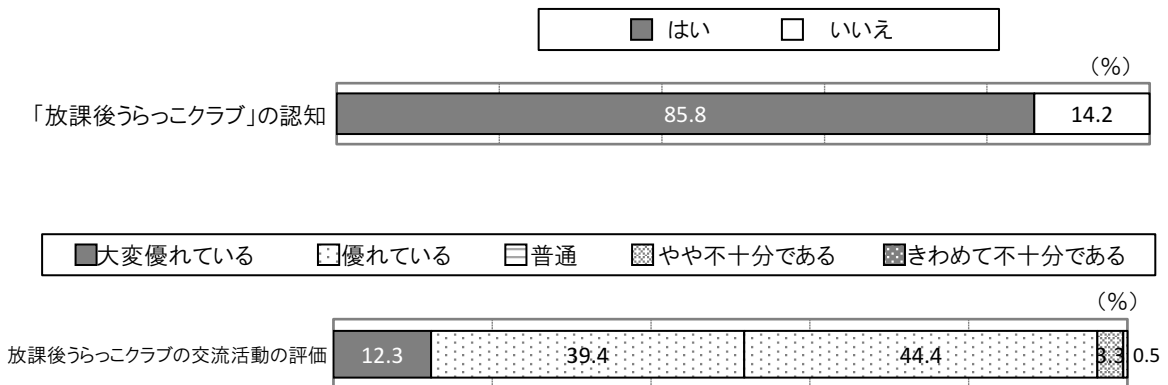
### (3) 子どもの発達援助について

【保護者の回答】 回答者数：1098件



### (4) 放課後うらっこクラブについて

【保護者の回答】 回答者数：1098件



<放課後うらっこクラブの交流活動の評価の理由（自由回答）>

「1. 大変優れている」評価の理由

理由	件数
子どもが楽しそうに通っている	35
色々なイベントや遊びがある	22
色々な子どもと交流ができる	21
安全に遊べる	9
先生がよくみてくれている、対応がよい	9
児童育成クラブとの連携がとれている	6
児童育成クラブと両方利用できる	5
放課後に遊べる場所を提供してくれる	5
ランドセルのまま行ける、お昼に一時帰宅しなくても利用できる	4
お弁当を持っていける	2
いつも利用している	1
受入体制がしっかりしている、広く受け入れている	1
その他	2

その他の回答

開所時間が長いこと	1
多くの児童が参加しているのを目にするため	1

「2. 優れている」評価の理由

理由	件数
子どもが楽しそうに通っている	74
色々な子どもと交流ができる	71
色々なイベントや遊びがある	70
放課後に遊べる場所を提供してくれる	22
ランドセルのまま行ける、お昼に一時帰宅しなくても利用できる	14
安全に遊べる	13
先生がよくみてくれている、対応がよい	9
児童育成クラブとの連携がとれている	7
児童育成クラブと両方利用できる	6
あまりよく知らない、利用していない	5
良い取組みだと思う	5
受入体制がしっかりしている、広く受け入れている	3
いつも利用している	1
開所時間が短い	1
場所がせまい	1
一部の児童しか利用していない	1
活動内容に偏りがある(女の子向け、低学年向け等)	1
その他	6

その他の回答

楽しく遊ばせて頂いてるが、以前あったバドミントンや卓球をまたやりたいと子どもは言っています。	1
月毎に活動内容の手紙が配布され、また、活動内容もいくつか選べるところが良いと思います。	1
柔軟に対応できていると思うから	1
特に不自由に思ったことはないの	1
内容や場所など事前に提示してくれるから。	1
保護者からの意見を考慮して	1

### 「3. 普通」評価の理由

理由	件数
あまりよく知らない、利用していない	180
子どもが楽しそうに通っている	5
色々な子どもと交流ができる	5
開所時間が短い	5
場所がせまい	4
子どもが興味を持っていない、行きたがらない	4
交流が出来ていないように思う	4
マンネリ化している、飽きて行かなくなった	3
安全に遊べる	1
放課後に遊べる場所を提供してくれる	1
一部の児童しか利用していない	1
児童育成クラブの方がよい	1
学校や児童育成クラブと連携していない	1
良い取組みだと思う	1
その他	11

#### その他の回答

あまり交流だからと気にした事がなく、子供も特に何も言っていないのでいつも通りなんだと思い、普通にしました。	1
各市町村で行われているモデルがあり、今後も改善の余地があると思う。児童育成クラブ、浦っコクラブ、自宅から学校に遊びにきている子供の分断がなくスムーズな時間の設定があるといいと思う。	1
児童育成クラブから放課後子ども教室に行く日があるので。	1
活動場所の提供としてはとても良いと思います。放課後子ども教室での活動とても楽しく参加しているようです。ただ、どうしても児童育成クラブとの交流を考えると場所の狭さや児童たちの密集具合が気になります。	1
現在多数名児童育成クラブ利用している児童もいるし、交流があってもなくてもどちらでも構わないと思います。	1
高学年の子供達も遊べる工夫があっても良い	1
地域の方が保育をしているイメージで子どもが行きたがらない。台風の後が開いているかどうかなどリアルタイムで開所しているかどうかかわからず、共働きの身としては預け辛い。	1
自分の通う小学区には無く、学区外に低学年の子供では行けないため。	1
自分の通う小学校は人数が多いから、利用するのに人数に限りがあると聞いたことがあるから。	1
利用方法がわからない	1
良い取組みだと思います。ただ、通所が分室で、交流活動に参加する為には、通所後に再度小学校まで歩いて移動しないとイケない為、うちの子は移動が面倒という理由で参加した事はないようです。一度育成クラブに行かず、直接交流場所に行ってもいいのであれば参加したいと話しています。	1

「4. やや不十分である」評価の理由

理由	件数
あまりよく知らない、利用していない	10
交流が出来ていないように思う	5
活動内容に偏りがある(女の子向け、低学年向け等)	5
開所時間が短い	2
子どもが興味を持っていない、行きたがらない	1
その他	5

その他の回答

横浜や都内などは一度帰宅せずにも放課後クラブに行けるが、浦安市は行けない。パートなど15日以上勤務がなければ家庭は児童育成クラブも入れず、低学年子供の安全が不十分。母の勤務の日は直接うらっこに行けるか、児童育成クラブの入室条件を保育園の週64hと揃えるなど配慮をお願いしたい。	1
児童育成クラブとの行き来ができない点が残念	1
帰宅後などから参加しづらい。保護者向け説明会もない	1
交流があることよってのメリットがあるとおもえない。マンモス校なのでこどもたちの安全を守りきれるとおもえない	1
別に交流しなくてもいいのでは？	1

「5. 極めて不十分である」評価の理由

理由	件数
その他	5

その他の回答

運営事業者が異なるせいか、交流は皆無である。放課後子ども教室の職員の意欲が全く感じられない。	1
何をしているか、不明です。子どもには、(分室)に行くとしか言っていないと思われます。	1
児童育成クラブとは、やはり違う。	1
子どもが交流しているという話を聞いたことがないから。	1
施設内の狭さ。新しい施設を作り、多数の生徒の利用促進を見込んだと思いますが施設が狭くて利用者みんなと一緒に一つの部屋で遊ぶ、昼食をとるのは危険を伴うのではないのでしょうか。せっかく作った施設なのに有効活用ができていないと感じます。	1
自主的な場所なので友達がいないと1人になる。おやつが、でない！監視員が居ても指導員がいないので、1人の子は、独りになる、低学年には、向かない 食事スペースをつくられても、1人だけならさみしい思いをする	1

<放課後うらっこクラブの交流活動についてのご意見やご希望（自由回答）>

活動に対する感謝やお礼

1	今まで通りで大満足です。
2	先生方、いつもありがとうございます。
3	いつもありがとうございます！
4	いつも、助けていただいて助かってます
5	支援員の大人も居てくれて安心しています
6	支援員の皆様に適度に誘っていただけのおかげで、インドア気味の子どもも無理なくお友達と外遊びができているようでとても感謝しています。
7	ランドセル通所が出来る様になった事が、非常に助かります。

情報の周知

1	利用方法を知りたい
2	周知される活動をして欲しい
3	自身が途中から関わった経緯があり状況把握しづらいため、支援員さんたちのご負担のない範囲で交流活動が把握できる情報元を教えてくださいと嬉しいです。
4	子供にもわかりやすく活動内容について説明がほしい
5	活動内容を詳しく知りたい
6	何をやっているのか明確にして欲しい。
7	どんなものなのかを知らせる活動をしてほしい
8	いつどのような交流活動をしているのかわからないので、おたよりで知らせてほしい
9	もう少しどんな場なのか、どうやって利用すればよいのか説明がほしいです。
10	活動予定はおたよりが来るが、利用状況や活動報告についても、定期的におたよりがくると、よりわかりやすくなるのでは。
11	ランドセル登所等、ルールがわかり辛いです。

継続希望

1	長く継続していただきたい
2	継続して下さい
3	継続いただきたいです
4	引き続き交流活動をしてほしい。
5	引き続き活発な交流をお願いします
6	引き続き、よろしくをお願いします
7	引き継ぎ、今の状態を維持してほしい。
8	ぜひ続けてほしいと思います、
9	ぜひ続けてほしい
10	ぜひ継続していただきたい。
11	このまま続けて欲しいです。
12	現状通りでいいと思います。
13	これまで通りよろしくをお願いします
14	特にありません。今まで通り子供達が楽しく過ごせる様をお願いします。
15	子供たちが楽しんでくれれば なんでもいい。
16	子どもが楽しめる活動を今後も期待したい。

## 学習機会の提供

- 1 遊べる場だけではなく、勉強や宿題ができる空間もあると良いです。
- 2 遊ぶだけでなく、本読みや勉強できるスペースもあるといいと思いました。また、長期休みの時の食事できる点はとてもいいと思いました。
- 3 遊びの中でも英語など学習に関係する事を取り入れて頂けると嬉しい
- 4 習い事の困難の子の為に、学習サポートになればと願う。漢字大会とか、計算大会とか、字の書き方、お習字が出来る場所としてなら友達がいなくても通いやすい
- 5 高学年の児童が自習できる環境がほしい。昼食を持参して勉強ができるとさらに嬉しいです。
- 6 記入欄が他にないので、こちらに書かせていただきます。市内のほかの児童育成クラブでは、通所後すぐに宿題をしてから遊ぶことになっているところが多いようですが、通所するクラブはそうではなく、学習時間が4時半に設定されているので、習い事などの都合で学習時間より前に帰宅する子供は、宿題をしていません。たっぶり遊んで、習い事に行き、帰宅後に宿題をするのは、低学年の子供にとっても大変なことですし、お友達が遊んでいる時間に、自分だけ宿題をするのは嫌なものだと思います。仕事を持つ親が帰宅後、調理や家事をしている間に子供が一人で宿題をするのは難しいですし、宿題をし始める時間が遅くなれば、集中力も下がって時間がかかってしまい、就寝時間も遅くなってしまいます。どうか、通所後すぐに宿題をするように指導していただきたいと思います。
- 7 うらっこクラブができてから、児童育成クラブで宿題をやる時間をとってくれなくなった。児童育成クラブにきておやつを食べるとすぐ遊び。生活リズムを全く癖つけてくれてない。児童育成クラブに言っても何も改善してくれない。

## 食事やおやつの提供

- 1 別料金で構わないので、下校時間の早い時や学校の長期休み時、お弁当の申込とその食事場所の提供、おやつの提供があると大変助かる(両親共に就労しているのが、高学年になると塾や習い事で児童育成クラブに毎日通う必要までではなくてくるので代替場所になると非常に安心だし助かる。)
- 2 おやつがあったらいいなと子どもがいます

## 色々な子どもたちとの交流

- 1 隣接する校庭をさらに生かして、児童育成クラブともっと交流するとよいと思う。
- 2 普段遊ばないお友達とあそべたら、なお楽しく過ごせると思います。
- 3 普段遊ばない子とも遊べるのでたくさん交流の機会があればいいなと思います
- 4 他学年や他地域との交流も継続して実施いただきたいです。
- 5 交流することで、子供達の気分転換、新しい刺激や交遊関係を気づくことを期待したい。
- 6 月1回程度の交流活動があるとなお良いと思います。
- 7 児童育成クラブ通所有無で、遊ぶメンバーが限定されず良い取り組みと思います。
- 8 児童育成クラブの子ともっと一緒に遊べると良い
- 9 児童育成クラブとの交流イベントを増やして欲しい
- 10 学区内交流を期待します。
- 11 イベントがあるタイミングでは、ぜひ交流活動を実施してもらいたい。
- 12 導線が悪いので、交流しやすいように、児童育成クラブから放課後クラスに行けるようにすると良いと思う。現在は一度公道にでてから学校内に入る必要がある。
- 13 児童育成クラブでない子との交流にもなり、いいと思います。
- 14 もっと盛んに交流してほしい

## 活動内容について

- 1 児童たちが体をのびのび動かせる安全な遊び場として校庭をもっと活用して、交流活動を今後も続けていければ児童育成クラブ以外のお友達ともたくさん遊べるのかなと思っております。
- 2 子供が飽きない環境が出来るといいのですが、なかなか難しいのかもしれないね。
- 3 学年を超えて楽しめる制作等のイベント。大学生の協力を得たりしながら勉強を楽しみながら出来る環境作り
- 4 子供が児童育成クラブへ行かなくても、楽しく過ごせるスポーツ大会などがあると嬉しい。(昔の子供会のような)
- 5 遊びの幅を広げても良いと思います。
- 6 友達がいない子でも楽しめるといいと思います。
- 7 体育館で運動の日など曜日によってあれば喜ぶと思う
- 8 マット運動が充実できると良いと思う。
- 9 ボランティア講師的な人に来てもらうなどして、活動の幅を広げてみてもいいかも。中高大学生の運動部や、文化部とかその経験者とかに来てもらってとか。
- 10 さらに活発に交流してほしい。学校の校庭で遊んだり、さらにできると良い。
- 11 これからも色々な行事を頑張ってください
- 12 以前通っていた小学校は体育館で活動を行っており、体を動かすのが好きな子供は大好きだったが、今の小学校は教室での活動であり楽しくないからもう行かないと言っている。
- 13 もっと外遊びなど活発な子供達にも魅力のある内容があればいい。東野児童センターなどすごくいい例である。
- 14 書き方教室や卓球教室に参加できたらよい。
- 15 色々な工作を今後も提供して下さい
- 16 水遊びやどろ遊びになど家でできないダイナミックな遊びをもっとしたい

- |    |                               |
|----|-------------------------------|
| 17 | 工作を楽しみにしている                   |
| 18 | 決まったイベントなどがあればもっと活用されるのかもしれない |

#### 児童育成クラブとの連携

- |    |   |
|----|---|
| 1  | 児童育成クラブ生も使いやすくしてほしい   |
| 2  | 児童育成クラブの先生もうらっこクラブに関わってくださると、行きやすくなると思う   |
| 3  | 児童育成クラブと放課後こども教室が、離れたロケーションである事がネックかと思えます。指導員の先生が引率の上で移動になるため、習い事等で帰宅時間に制限のある子はなかなか行けず。   |
| 4  | 児童育成クラブとうらっこクラブの行き来をもっと自由にしてもいいのでは。難しいかもしれないが、児童育成クラブとうらっこクラブの部屋を一緒にするなど。   |
| 5  | 児童育成クラブとうらっこクラブが合体してくれると、学校に通っている友達みんなと遊べるので、そうしてほしい(児童育成クラブに通っている子は児童育成クラブの友達としか遊べないの)   |
| 6  | 児童育成クラブとうらっこクラブが行き来できたらいいなと思います。  |
| 7  | 学校、児童育成クラブときちんと情報共有、連携をしてほしい。子どものトラブルを放置しがち。感染症対策をしっかりしてほしい。  |
| 8  | うらっこクラブとの連携を強化して、預かり時間等児童育成クラブと同様にさせていただけると、高学年になっても利用しやすいと思います。  |
| 9  | 【Q6 学校との連携や情報交換が適切に行われていると思いますか】の件です。学校側は、児童育成クラブに関与しようとしません。その対応に、児童育成クラブも困っている様子です。お役所の縦割りだから仕方ないのかもしれませんが、子供が一時行方不明になった際に、全く連携しようとせず、お粗末な対応でした。改善を求めます。(特に学校側に対して) |
| 10 | 児童育成クラブに通っていない児童と通っている子がもう少し一緒に遊ぶ機会があるとよいと思います。   |
| 11 | 児童育成クラブとの連携を続けてほしい  |
| 12 | ランドセルのまま行けて、放課後うらっこクラブへの入退室のメールが届くと安心。  |
| 13 | 夏は17時半ごろまでの開室だとうれしいです。  |
| 14 | 児童育成クラブと連携していただけるのはありがたいです。   |

#### サービス内容について

- |    |   |
|----|---|
| 1  | 6時までやって欲しい  |
| 2  | 5,6年生になって児童育成クラブを利用できなくなった長期の休みに利用したいので これからの進展に期待しております  |
| 3  | お弁当も食べられるようになったことはとても助かりそしてこどもも嬉しそうです。  |
| 4  | 行事等運営側の意欲と努力を感じる。   |
| 5  | 行きたい時だけ、行けるというスタンスがいいと思う。   |
| 6  | もう少し自由に行き来できるとよい  |
| 7  | もう少し頻度があると嬉しいです。  |
| 8  | もっといろんな学年が楽しめるように工夫してほしい  |
| 9  | 高学年の為に 開所時間、利用目的に配慮した環境、居場所作りをお願い致します。  |
| 10 | 高学年の子も楽しく参加できることがあるといいと思います。  |
| 11 | 高学年は児童育成クラブに入れないので、高学年でも入りやすい雰囲気であってほしい。もしくは長期休みのみ児童育成クラブに高学年も入れてほしい。   |
| 12 | 子供が利用しやすい仕組みづくりが必要  |
| 13 | 日曜日の開設も希望   |
| 14 | 通常は、児童育成クラブ利用のため、年に数回しか行く機会がありませんが、低学年時は楽しかったようです。高学年も積極的に利用しやすい環境があると嬉しいです。  |
| 15 | 本人がうらっこクラブに行きたい時に行ける環境を作ってほしいです。他の児童育成クラブでは、本人の意思で児童育成クラブから行ける環境だと聞きました。何故、ここではできないのか。以前、質問しましたが 人数が多いからとお答えいただきました。でも、他の児童育成クラブでも人数が多いのは 同じ事だと思います。こちらの児童育成クラブでは対応できないという回答は疑問でしかないです。 |
| 16 | ランドセル通所が可能になったので、児童育成クラブに通わない子供や長期休みの時のお弁当持ちが出来ることは評価できる。児童育成クラブとの交流をもっと増やしてほしい。  |
| 17 | ランドセル入所をカードなしでも親の一筆があれば入れるなどフレキシブルに対応して欲しい  |
| 18 | 児童育成クラブ退所後も大差なく利用できるようにしてほしい(特に夏休みなど)   |
| 19 | 児童育成クラブが6年までになったとはいえ、5,6年生の定員があるわけではなく、1から4年生を優先している。その点で、5,6年生がそのまま児童育成クラブに在籍する事は難しい。そうなった時、放課後クラブを利用する時、同じ学年の子はいるのか？5時過ぎた後、夜7時までどうしたらよいのか？色々な不安がある。                                   |
| 20 | 児童育成クラブを卒業した5,6年生のときに過ごせる場所として受け入れてもらえるとうれしいなと思います  |
| 21 | 交流活動ではないですが、希望者は6年生まで確実に児童育成クラブに入れるようにして頂きたいです。そうでなければ、安心して仕事が続けられません。  |
| 22 | 全学年の子供たちが楽しく遊べるような場所にして欲しいです。   |
| 23 | 男の子がもっと楽しめそうな環境にさせていただけると利用しやすい。  |
| 24 | 長期休暇のお昼も帰宅せずに利用できるようになり、児童育成クラブを卒業しても大人の目のある居場所があるのは保護者としては非常に助かる。  |
| 25 | 親は子供が間違いなく放課後うらっこ広場にいるのか確認できるようにしてほしい。児童育成クラブの利用のようにWEBで通所、帰宅が親に通知される仕組み、親が子供の所在を問い合わせられる仕組みを作って欲しい。  |



- |    |  |
|----|--|
| 26 | 小学5年生が児童育成クラブに入れなかったら、うらっこクラブに毎日お世話になりますが、児童育成クラブのように通所・退所のランドセルカードを導入してほしい。小学5年生の高学年とはいえ家の鍵を管理させるか否かは個人差があるため、児童育成クラブに入れられない子供の家の代わりとなる安全な場所を提供してほしい。ランドセルカードの連絡によって、働いてる親も子供の行動を確認できてありがたい。児童育成クラブに入れない高学年生にとっても、その親にとっても、より安心・安全の場にしてもらいたい。 |
| 27 | 直接参加させていただけると助かります。  |
| 28 | イベントは 記入用紙の提出がないと交流できないみたいなのですがそれが記入用紙の他に親の了解さえあれば出来ると良いと思うのですが  |
| 29 | 6年生まで行きやすい空間であると、今後子供が成長した時に親としては嬉しいです 留守番や部活などであまり親の手もいらぬ年齢にはなりますが、家以外にも行ける場所があると思っていると安心できます   |

#### 施設について

- |   |  |
|---|--|
| 1 | 施設の狭さを指摘しましたが、建設してしまった以上はどうにもならないので違う利用方法を検討した方が良いのではないのでしょうか。放課後うらっこクラブの場所を以前使用していた児童育成クラブ分室に移動するなど。現在の施設で一日どれくらい利用者数があるのかなど精査して検討していただきたいです。 |
| 2 | 入り口がややこしい。   |
| 3 | 人数に対して、狭小空間  |

#### 管理体制について

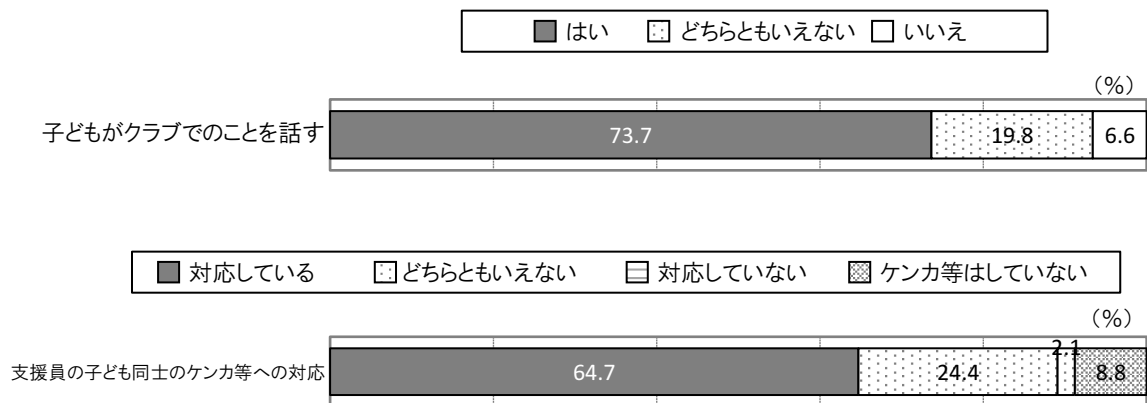
- |   |  |
|---|--|
| 1 | 教室に大人の目がないときに、イジメたりする子がいるようなので、教室には交代で大人がいてほしい。  |
| 2 | 個人的には同じ児童育成クラブの子ども同士で交流してくれる方が、安心できます。クラブの垣根を超えて交流する意味もわかりますが、トラブル等しっかり対策、対応していただければと思います。   |
| 3 | 先生のことを ○○ちゃんや、○○と呼びつけにしていることが、多くの生徒がしていることが気になります。教員免許をもってるなど関わらず、面倒を見てもらってる方にそういった環境を作ることはあまり良いとは思いませんので、改善してくれることを望みます。  |
| 4 | 先生方も大変だと思うので無理強い出来ない。  |
| 5 | お迎えにいくと、親が連絡帳に書いていたことを知らない先生や、先生からお話があると連絡帳にあったのに、聞いてみると知らない先生がいたり、その先生が居なかったり、、連携はどのようにになっているのだろう。と思いました。一から説明を何重にも先生方にしなくてはならないことが以前あり、担当の方しか知らないようにして下さっているのかはわかりませんが、○○さんがお迎えに来たら担当を呼ぶように、との先生方の声かけなどの連携をとっていただけたら、と思いました。 |

#### その他

- |    |   |
|----|---|
| 1  | 自分の小学区に作って欲しい。  |
| 2  | 多くは望みません。   |
| 3  | よくわかってないので、わくわくのことでしょうか？  |
| 4  | 一緒に遊ぶ機会が増えて、子供が喜んでいるため。   |
| 5  | 何か参観できればと思います   |
| 6  | 果たして必要なか不必要なのかわからない。  |
| 7  | 児童育成クラブと同じ時間帯開けてほしい。  |
| 8  | 児童育成クラブと同等に近づく内容を希望。  |
| 9  | 楽しいと子どもが言っている   |
| 10 | 機会があれば利用させたい  |
| 11 | 具体的に拝見したことはないので、よく分かりません。   |
| 12 | 交流の前にやるべきことをやって下さい。このアンケートの結果は、児童育成クラブに行かなくなったら知らされないのですか？アンケートを行う時期が違うと思います。 |
| 13 | 今後はこどもが利用できるようにしていきたいと考えている   |
| 14 | 児童育成クラブとの違いが分からない   |
| 15 | 児童育成クラブとの機能分担がよくわかりません。   |
| 16 | うらっこクラブは今HPで理解したのでコメントできません。  |
| 17 | うらっこクラブに直接行けるようになり、楽しくなったようです。  |

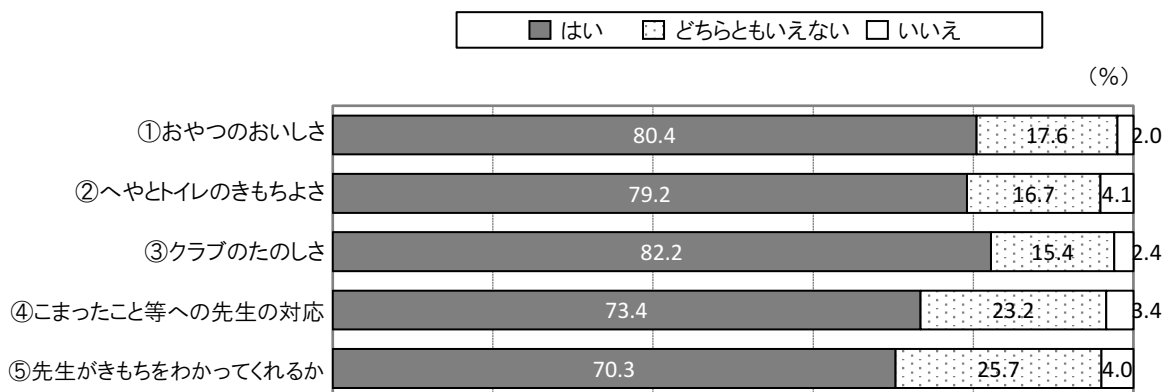
(5) 児童育成クラブ内での問題点について

【保護者の回答】 回答者数：1098件



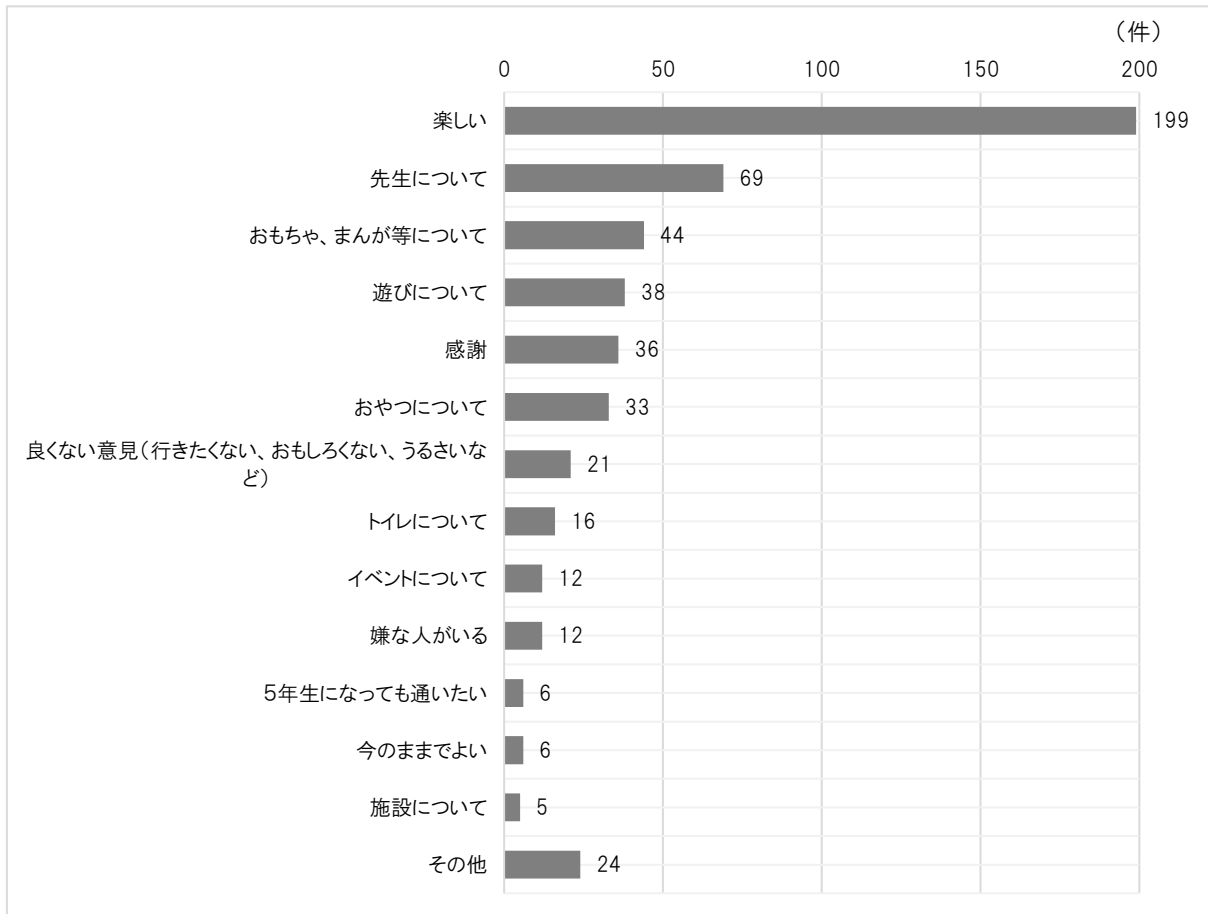
(6) サービス提供の手順および発達援助について

【児童の回答】 回答者数：1098件



じどういくせいクラブについてかんじていることを、なんでもかいてください。（自由回答）

【児童の回答】 回答者数：488件 ※複数回答のため合計件数は異なります。



#### 4. クラブ別評価結果

---

---

評価結果

令和元年度

浦安小学校地区児童育成クラブ

◆クラブ・運営事業者のプロフィール

事業者の名称		株式会社セリオ							
クラブの所在地		浦安市猫実四丁目6番29号							
クラブの連絡先		電話	047-351-1990	F A X	047-351-1990				
当該クラブの運営開始日		平成 29年 4月 1日							
開設場所		小学校敷地外							
定員／現在の利用者数 (令和2年1月末現在)		定 員		114人		利用者数		83人	
職員数 (令和2年1月末現在)	常勤	職員数	4人	うち、男性		3人	うち、女性		1人
		有資格者数		保育士	2人	幼稚園 教諭	0人	幼稚園以 外の教諭	2人
	非常勤	職員数	18人	うち、男性		3人	うち、女性		15人
		有資格者数		保育士	1人	幼稚園 教諭	0人	幼稚園以 外の教諭	3人

◆運営事業者のサービス提供方針

サービスの提供にあたって大切にしていること	<p>児童、保護者共に安心、安全に利用できるように安全管理に務めている。児童一人一人がおりのまま受け止められ、楽しい、また来たいと感じてもらい、児童が主体的に通ってこれるクラブにするために職員が一丸となりサービスの向上に努めている。特に児童の自己肯定感を高くむ取り組み、お便り、保護者との関係を大切にし、児童、保護者、職員が一体となつてのクラブ運営を目指している。そして、職員も自己実現ができ楽しむことができるような環境作りを心掛けている。</p>
-----------------------	--

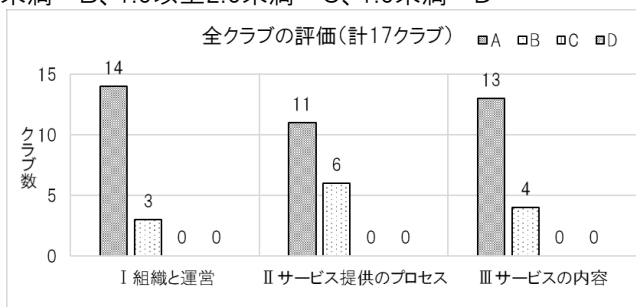
		事業者の強み アピールしたい取り組み	サービス改善に向けた取り組み 今後の展望
Ⅰ 組織と運営	1 運営	<p>運営本部だけでなく、学校との定例会や学校行事への参加、クラブ行事への招待を通して各関係機関との日頃の関係づくりや連携に努めている。雇用形態に関わらず全職員が施設運営を担っている意識を持ち、全員が担当や役割を持っている。また、施設の課題に対して全職員で検討を行い、施設の質の向上に努めている。</p>	<p>運営指針についての研修実施、及び日々の育成のなかで内容の落とし込みをして、指針の理解を深める必要がある。 職員間のコミュニケーションを深め、個々に面談を行い、個人の目標や課題の聞き取りを行い、更なる自己実現、施設運営の主体的参加を進めていく。</p>
	2 人事		
	3 情報		
	4 適正な会計事務の執行		
	5 危機管理		
	6 個人情報保護		
Ⅱ サービスの提供	1 利用希望者への対応	<p>年度当初に綿密な運営計画を作成し、時期に応じた育成のねらいを定めている。また、各種マニュアルや業務チェックリストを整備するとともに、打ち合わせや毎日の振り返りのなかでの指導や助言を行い職員育成に力を入れている。また、重要事項については書面で各家庭へ周知するとともにメールでの一斉配信も行っている。</p>	<p>新人教育に関しては、今後固定の担当職員をつけて業務スキルの確認や指導を行うなど、職員育成により一層力を入れていきたい。 定期的に支援計画の振り返りを行い、軌道修正をしながらその後の運営を行う。</p>
	2 計画作成・見直し		
	3 サービスの標準化		
	4 苦情解決		
	5 保護者に対するサポート		
	6 人権の尊重		
	7 地域との連携・交流		
Ⅲ サービスの内容	1 基本原則	<p>お便りに力を入れ、クラブや児童の様子を全家庭に具体的に伝え、よりクラブの様子を知ってもらえるようにしている。火おこしなど他施設にはないようなプログラムを実施したり、実行委員制による児童の手によりイベントの企画を行っている。いいこと発表など児童の自己肯定感や他者への関心が育つような取り組みを行っている。</p>	<p>連絡帳を活用し、お迎えに来られない保護者へ児童の様子をいかに伝えるか検討していく。 職員会議、研修、OJTを通してひとりひとりの保育スキルの向上に努めていく。 配慮が必要な児童への支援方法について、一人一人が専門性を高めるとともに、職員会議にてよりよい支援方法を全員で検討していく。</p>
	2 コミュニケーション		
	3 相談等の援助		
	4 健康管理		
	5 自傷他害への対応		
	6 活動		
	7 おやつ提供		
	8 施設環境		
	9 来所・帰宅		

◆運営事業者による自己評価結果

児童育成クラブの自己評価(大項目評価)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・自己評価を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価:大項目平均値 3.5以上=A、2.5以上3.5未満=B、1.5以上2.5未満=C、1.5未満=D

評価項目 (大項目)	令和元年度
	(平成30年度)※
Ⅰ 組織と運営	A
	(A)
Ⅱ. サービス提供のプロセス	A
	(A)
Ⅲ. サービスの内容	A
	(A)



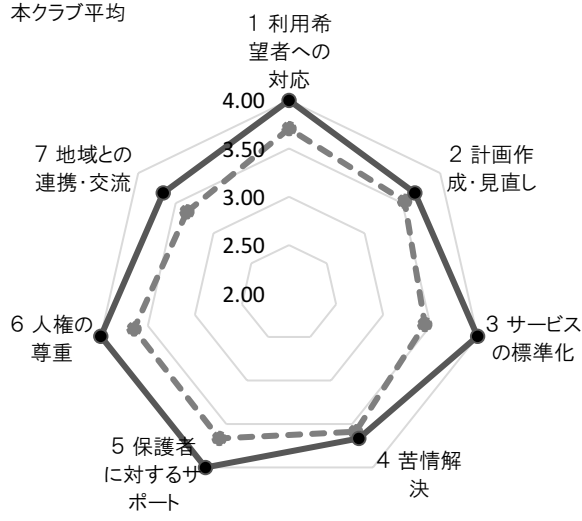
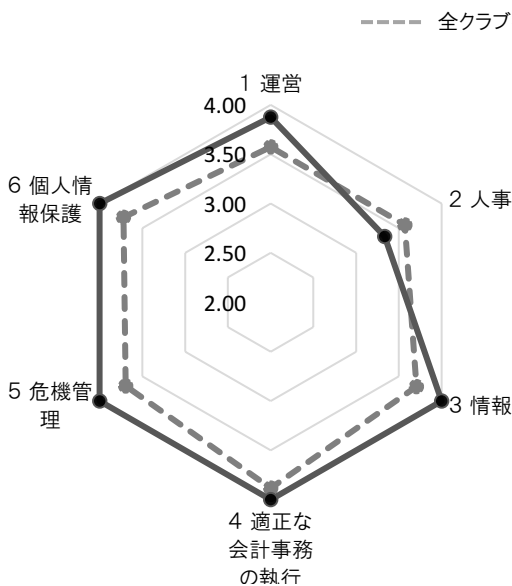
※令和元年度より評価基準が変更になったため、平成30年度は参考値となります。

児童育成クラブの自己評価(中項目評価)

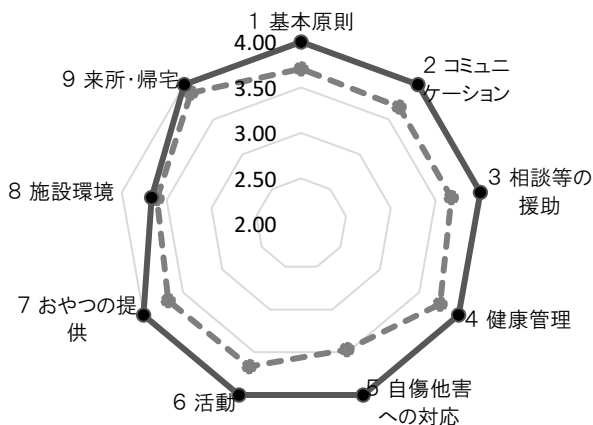
- ・各クラブの中項目の平均値と全クラブの平均値をグラフ化しています。
- ・平均値と比べることで、運営面やサービス面における本クラブの強みや弱みを把握します。
- ・評価:4=優れた取り組みができている、3=おおむねできている、2=あまりできていない、1=まったくできていない

Ⅰ. 組織と運営

Ⅱ. サービス提供のプロセス



Ⅲ. サービスの内容

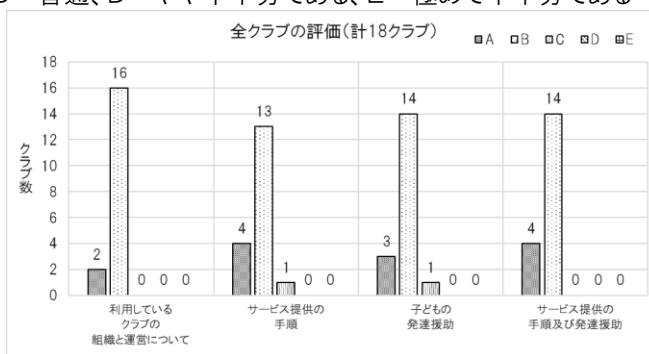


◆利用者による評価結果

児童育成クラブの利用者調査(テーマ別)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・当該クラブの評価結果を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価：A=大変優れている、B=優れている、C=普通、D=やや不十分である、E=極めて不十分である

テーマ		令和元年度 (平成30年度)
保護者	利用しているクラブの組織と運営について	B (A)
	サービス提供の手順について	B (A)
	子どもの発達援助について	B (A)
児童	サービス提供の手順及び発達援助について	B (B)

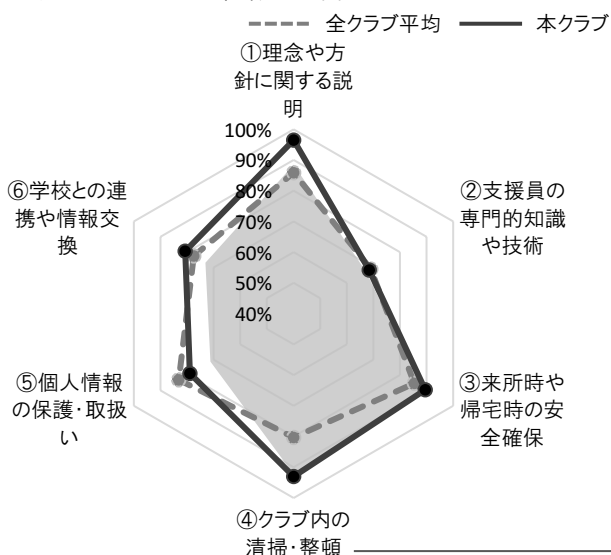


児童育成クラブの利用者調査(設問別)

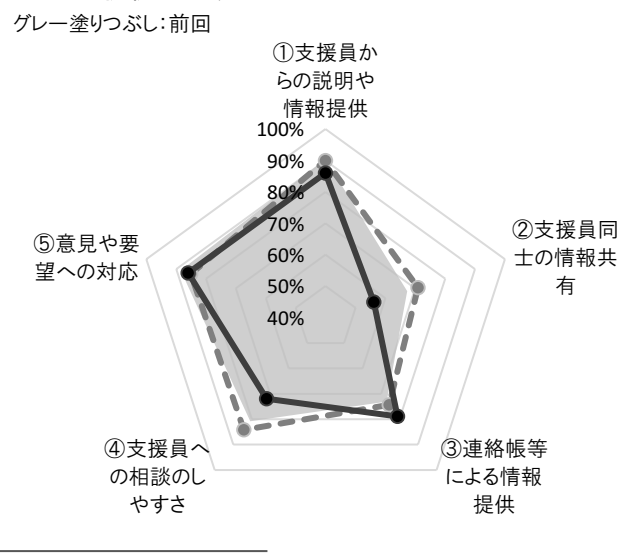
- ・設問別の評価について、本クラブと全クラブの回答(はいの割合)、前年度における本クラブの回答(はいの割合)を示しています。

I 保護者の回答

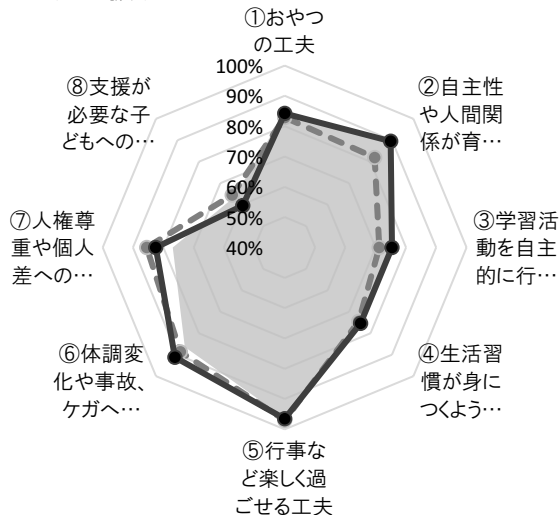
利用しているクラブ組織と運営について



サービス提供の手順について

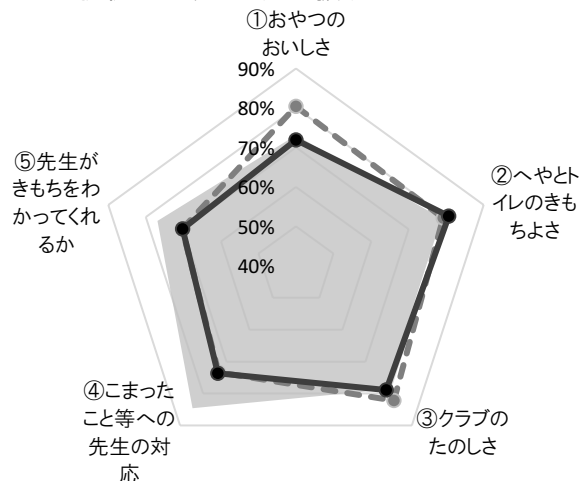


子どもの発達援助について



II 児童の回答

サービス提供の手順及び発達援助について



評価結果

令和元年度

南小学校地区児童育成クラブ

◆クラブ・運営事業者のプロフィール

事業者の名称		株式会社日本デイクアセンター						
クラブの所在地		浦安市堀江五丁目4番1号						
クラブの連絡先		電話	047-352-1697	F A X	047-352-1697			
当該クラブの運営開始日		平成 22年 4月 1日						
開設場所		小学校敷地内						
定員／現在の利用者数 (令和2年1月末現在)		定 員	240人		利用者数	253人		
職員数 (令和2年1月末現在)	常勤	職員数	11人	うち、男性	4人	うち、女性	7人	
		有資格者数		保育士	2人	幼稚園 教諭	2人	幼稚園以 外の教諭
	非常勤	職員数	13人	うち、男性	1人	うち、女性	12人	
		有資格者数		保育士	0人	幼稚園 教諭	1人	幼稚園以 外の教諭

◆運営事業者のサービス提供方針

サービスの提供にあたって大切にしていること	「あかるく・たくましく・生きる“ちから”のある子ども」の健全育成
-----------------------	----------------------------------

		事業者の強み アピールしたい取り組み	サービス改善に向けた取り組み 今後の展望
Ⅰ ・ 組 織 と 運 営	1 運営	月1回全体ミーティングを行っている。 上半期下半期で施設に足りない備品 を全体に聞き補充している。	ミーティングの質の向上。 保護者会の質の向上。 学校との連携をもっとしていきたい。
	2 人事		
	3 情報		
	4 適正な会計事務の執行		
	5 危機管理		
	6 個人情報保護		
Ⅱ ・ サ ー ビ ス プ ロ 提 供 セ ス の	1 利用希望者への対応	利用案内に新たな保育方針を掲げ た。 また、利用案内は読みやすく改善し た。	保護者の方が利用しやすいように対 応していきたい。
	2 計画作成・見直し		
	3 サービスの標準化		
	4 苦情解決		
	5 保護者に対するサポート		
	6 人権の尊重		
	7 地域との連携・交流		
Ⅲ ・ サ ー ビ ス の 内 容	1 基本原則	遠足でカドゥーを貸し切りにした。 イベントを増やした	保護者との交流の場を増やしたい。 大人数を強みにできるものを作りたい。
	2 コミュニケーション		
	3 相談等の援助		
	4 健康管理		
	5 自傷他害への対応		
	6 活動		
	7 おやつ提供		
	8 施設環境		
	9 来所・帰宅		

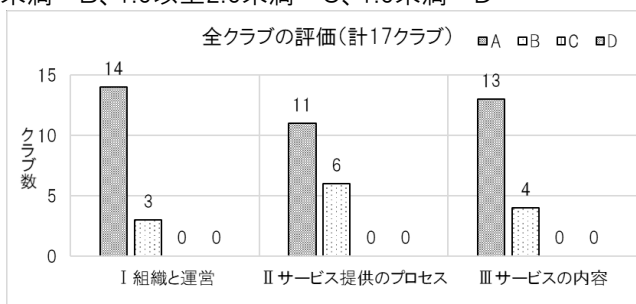


◆ 運営事業者による自己評価結果

児童育成クラブの自己評価(大項目評価)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・自己評価を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価:大項目平均値 3.5以上=A、2.5以上3.5未満=B、1.5以上2.5未満=C、1.5未満=D

評価項目 (大項目)	令和元年度
	(平成30年度)※
Ⅰ 組織と運営	A
	(A)
Ⅱ. サービス提供のプロセス	A
	(A)
Ⅲ. サービスの内容	A
	(A)

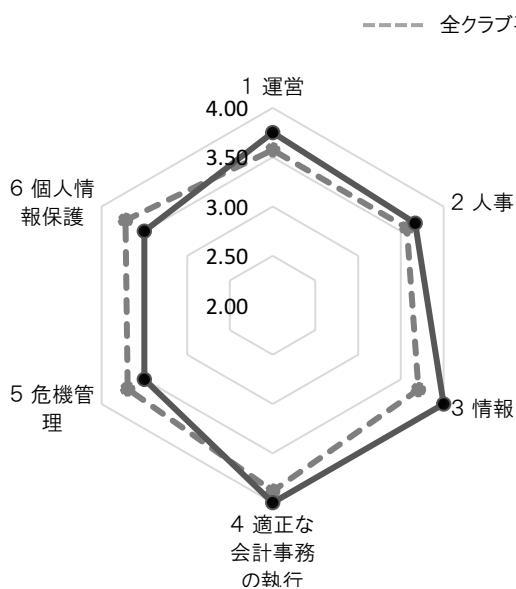


※令和元年度より評価基準が変更になったため、平成30年度は参考値となります。

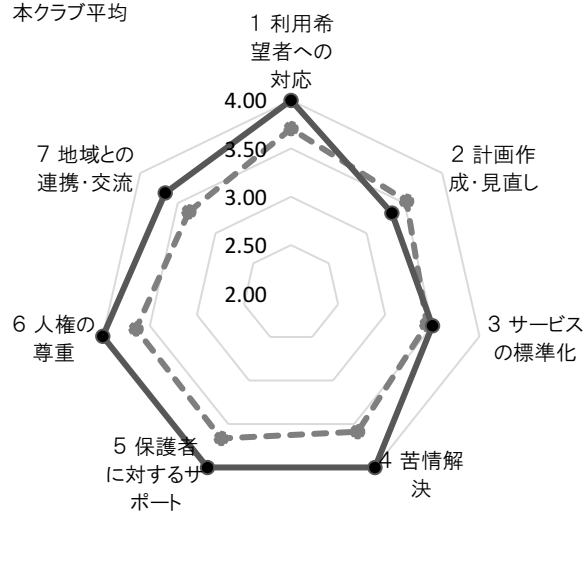
児童育成クラブの自己評価(中項目評価)

- ・各クラブの中項目の平均値と全クラブの平均値をグラフ化しています。
- ・平均値と比べることで、運営面やサービス面における本クラブの強みや弱みを把握します。
- ・評価:4=優れた取り組みができている、3=おおむねできている、2=あまりできていない、1=まったくできていない

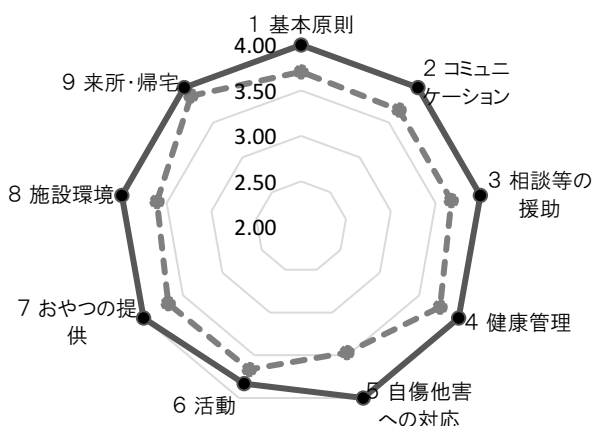
Ⅰ. 組織と運営



Ⅱ. サービス提供のプロセス



Ⅲ. サービスの内容

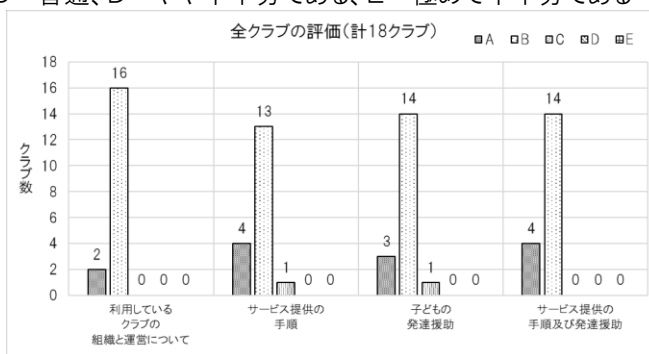


◆利用者による評価結果

児童育成クラブの利用者調査(テーマ別)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・当該クラブの評価結果を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価：A=大変優れている、B=優れている、C=普通、D=やや不十分である、E=極めて不十分である

テーマ		令和元年度 (平成30年度)
保護者	利用しているクラブの組織と運営について	B (B)
	サービス提供の手順について	B (B)
	子どもの発達援助について	B (B)
児童	サービス提供の手順及び発達援助について	B (B)

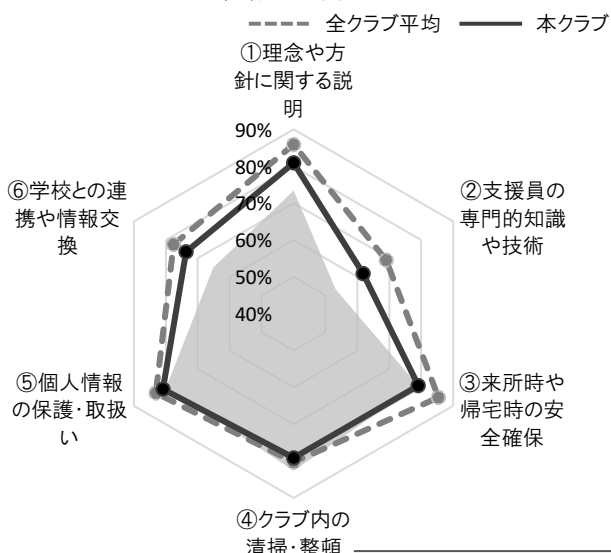


児童育成クラブの利用者調査(設問別)

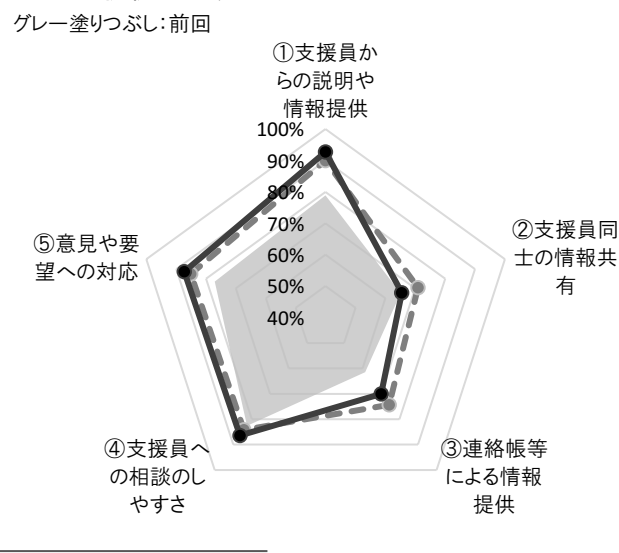
- ・設問別の評価について、本クラブと全クラブの回答(はいの割合)、前年度における本クラブの回答(はいの割合)を示しています。

I 保護者の回答

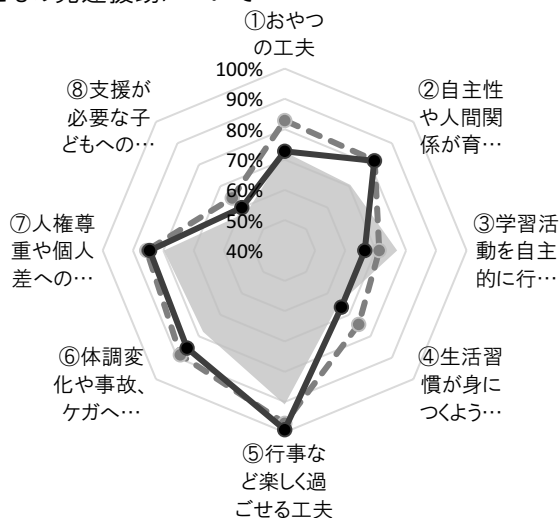
利用しているクラブ組織と運営について



サービス提供の手順について

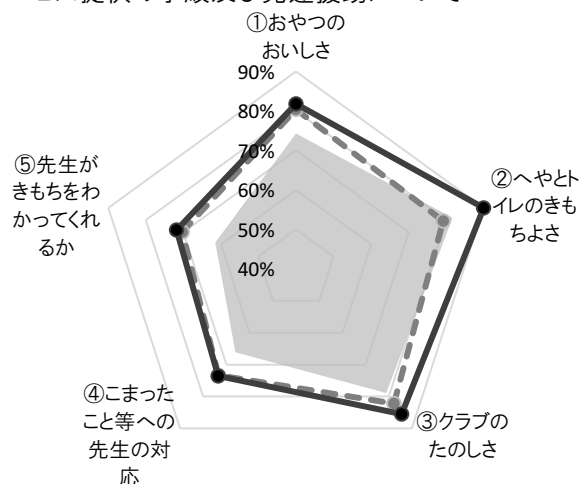


子どもの発達援助について



II 児童の回答

サービス提供の手順及び発達援助について



評価結果

令和元年度

北部小学校地区児童育成クラブ

◆クラブ・運営事業者のプロフィール

事業者の名称	特定非営利活動法人 ワーカーズコープ							
クラブの所在地	浦安市北栄三丁目20番3号							
クラブの連絡先	電話	047-351-1782	F A X	047-351-1782				
当該クラブの運営開始日	平成 22年 4月 1日							
開設場所	小学校校舎内／小学校敷地外							
定員／現在の利用者数 (令和2年1月末現在)	定 員	200人		利用者数	194人			
職員数 (令和2年1月末現在)	常勤	職員数	9人	うち、男性	4人	うち、女性	5人	
		有資格者数		保育士	2人	幼稚園教諭	0人	幼稚園以外の教諭
	非常勤	職員数	16人	うち、男性	7人	うち、女性	9人	
		有資格者数		保育士	0人	幼稚園教諭	1人	幼稚園以外の教諭

◆運営事業者のサービス提供方針

サービスの提供にあたって大切にしていること	保護者に対しては、安心安全に子ども達をお預かりする。 子どもに対しては、明日も来たいと思える学童にすること。
-----------------------	---

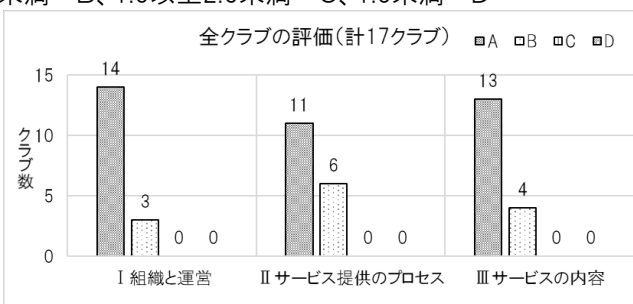
		事業者の強み アピールしたい取り組み	サービス改善に向けた取り組み 今後の展望
Ⅰ 組織と運営	1 運営	事業者が「社会貢献」を主体とした団体であり、浦安は主に子育て現場に力を入れている。クラブの支援だけでなく、保護者同士をつないで、家庭とトータルで子どもを支援したいとの思いから、3年前より月1回、1つのクラスを使って「ひしのみ亭」というカフェを開催。保護者同士のコミュニケーションの場として定着してきました。	「ひしのみ亭」にて保護者同士のコミュニケーションは図れるようになってきたので、今後は、地域の方にも参加を促し、クラブの理解や帰宅途中の子ども達の安全にも寄与できるようにしていきたい。
	2 人事		
	3 情報		
	4 適正な会計事務の執行		
	5 危機管理		
	6 個人情報保護		
Ⅱ サービス提供の	1 利用希望者への対応	保護者にとっては、安心安全に子どもを預かる。子どもにとっては明日も来たいと思えるクラブ運営を目指しており、個人面談にて、家庭・学校・クラブでの子どもの様子の情報共有と課題対策について話し合いを行った。また、子ども達が自主的に参加できる行事となるよう、プログラミング教室など新たな取り組みを入れています。	親子間のコミュニケーションが深まるよう、親子で参加できる行事や保護者にもお手伝い頂き、保護者とクラブの関係が深まるような行事を増やす予定。
	2 計画作成・見直し		
	3 サービスの標準化		
	4 苦情解決		
	5 保護者に対するサポート		
	6 人権の尊重		
	7 地域との連携・交流		
Ⅲ サービスの内容	1 基本原則	毎年障がいのある子どもを受け入れているため、支援についてのノウハウがたまり、自身にもなっている。現状保護者からも信頼を得てきており、クラブへ通う日数を増やす家庭もあります。	発達障害の支援児が毎年増えてきており、見た目は健常児と変わらないため、健常児との間でトラブルがあった場合、健常児に支援児の行動や心情を説明し、理解させるのが難しい。また、突発的な行動が多く予測不可能であるため、専門機関と連携を取りながら支援したいと考えています。
	2 コミュニケーション		
	3 相談等の援助		
	4 健康管理		
	5 自傷他害への対応		
	6 活動		
	7 おやつ提供		
	8 施設環境		
	9 来所・帰宅		

◆ 運営事業者による自己評価結果

児童育成クラブの自己評価(大項目評価)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・自己評価を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価:大項目平均値 3.5以上=A、2.5以上3.5未満=B、1.5以上2.5未満=C、1.5未満=D

評価項目 (大項目)	令和元年度
	(平成30年度)※
I 組織と運営	A
	(A)
II. サービス提供のプロセス	A
	(A)
III. サービスの内容	B
	(A)



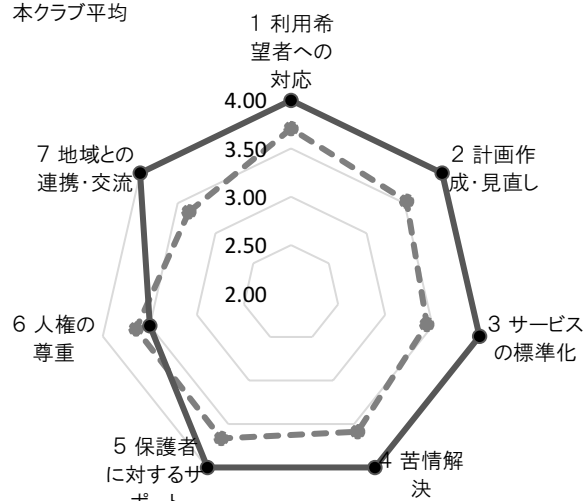
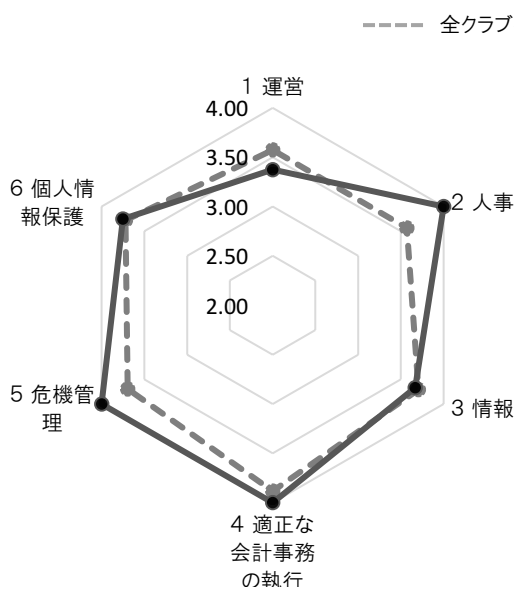
※令和元年度より評価基準が変更になったため、平成30年度は参考値となります。

児童育成クラブの自己評価(中項目評価)

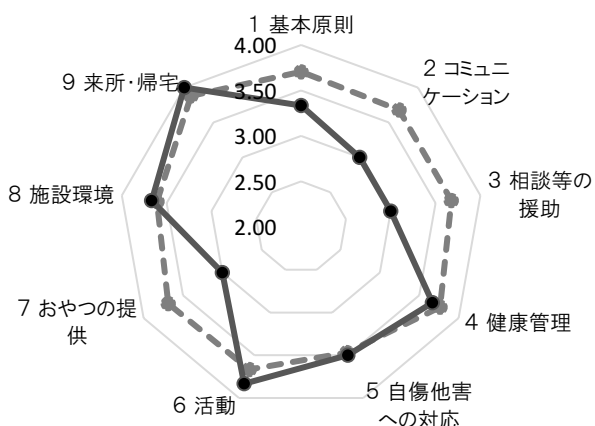
- ・各クラブの中項目の平均値と全クラブの平均値をグラフ化しています。
- ・平均値と比べることで、運営面やサービス面における本クラブの強みや弱みを把握します。
- ・評価:4=優れた取り組みができている、3=おおむねできている、2=あまりできていない、1=まったくできていない

I. 組織と運営

II. サービス提供のプロセス



III. サービスの内容

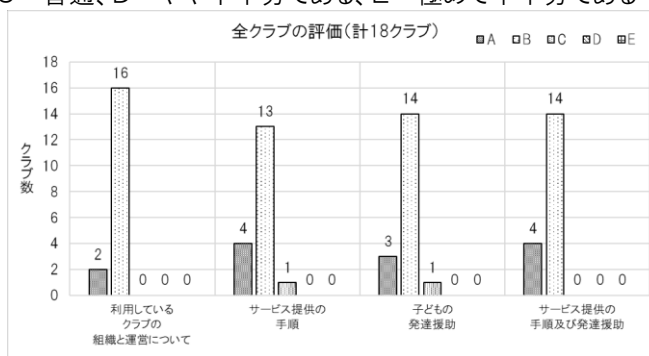


◆利用者による評価結果

児童育成クラブの利用者調査(テーマ別)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・当該クラブの評価結果を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価：A=大変優れている、B=優れている、C=普通、D=やや不十分である、E=極めて不十分である

テーマ		令和元年度 (平成30年度)
保護者	利用しているクラブの組織と運営について	B (A)
	サービス提供の手順について	B (A)
	子どもの発達援助について	B (A)
児童	サービス提供の手順及び発達援助について	B (B)

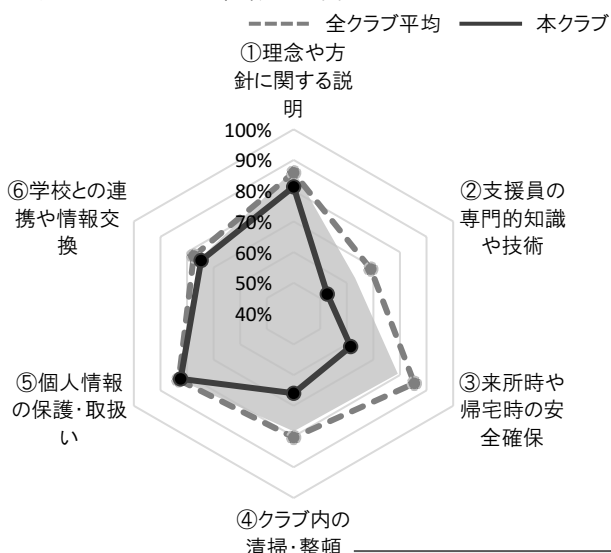


児童育成クラブの利用者調査(設問別)

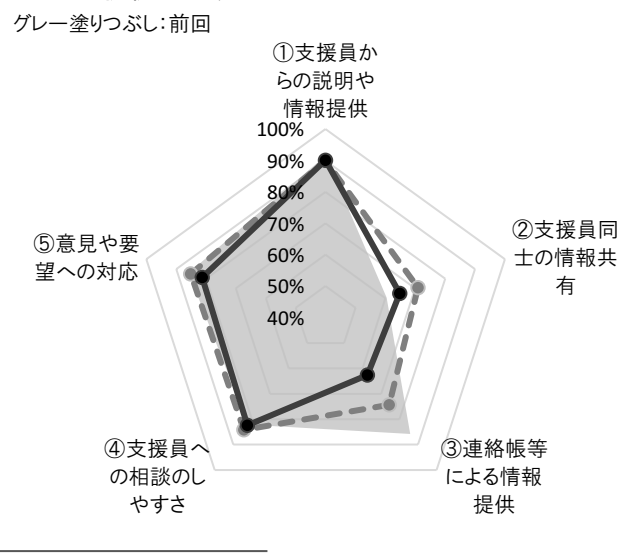
- ・設問別の評価について、本クラブと全クラブの回答(はいの割合)、前年度における本クラブの回答(はいの割合)を示しています。

I 保護者の回答

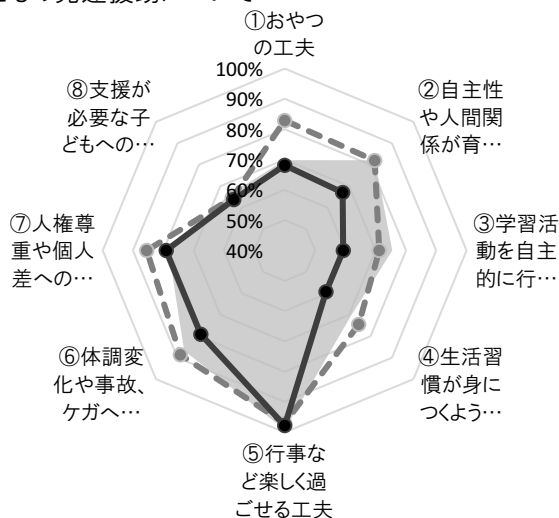
利用しているクラブ組織と運営について



サービス提供の手順について

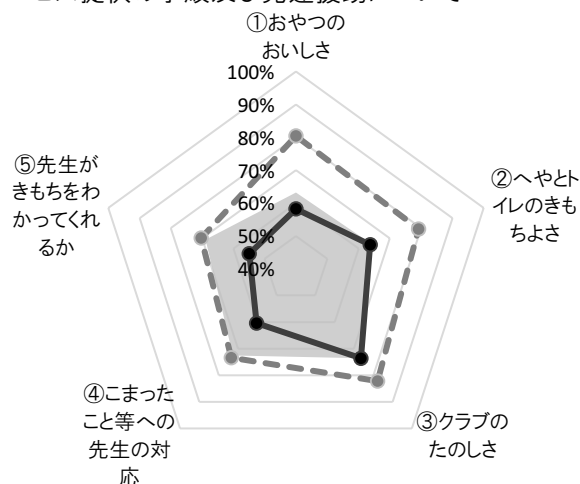


子どもの発達援助について



II 児童の回答

サービス提供の手順及び発達援助について



評価結果

令和元年度

見明川小学校地区児童育成クラブ

◆クラブ・運営事業者のプロフィール

事業者の名称	テルウェル東日本株式会社						
クラブの所在地	浦安市弁天三丁目1番2号						
クラブの連絡先	電話	047-351-1633	F A X	047-351-1633			
当該クラブの運営開始日	平成 31年 4月 1日						
開設場所	小学校敷地内						
定員／現在の利用者数 (令和2年1月末現在)	定 員	120人		利用者数	128人		
職員数 (令和2年1月末現在)	常勤	職員数	6人	うち、男性	3人	うち、女性	3人
		有資格者数	保育士	3人	幼稚園 教諭	0人	幼稚園以 外の教諭
	非常勤	職員数	7人	うち、男性	1人	うち、女性	6人
		有資格者数	保育士	1人	幼稚園 教諭	4人	幼稚園以 外の教諭

◆運営事業者のサービス提供方針

サービスの提供にあたって大切にしていること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の安心・安全を第一に考え「伸び伸びと楽しく充実した時」を過ごせる場を提供する。</li> <li>・安心して過ごせることができるよう、常に見守り、児童に「安らぎ」を提供する。</li> <li>・児童の自主性を重んじ「社会性」や「感謝の心」を身に付けられるようにする。</li> <li>・児童がリラックスできる環境を整え、異年齢間の関わりを大切にしながら協調性を養い身に着ける。</li> <li>・栄養・活力面から必要とされる「おやつ」は、衛生管理をきちんと行い提供する。</li> </ul>
-----------------------	---

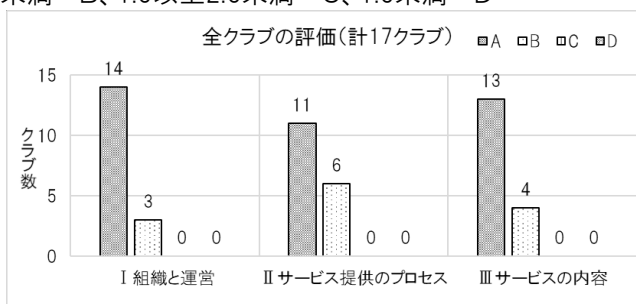
		事業者の強み アピールしたい取り組み	サービス改善に向けた取り組み 今後の展望
Ⅰ 組織と運営	1 運営	『第二の家庭として接し、児童育成クラブに「通う」のではなく「毎日帰りたくなる」運営』を目標と定め、「信頼」「安全」「安心」「快適」を基本理念とし、「児童一人ひとりが健やかに安心して過ごせる生活の場」であるとともに、保護者の皆様が安心して通わせることができる「学校と家庭の中心に位置する」クラブ運営に努めています。	全ての支援員が児童育成クラブの運営理念・方針を理解し、実現できるよう研修及びミーティングの更なる充実を図る必要がある。 また、「安心・安全」な運営は基本であることから、日常保育の中での危機管理意識の徹底を図ります。
	2 人事		
	3 情報		
	4 適正な会計事務の執行		
	5 危機管理		
	6 個人情報保護		
Ⅱ サービス提供の	1 利用希望者への対応	児童、保護者、小学校関係者等との信頼関係の構築に向け、お手紙・メール・掲示物を活用した情報発信を積極的、かつ定期的に行いました。 また、学校責任者、教務主任等へ定期的に訪問をし、双方における様々な行事や諸課題を共有し、安心・安全なクラブ運営に反映した。	保護者からの意見・要望・相談については、お迎え時やメール等、と限られているため、誰もが気軽に利用できるルールを構築する必要がある。 また、日常保育におけるマニュアルについては、必要に応じて改善を図る。
	2 計画作成・見直し		
	3 サービスの標準化		
	4 苦情解決		
	5 保護者に対するサポート		
	6 人権の尊重		
	7 地域との連携・交流		
Ⅲ サービスの内容	1 基本原則	「安心・安全」、かつ安定的な運営の実現には、支援員のスキル向上・定着は必須であることから、意欲的に業務に取り組める様、会社主導の研修会の開催、社外研修会への参加を支援員の意向も反映しつつ積極的に行いました。 日々のミーティングにおいて、児童の様子、スケジュール等の情報共有を図るとともに、支援員間の意識合わせを行い、支援活動に活かしています。	児童一人ひとりの人格や特性について、家庭調査票等からの情報提供に基づき、必要に応じて、支援員間で共有をし、児童の特性を理解して接する必要がある。 また、異年齢の共同生活において互いを理解し敬う気持ちを養うことを目的とした遊びや生活の場については、更なる充実したイベント等を企画する必要がある。
	2 コミュニケーション		
	3 相談等の援助		
	4 健康管理		
	5 自傷他害への対応		
	6 活動		
	7 おやつ提供		
	8 施設環境		
	9 来所・帰宅		

◆運営事業者による自己評価結果

児童育成クラブの自己評価(大項目評価)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・自己評価を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価:大項目平均値 3.5以上=A、2.5以上3.5未満=B、1.5以上2.5未満=C、1.5未満=D

評価項目 (大項目)	令和元年度
	(平成30年度)※
I 組織と運営	A
	(B)
II. サービス提供のプロセス	B
	(B)
III. サービスの内容	A
	(B)

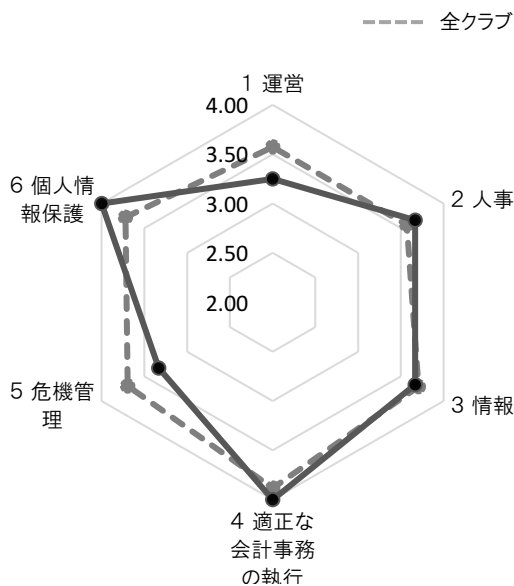


※令和元年度より評価基準が変更になったため、平成30年度は参考値となります。

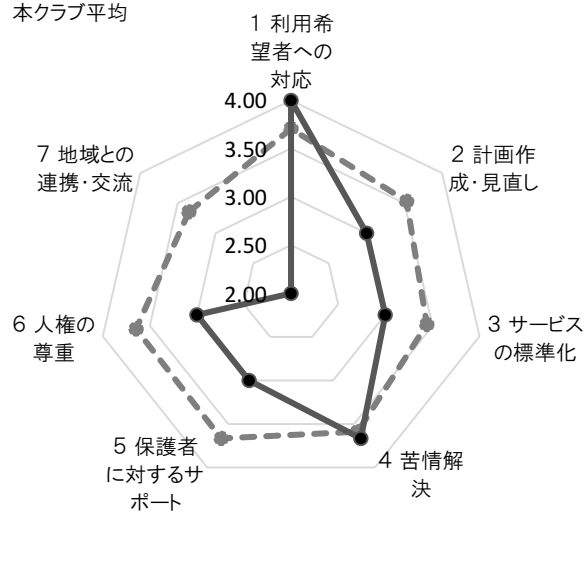
児童育成クラブの自己評価(中項目評価)

- ・各クラブの中項目の平均値と全クラブの平均値をグラフ化しています。
- ・平均値と比べることで、運営面やサービス面における本クラブの強みや弱みを把握します。
- ・評価:4=優れた取り組みができています、3=おおむねできている、2=あまりできていない、1=まったくできていない

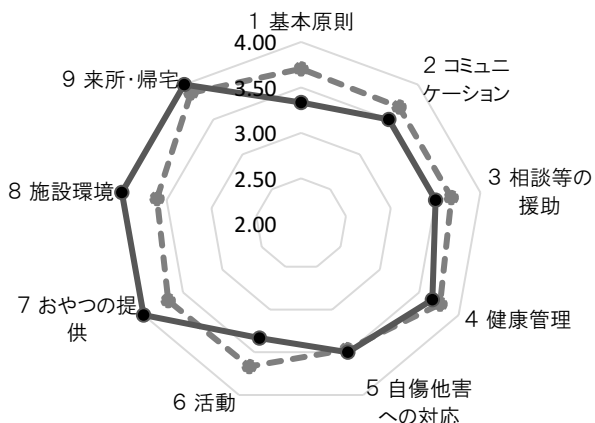
I. 組織と運営



II. サービス提供のプロセス



III. サービスの内容

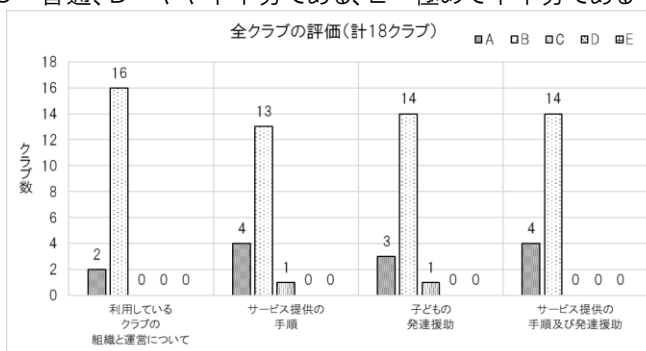


◆利用者による評価結果

児童育成クラブの利用者調査(テーマ別)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・当該クラブの評価結果を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価：A=大変優れている、B=優れている、C=普通、D=やや不十分である、E=極めて不十分である

テーマ		令和元年度 (平成30年度)
保護者	利用しているクラブの組織と運営について	B (B)
	サービス提供の 手順について	C (B)
	子どもの発達援助に ついて	C (B)
児童	サービス提供の手順 及び発達援助について	B (B)

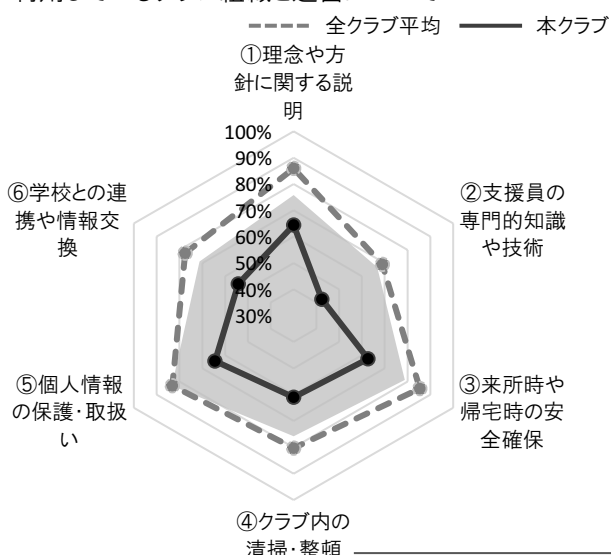


児童育成クラブの利用者調査(設問別)

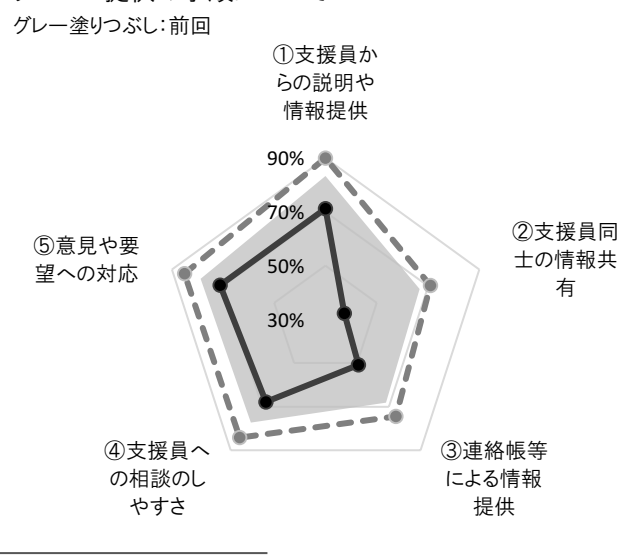
- ・設問別の評価について、本クラブと全クラブの回答(はいの割合)、前年度における本クラブの回答(はいの割合)を示しています。

I 保護者の回答

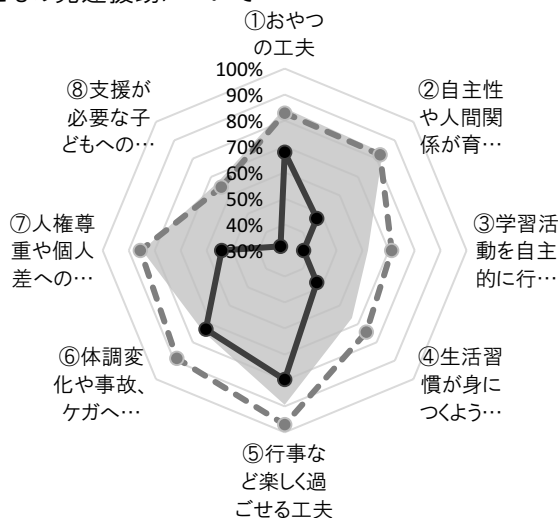
利用しているクラブ組織と運営について



サービス提供の手順について

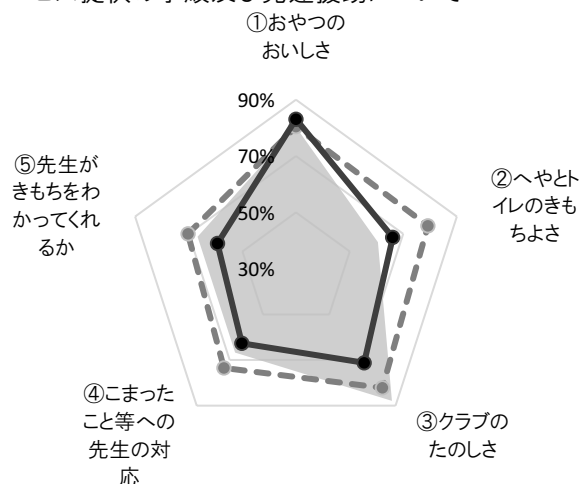


子どもの発達援助について



II 児童の回答

サービス提供の手順及び発達援助について





評価結果

令和元年度

富岡小学校地区児童育成クラブ

◆クラブ・運営事業者のプロフィール

事業者の名称	社会福祉法人 浦安市社会福祉協議会							
クラブの所在地	浦安市富岡一丁目1番1号							
クラブの連絡先	電話	047-352-7400	F A X	047-352-7400				
当該クラブの運営開始日	平成 28年 4月 1日							
開設場所	小学校校舎内							
定員／現在の利用者数 (令和2年1月末現在)	定 員	80人		利用者数	94人			
職員数 (令和2年1月末現在)	常勤	職員数	6人	うち、男性	1人	うち、女性	5人	
		有資格者数		保育士	1人	幼稚園教諭	0人	幼稚園以外の教諭
	非常勤	職員数	5人	うち、男性	1人	うち、女性	4人	
		有資格者数		保育士	0人	幼稚園教諭	1人	幼稚園以外の教諭

◆運営事業者のサービス提供方針

サービスの提供にあたって大切にしていること	児童育成クラブは、「1人ひとりが主役となる場」、「異年齢児による生活・あそびを通じ、社会性・自主性を育てる場」、「安心して楽しく過ごせる場」をモットーに子どもと信頼関係を築けるよう育成支援に努めていく。
-----------------------	---

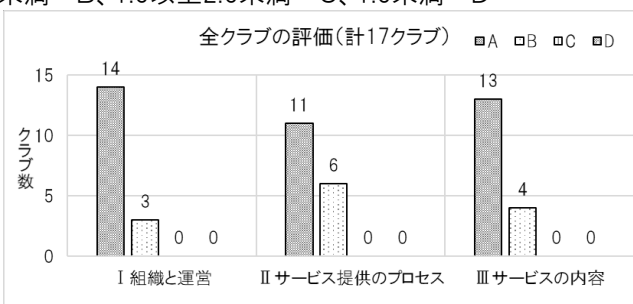
		事業者の強み アピールしたい取り組み	サービス改善に向けた取り組み 今後の展望
Ⅰ 組織と運営	1 運営	東野育成クラブと連携して合同イベントを行ったり、支援員交流ができることを生かしている。互いのいいところは共有し、よりよい育成ができるように実践して支援員の資質の向上に努めている。ミーティングや支援員会議で、今まで起きた事例を検討し、サービスの向上に努めている。	現状に満足せずに、育成クラブに求められていることを、保護者や子どもの意見を聞きながら、運営指針と照らし合わせ、これからの育成クラブのあり方について毎年見直していく必要がある。
	2 人事		
	3 情報		
	4 適正な会計事務の執行		
	5 危機管理		
	6 個人情報保護		
Ⅱ サービス提供の	1 利用希望者への対応	各種マニュアルは作っているが、個々の支援として、家庭や本人の状況を理解し、臨機応変な対応もできるよう、ミーティングなどを多く持っている。どうしたら皆が過ごしやすい場になるか、子どもたちの意見を取り入れながら、常に工夫をしている。地域との結びつきが強いため、協力が得やすく、助けられることが多い。	保護者に理解してもらえよう取り組みや子どもたちの安全面を重視したサービスを考えているが、運営指針や認定資格研修で言われている、「子どもの主体性」とは何か、どのように子どもたちから引き出していくかを考えて、行事や生活を考えていく必要がある。地域の方々との結びつきをこれからも大切にしていき、子どもは地域の宝であるという認識をもって、サービスの提供をしていく。
	2 計画作成・見直し		
	3 サービスの標準化		
	4 苦情解決		
	5 保護者に対するサポート		
	6 人権の尊重		
	7 地域との連携・交流		
Ⅲ サービスの内容	1 基本原則	保護者にとっても、子どもたちにとっても安心して生活できる場になるように日々務めている。家庭において親子で過ごす時間を大切にしてほしいという思いから、クラブに在る間に宿題等に取り組めるように学習の時間を設けている。クラブでの様子をいいことだけではなく、気になることについても話すようにしている。保護者に伝える際には、必ず2人で対応するように心がけ、大げさになりすぎたり、否定的になりすぎたりしないように、配慮している。	イベントも大人側からの一方的な提供にならないように、子どもの提案や意見を聞きながら行っているが、子どもに「何もない時間」を保証することにより、子ども自身が自分たちで時間の使い方を考え、生み出していき、主体性を持ったたくましい子どもたちになってほしいと願っている。そのための育成支援を考えていきたい。
	2 コミュニケーション		
	3 相談等の援助		
	4 健康管理		
	5 自傷他害への対応		
	6 活動		
	7 おやつ提供		
	8 施設環境		
	9 来所・帰宅		

◆ 運営事業者による自己評価結果

児童育成クラブの自己評価(大項目評価)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・自己評価を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価:大項目平均値 3.5以上=A、2.5以上3.5未満=B、1.5以上2.5未満=C、1.5未満=D

評価項目 (大項目)	令和元年度
	(平成30年度)※
Ⅰ 組織と運営	A
	(A)
Ⅱ. サービス提供のプロセス	A
	(A)
Ⅲ. サービスの内容	A
	(A)



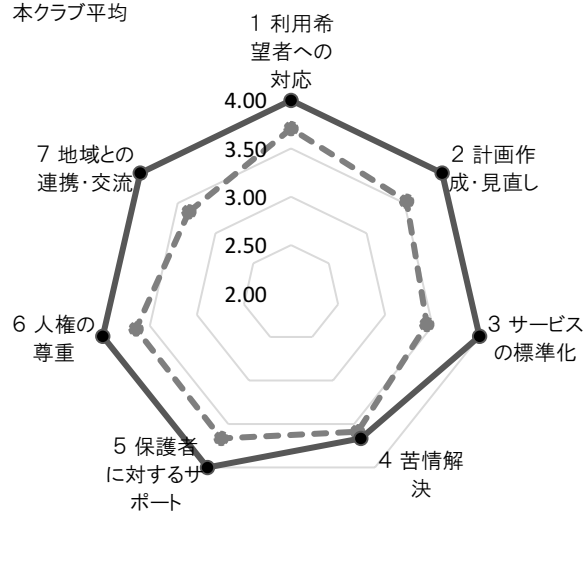
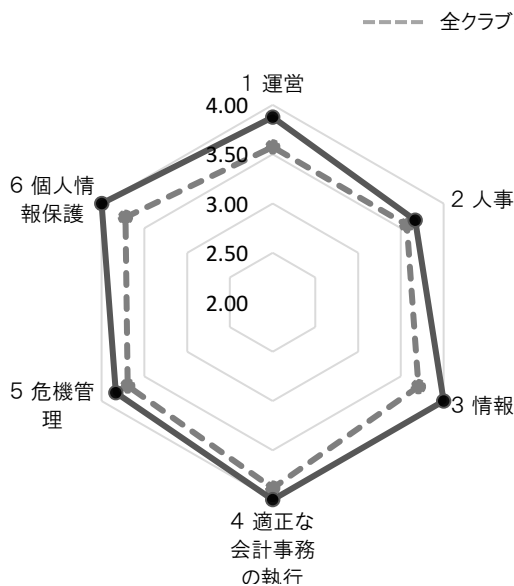
※令和元年度より評価基準が変更になったため、平成30年度は参考値となります。

児童育成クラブの自己評価(中項目評価)

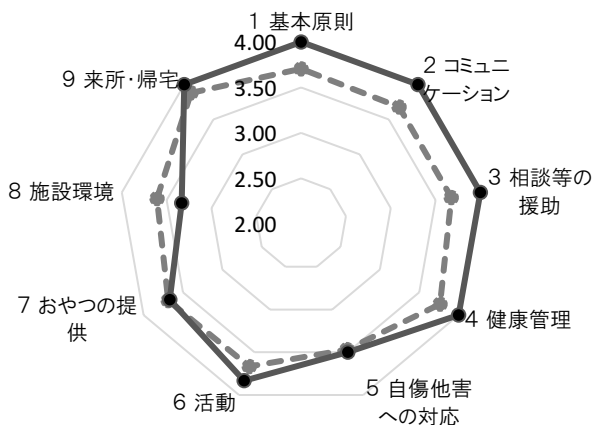
- ・各クラブの中項目の平均値と全クラブの平均値をグラフ化しています。
- ・平均値と比べることで、運営面やサービス面における本クラブの強みや弱みを把握します。
- ・評価:4=優れた取り組みができています、3=おおむねできている、2=あまりできていない、1=まったくできていない

Ⅰ. 組織と運営

Ⅱ. サービス提供のプロセス



Ⅲ. サービスの内容

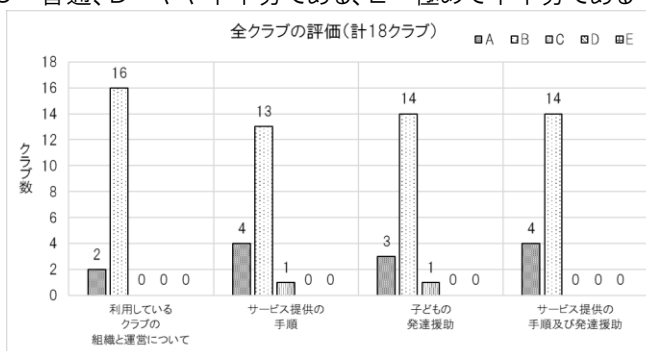


◆利用者による評価結果

児童育成クラブの利用者調査(テーマ別)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・当該クラブの評価結果を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価：A=大変優れている、B=優れている、C=普通、D=やや不十分である、E=極めて不十分である

テーマ		令和元年度 (平成30年度)
保護者	利用しているクラブの組織と運営について	B (A)
	サービス提供の手順について	B (A)
	子どもの発達援助について	B (A)
児童	サービス提供の手順及び発達援助について	B (A)

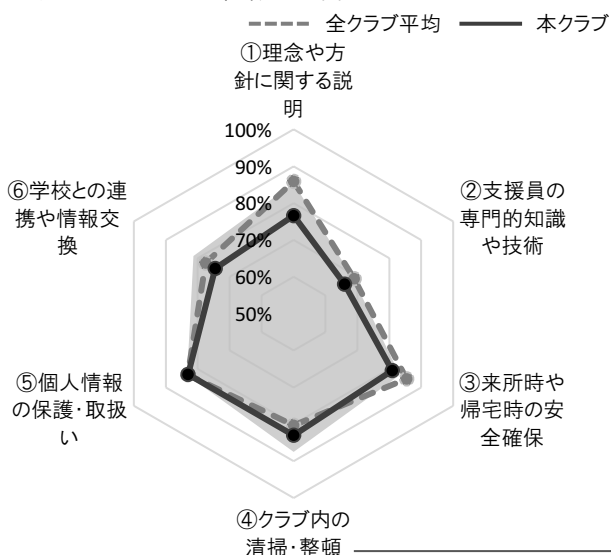


児童育成クラブの利用者調査(設問別)

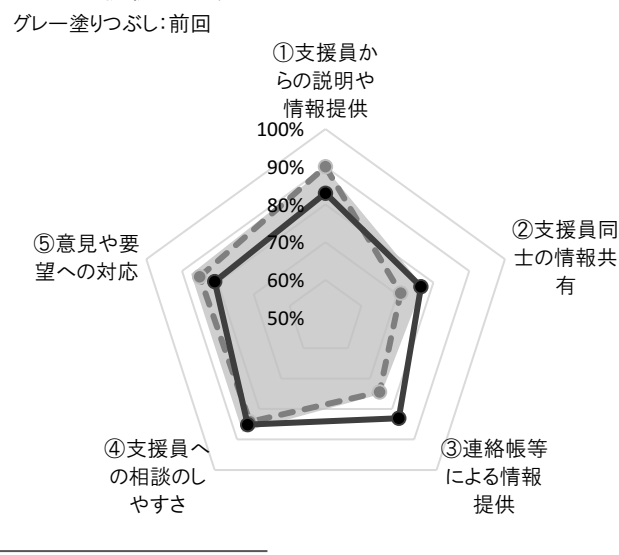
- ・設問別の評価について、本クラブと全クラブの回答(はいの割合)、前年度における本クラブの回答(はいの割合)を示しています。

I 保護者の回答

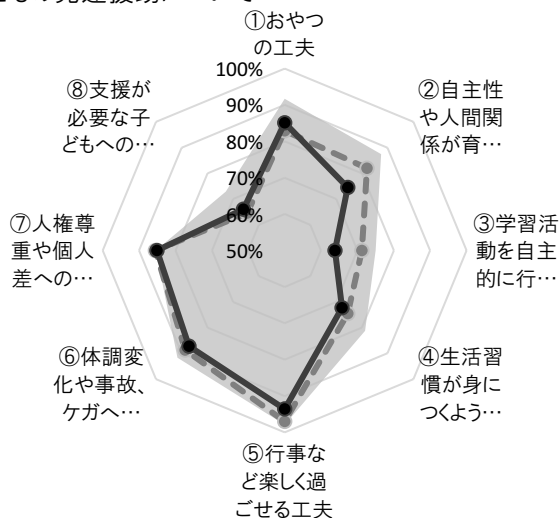
利用しているクラブ組織と運営について



サービス提供の手順について

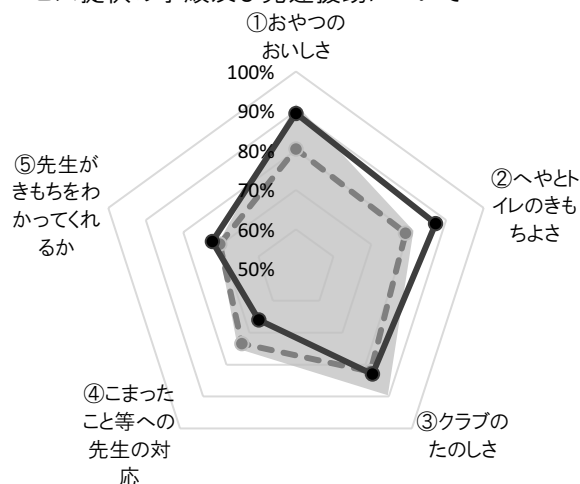


子どもの発達援助について



II 児童の回答

サービス提供の手順及び発達援助について



評価結果

令和元年度

美浜南小学校地区児童育成クラブ

◆クラブ・運営事業者のプロフィール

事業者の名称		株式会社セリオ							
クラブの所在地		浦安市美浜三丁目15番1号							
クラブの連絡先		電話	047-350-6624	F A X	047-350-6624				
当該クラブの運営開始日		平成 28年 4月 1日							
開設場所		小学校校舎内							
定員／現在の利用者数 (令和2年1月末現在)		定 員		70人		利用者数		85人	
職員数 (令和2年1月末現在)	常勤	職員数	6人	うち、男性		1人	うち、女性		5人
		有資格者数		保育士	0人	幼稚園 教諭	0人	幼稚園以 外の教諭	4人
	非常勤	職員数	13人	うち、男性		4人	うち、女性		9人
		有資格者数		保育士	0人	幼稚園 教諭	0人	幼稚園以 外の教諭	1人

◆運営事業者のサービス提供方針

サービスの提供にあたって大切にしていること	児童、保護者共に安心、安全に利用できるように安全管理に務めている。児童が楽しい、また来たいと思えるクラブにするために支援員が一丸となりサービスの向上に努めている。保護者との関係を大切に、児童だけではなく支援員自身も楽しむことができる職場環境づくりを心掛けている。
-----------------------	---

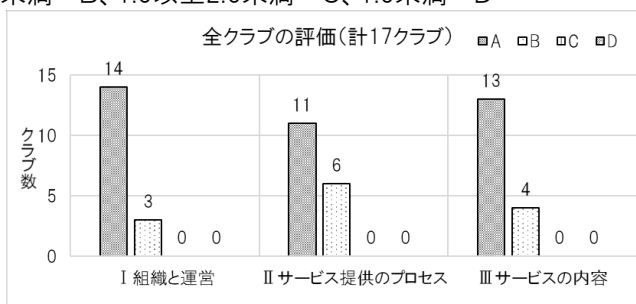
		事業者の強み アピールしたい取り組み	サービス改善に向けた取り組み 今後の展望
Ⅰ 組織と運営	1 運営	市や学校及び運営本部との報告・連絡・相談体制を整え、支援員間も同様に徹底している。事業者として本部との連携を密にし、施設間においても事故防止、質の向上へ定期的に情報連携を行っている。雇用形態に関わらず全職員が施設運営を担っている意識を持ち、全員が担当や役割を持ち、「全員運営」を心がけている。	学校との報告・連絡・相談体制をより一層強化する為に、定期的且つ積極的なコミュニケーションがとれるよう努めていく。玄関に写真を掲示することで保護者との会話が増えてきた。大きいイベントの時だけでなく、子ども達のクラブでの姿をもっと伝えられるよう、更に工夫していきたい。
	2 人事		
	3 情報		
	4 適正な会計事務の執行		
	5 危機管理		
	6 個人情報保護		
Ⅱ サービス提供の	1 利用希望者への対応	保護者からの相談にいつでも応えられるよう受け入れ体制を整えている。苦情については支援員全員に周知・情報共有し、可能な限り迅速に対応し信用回復に努めている。入会希望者見学の際、保護者の希望を最優先に対応し、丁寧な説明を心がけている。	地域との関わりを広げられるよう、積極的に地域行事に参加したり、ボランティアを受け入れる等していきたい。
	2 計画作成・見直し		
	3 サービスの標準化		
	4 苦情解決		
	5 保護者に対するサポート		
	6 人権の尊重		
	7 地域との連携・交流		
Ⅲ サービスの内容	1 基本原則	おたよりを毎月発行し行事や保護者へのお願い事項等を記載。写真やコメントも掲載し、児童の様子を知ってもらえるよう工夫している。各種行事も児童の要望を取り入れている。アレルギーについては児童毎に対応表を作り、提供前・提供時のダブルチェックを徹底。おやつも季節物やご当地おやつ等工夫している。	社会見学や演劇鑑賞等施設外での行事を増やし、集団での移動や縦割り班での行動を通して社会性・協調性を培う機会を設ける。児童のニーズに応じて、好評のスポーツイベントやめんこ大会、工作等の内容を更に充実させ、人気があるものについては定期的に実施していきたい。今後もアンケート等を通して児童の声を育成に更に活かしていく。
	2 コミュニケーション		
	3 相談等の援助		
	4 健康管理		
	5 自傷他害への対応		
	6 活動		
	7 おやつ提供		
	8 施設環境		
	9 来所・帰宅		

◆ 運営事業者による自己評価結果

児童育成クラブの自己評価(大項目評価)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・自己評価を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価:大項目平均値 3.5以上=A、2.5以上3.5未満=B、1.5以上2.5未満=C、1.5未満=D

評価項目 (大項目)	令和元年度
	(平成30年度)※
Ⅰ 組織と運営	A
	(A)
Ⅱ. サービス提供のプロセス	A
	(A)
Ⅲ. サービスの内容	A
	(A)

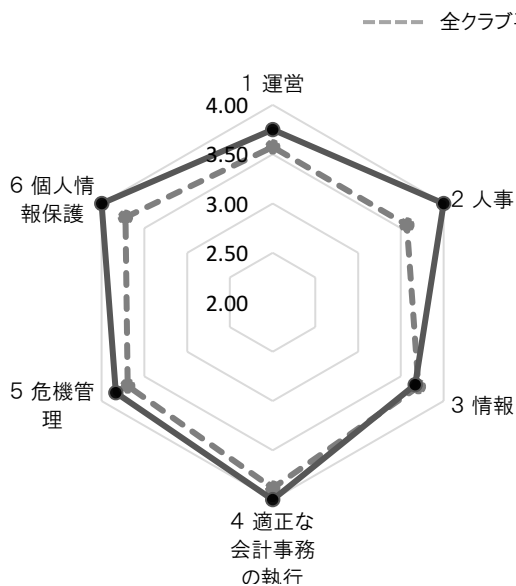


※令和元年度より評価基準が変更になったため、平成30年度は参考値となります。

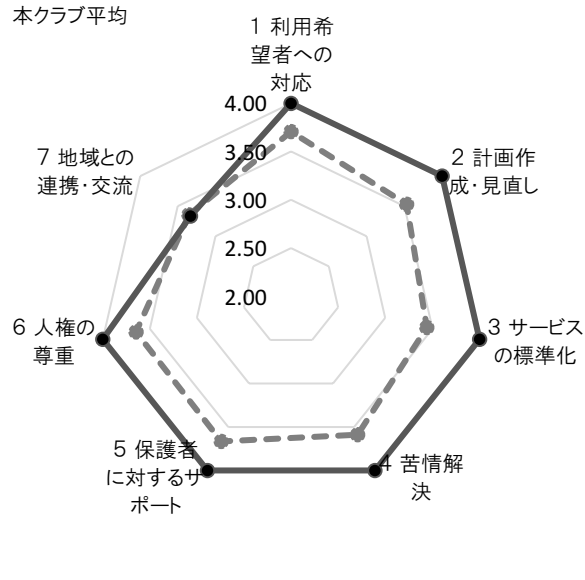
児童育成クラブの自己評価(中項目評価)

- ・各クラブの中項目の平均値と全クラブの平均値をグラフ化しています。
- ・平均値と比べることで、運営面やサービス面における本クラブの強みや弱みを把握します。
- ・評価:4=優れた取り組みができている、3=おおむねできている、2=あまりできていない、1=まったくできていない

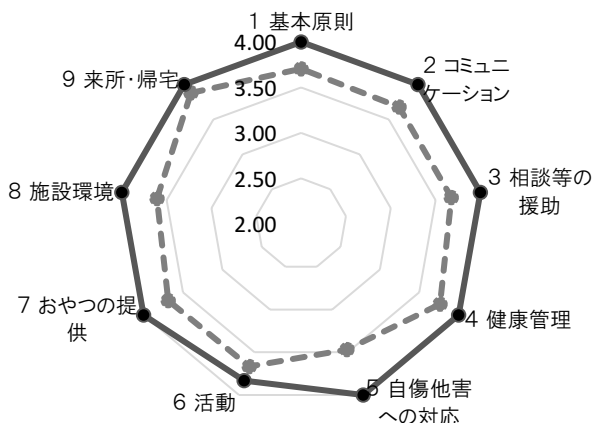
Ⅰ. 組織と運営



Ⅱ. サービス提供のプロセス



Ⅲ. サービスの内容

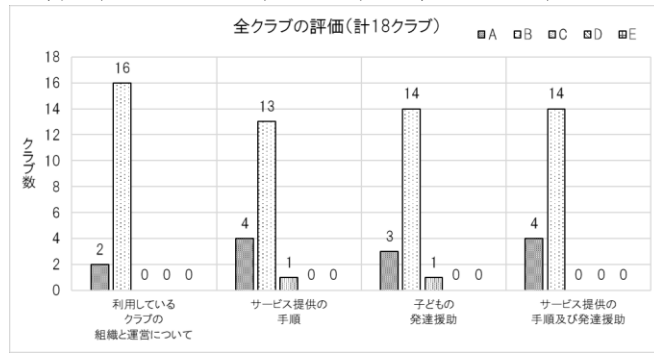


◆利用者による評価結果

児童育成クラブの利用者調査(テーマ別)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・当該クラブの評価結果を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価：A=大変優れている、B=優れている、C=普通、D=やや不十分である、E=極めて不十分である

テーマ		令和元年度 (平成30年度)
保護者	利用しているクラブの組織と運営について	B (A)
	サービス提供の手順について	A (A)
	子どもの発達援助について	B (B)
児童	サービス提供の手順及び発達援助について	B (B)

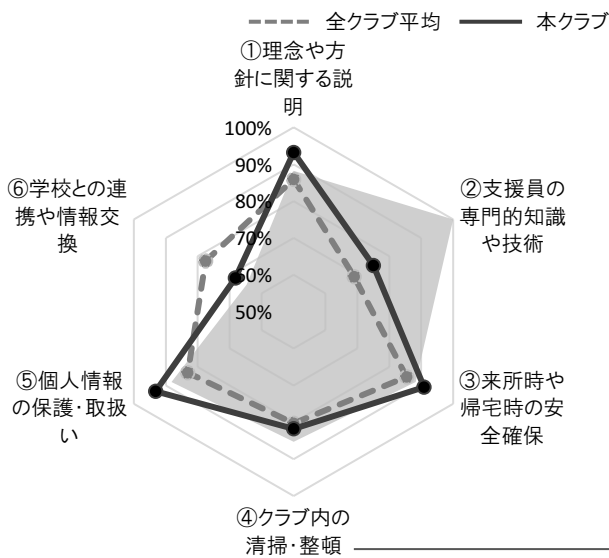


児童育成クラブの利用者調査(設問別)

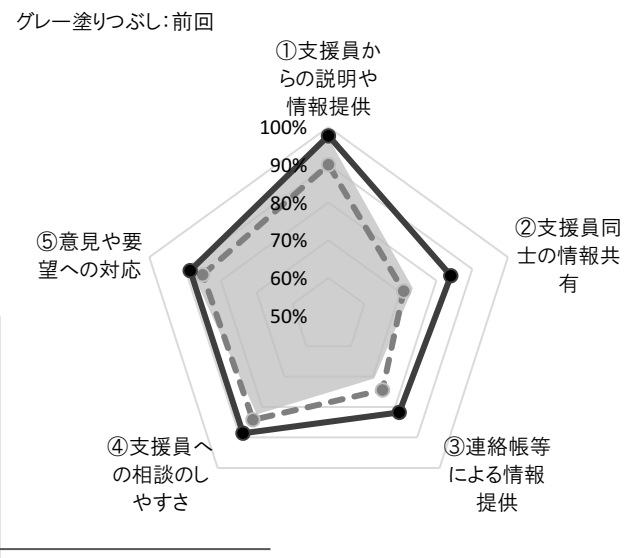
- ・設問別の評価について、本クラブと全クラブの回答(はいの割合)、前年度における本クラブの回答(はいの割合)を示しています。

I 保護者の回答

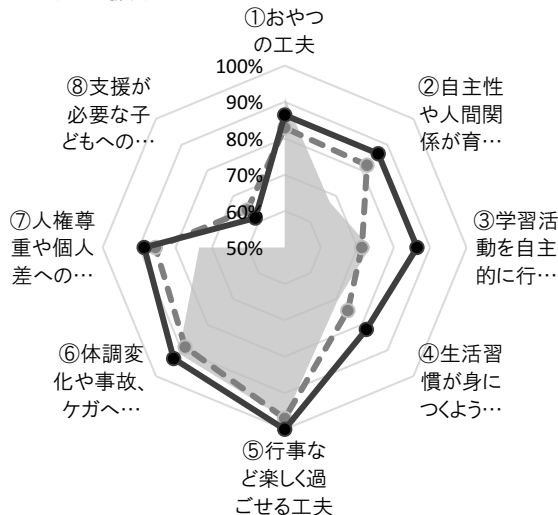
利用しているクラブ組織と運営について



サービス提供の手順について

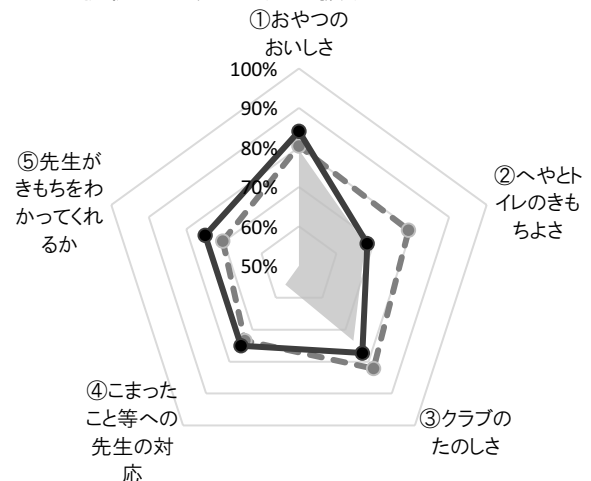


子どもの発達援助について



II 児童の回答

サービス提供の手順及び発達援助について



評価結果

令和元年度

東小学校地区児童育成クラブ

◆クラブ・運営事業者のプロフィール

事業者の名称		特定非営利活動法人 チアイースト							
クラブの所在地		浦安市猫実一丁目11番1号							
クラブの連絡先		電話	047-350-4424	F A X	047-350-4424				
当該クラブの運営開始日		令和元年 4月 1日							
開設場所		小学校敷地内							
定員／現在の利用者数 (令和2年1月末現在)		定 員		120人		利用者数		86人	
職員数 (令和2年1月末現在)	常勤	職員数	14人	うち、男性		3人	うち、女性		11人
		有資格者数		保育士	2人	幼稚園 教諭	0人	幼稚園以 外の教諭	1人
	非常勤	職員数	19人	うち、男性		3人	うち、女性		16人
		有資格者数		保育士	0人	幼稚園 教諭	0人	幼稚園以 外の教諭	1人

◆運営事業者のサービス提供方針

サービスの提供にあたって大切にしていること	大きな怪我に注意しながらも、児童が全力で遊びに取り組めるクラブであることを目標としています。異なる学年の児童が同じ時間を過ごすことが出来るのが育成クラブの良さなので、支援員も児童同士の関係を大切に、サポートするように心がけています。また、本室と分室が離れて設置されていますが、サービスに差が出ないように気を付けています。
-----------------------	--

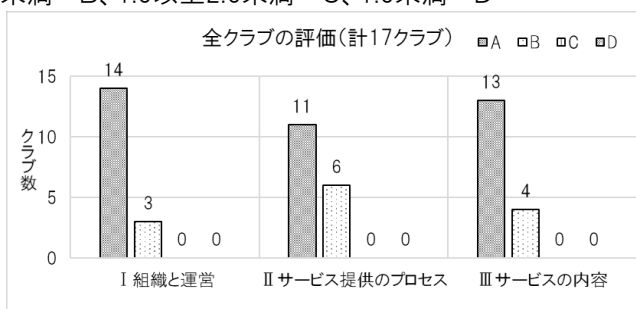
		事業者の強み アピールしたい取り組み	サービス改善に向けた取り組み 今後の展望
Ⅰ 組織と運営	1 運営	特定非営利活動法人チアイーストは、昨年まで児童育成クラブ保護者が組織していた運営委員会と、放課後子ども教室を運営していた運営委員会とが合わさって出来た法人です。 今まで通り、保護者の意見が通りやすく反映されやすい環境であると同時に、長く運営委員会で務めてきた支援員の経験を生かした、安定した支援が大きな点です。	運営委員会が運営していた時は、保護者の行事参加が大きな特徴でしたが、それは同時に保護者の大きな負担でもありました。保護者の負担は最小限にしつつ、保護者同士の交流はこれまで通りに出来るようになっていくことが、今後の課題だと考えています。
	2 人事		
	3 情報		
	4 適正な会計事務の執行		
	5 危機管理		
	6 個人情報保護		
Ⅱ サービス提供の	1 利用希望者への対応	見学者は随時受け入れ、保護者への説明等も文書で行っています。新人の支援員とは、毎日の始まりと終わりには反省会をして、日々成長できるようにしています。 保護者からの苦情・相談は支援員・運営どちらも受け付けていて、検討がされたあと保護者に通知がいくようにしています。	新人に対する教育・研修について、今後十分な支援員数を確保した後、さらに理解が深まるように行っていきたいと考えています。
	2 計画作成・見直し		
	3 サービスの標準化		
	4 苦情解決		
	5 保護者に対するサポート		
	6 人権の尊重		
	7 地域との連携・交流		
Ⅲ サービスの内容	1 基本原則	児童の主体的な活動を第一と考え、それが可能な環境を作り、支援できるようにしています。遊びを通して児童同士、または支援員と児童で関るので、児童との心の距離は近いと感じています。 おやつは季節の行事に関係することが多いので、量や質と同様にその部分も大切にしています。	クラブにいる時間の多くが自由時間ですが、宿題や自主学習を重視する保護者の方もいますので、児童一人一人が余裕を持って学習時間をとれるようにしていきたいと思っています。 時間帯で部屋を用途によって使い分けています。
	2 コミュニケーション		
	3 相談等の援助		
	4 健康管理		
	5 自傷他害への対応		
	6 活動		
	7 おやつ提供		
	8 施設環境		
	9 来所・帰宅		

◆運営事業者による自己評価結果

児童育成クラブの自己評価(大項目評価)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・自己評価を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価:大項目平均値 3.5以上=A、2.5以上3.5未満=B、1.5以上2.5未満=C、1.5未満=D

評価項目 (大項目)	令和元年度
	(平成30年度)※
Ⅰ 組織と運営	A
	(A)
Ⅱ. サービス提供のプロセス	B
	(A)
Ⅲ. サービスの内容	A
	(A)

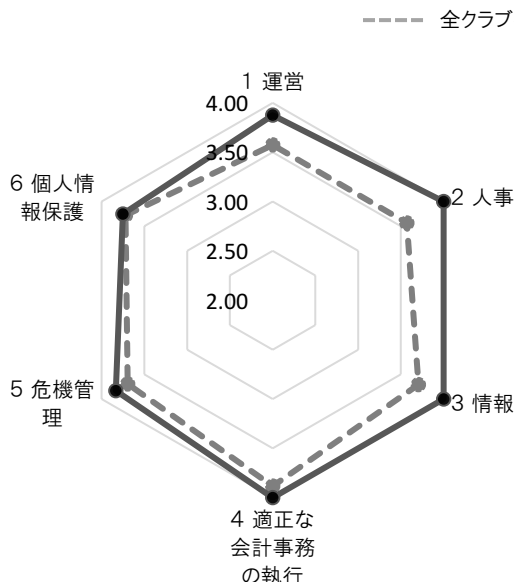


※令和元年度より評価基準が変更になったため、平成30年度は参考値となります。

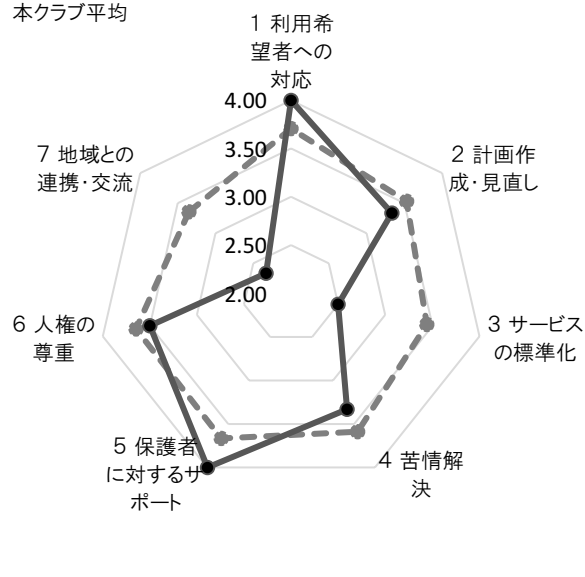
児童育成クラブの自己評価(中項目評価)

- ・各クラブの中項目の平均値と全クラブの平均値をグラフ化しています。
- ・平均値と比べることで、運営面やサービス面における本クラブの強みや弱みを把握します。
- ・評価:4=優れた取り組みができている、3=おおむねできている、2=あまりできていない、1=まったくできていない

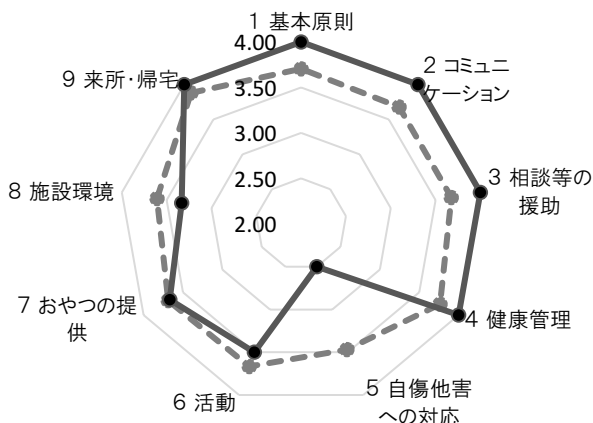
Ⅰ. 組織と運営



Ⅱ. サービス提供のプロセス



Ⅲ. サービスの内容



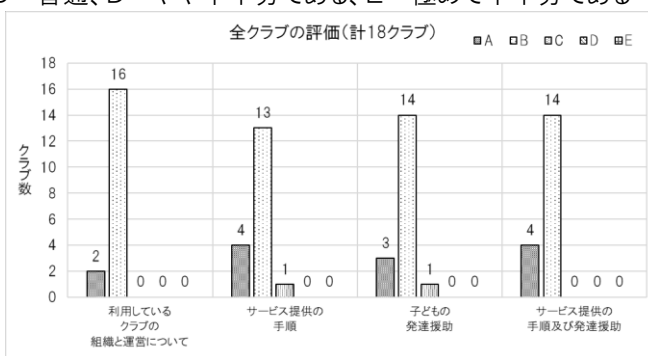


◆利用者による評価結果

児童育成クラブの利用者調査(テーマ別)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・当該クラブの評価結果を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価：A=大変優れている、B=優れている、C=普通、D=やや不十分である、E=極めて不十分である

テーマ		令和元年度 (平成30年度)
保護者	利用しているクラブの組織と運営について	B (A)
	サービス提供の 手順について	B (B)
	子どもの発達援助に ついて	B (A)
児童	サービス提供の手順 及び発達援助について	B (B)

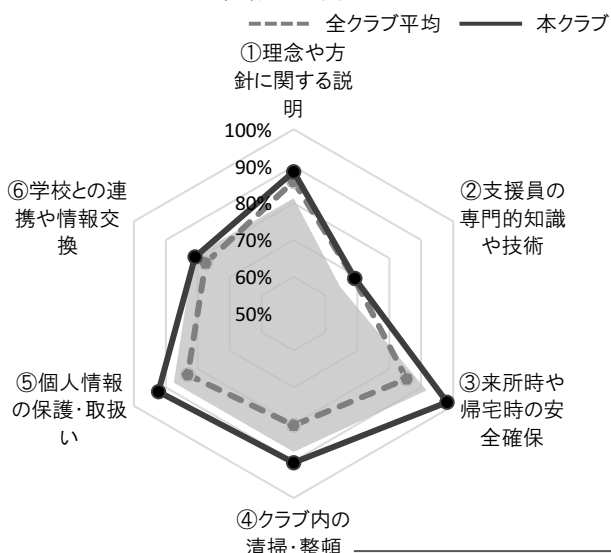


児童育成クラブの利用者調査(設問別)

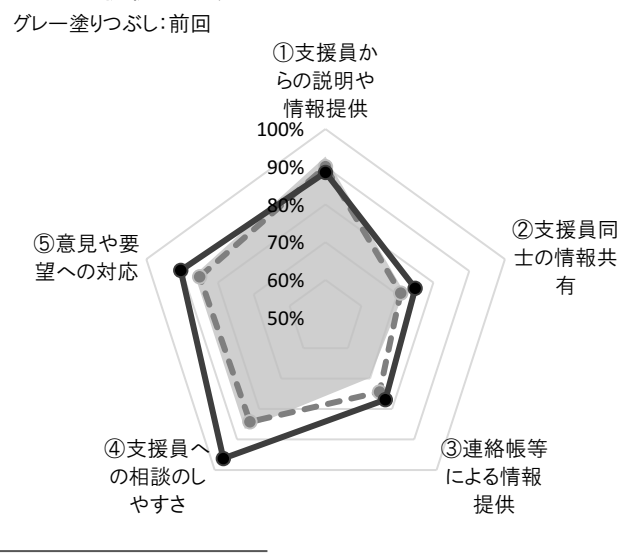
- ・設問別の評価について、本クラブと全クラブの回答(はいの割合)、前年度における本クラブの回答(はいの割合)を示しています。

I 保護者の回答

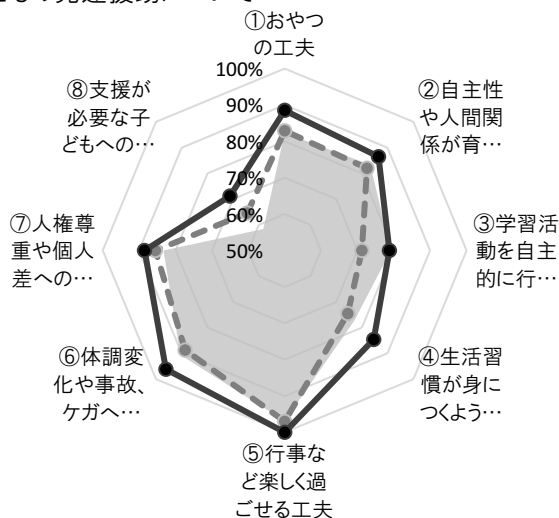
利用しているクラブ組織と運営について



サービス提供の手順について

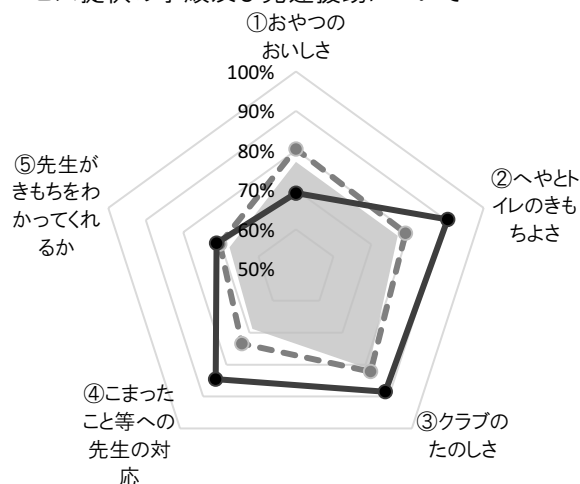


子どもの発達援助について



II 児童の回答

サービス提供の手順及び発達援助について



評価結果

令和元年度

東小学校地区北栄分室児童育成クラブ

◆クラブ・運営事業者のプロフィール

事業者の名称	特定非営利活動法人 チアイースト						
クラブの所在地	浦安市北栄四丁目1番17号						
クラブの連絡先	電話	047-382-2324	F A X	047-382-2324			
当該クラブの運営開始日	令和元年 4月 1日						
開設場所	その他(北栄のふたば保育園内)						
定員／現在の利用者数 (令和2年1月末現在)	定 員	78人		利用者数	67人		
職員数 (令和2年1月末現在)	常勤	職員数	14人	うち、男性	3人	うち、女性	11人
		有資格者数	保育士	2人	幼稚園 教諭	0人	幼稚園以 外の教諭
	非常勤	職員数	19人	うち、男性	3人	うち、女性	16人
		有資格者数	保育士	0人	幼稚園 教諭	0人	幼稚園以 外の教諭

◆運営事業者のサービス提供方針

サービスの提供にあたって大切にしていること	大きな怪我に注意しながらも、児童が全力で遊びに取り組めるクラブであることを目標としています。異なる学年の児童が同じ時間を過ごすことが出来るのが育成クラブの良さなので、支援員も児童同士の関係を大切に、サポートするように心がけています。また、本室と分室が離れて設置されていますが、サービスに差が出ないように気を付けています。
-----------------------	--

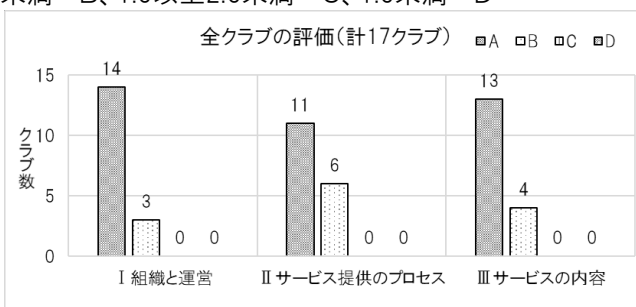
	事業者の強み アピールしたい取り組み	サービス改善に向けた取り組み 今後の展望
Ⅰ 組織と運営	1 運営	運営委員会が運営していた時は、保護者の行事参加が大きな特徴でしたが、それは同時に保護者の大きな負担でもありました。保護者の負担は最小限にしつつ、保護者同士の交流はこれまで通りに出来るようになっていくことが、今後の課題だと考えています。
	2 人事	
	3 情報	
	4 適正な会計事務の執行	
	5 危機管理	
	6 個人情報保護	
Ⅱ サービス提供の	1 利用希望者への対応	新人に対する教育・研修について、今後十分な支援員数を確保した後、さらに理解が深まるように行っていきたいと考えています。
	2 計画作成・見直し	
	3 サービスの標準化	
	4 苦情解決	
	5 保護者に対するサポート	
	6 人権の尊重	
	7 地域との連携・交流	
Ⅲ サービスの内容	1 基本原則	クラブにいる時間の多くが自由時間ですが、宿題や自主学習を重視する保護者の方もいますので、児童一人一人が余裕を持って学習時間をとれるようにしていきたいと思っています。 時間帯で部屋を用途によって使い分けています。
	2 コミュニケーション	
	3 相談等の援助	
	4 健康管理	
	5 自傷他害への対応	
	6 活動	
	7 おやつ提供	
	8 施設環境	
	9 来所・帰宅	

◆運営事業者による自己評価結果

児童育成クラブの自己評価(大項目評価)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・自己評価を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価:大項目平均値 3.5以上=A、2.5以上3.5未満=B、1.5以上2.5未満=C、1.5未満=D

評価項目 (大項目)	令和元年度
	(平成30年度)※
I 組織と運営	A
	(A)
II. サービス提供のプロセス	B
	(A)
III. サービスの内容	A
	(A)



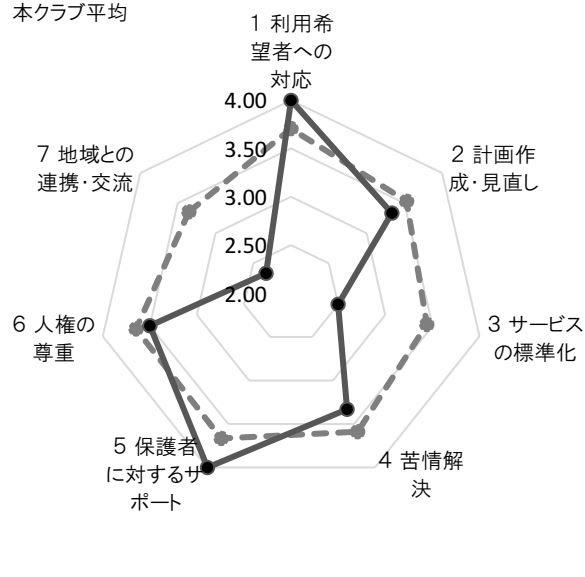
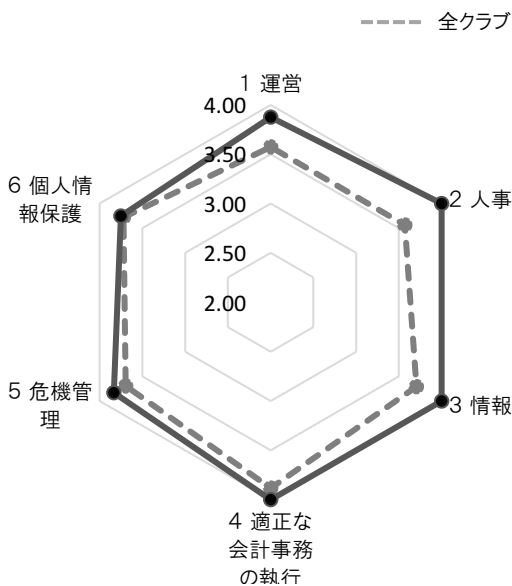
※令和元年度より評価基準が変更になったため、平成30年度は参考値となります。

児童育成クラブの自己評価(中項目評価)

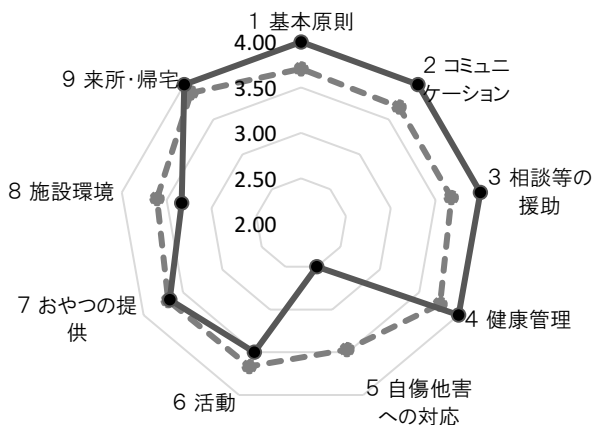
- ・各クラブの中項目の平均値と全クラブの平均値をグラフ化しています。
- ・平均値と比べることで、運営面やサービス面における本クラブの強みや弱みを把握します。
- ・評価:4=優れた取り組みができています、3=おおむねできている、2=あまりできていない、1=まったくできていない

I. 組織と運営

II. サービス提供のプロセス



III. サービスの内容

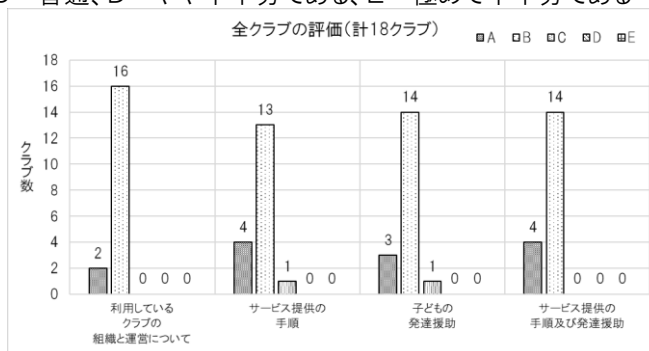


◆利用者による評価結果

児童育成クラブの利用者調査(テーマ別)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・当該クラブの評価結果を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価：A=大変優れている、B=優れている、C=普通、D=やや不十分である、E=極めて不十分である

テーマ		令和元年度 (平成30年度)
保護者	利用しているクラブの組織と運営について	B (A)
	サービス提供の手順について	B (B)
	子どもの発達援助について	B (A)
児童	サービス提供の手順及び発達援助について	A (B)

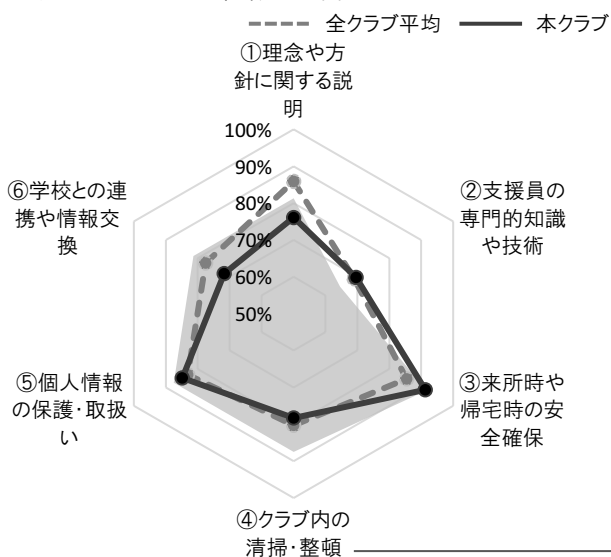


児童育成クラブの利用者調査(設問別)

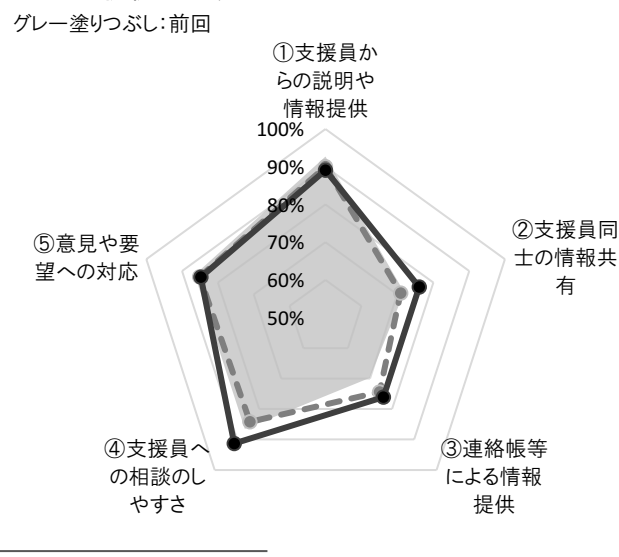
- ・設問別の評価について、本クラブと全クラブの回答(はいの割合)、前年度における本クラブの回答(はいの割合)を示しています。

I 保護者の回答

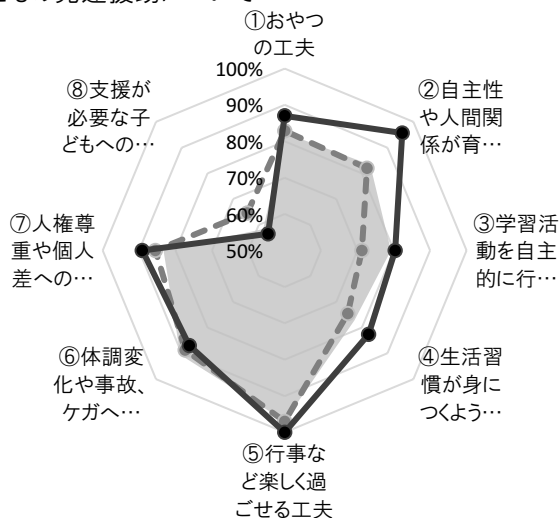
利用しているクラブ組織と運営について



サービス提供の手順について

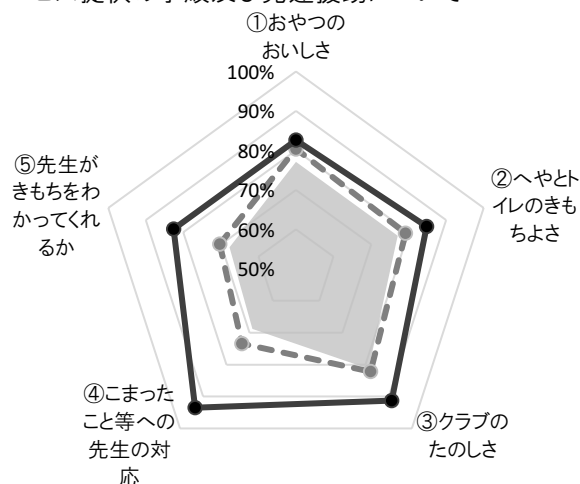


子どもの発達援助について



II 児童の回答

サービス提供の手順及び発達援助について



評価結果

令和元年度

舞浜小学校地区児童育成クラブ

◆クラブ・運営事業者のプロフィール

事業者の名称		株式会社ベネッセスタイルケア						
クラブの所在地		浦安市舞浜二丁目1番1号						
クラブの連絡先		電話	047-352-3615	F A X	047-352-3615			
当該クラブの運営開始日		平成 28年 4月 1日						
開設場所		小学校敷地内						
定員／現在の利用者数 (令和2年1月末現在)		定 員	150人		利用者数	152人		
職員数 (令和2年1月末現在)	常勤	職員数	7人	うち、男性	3人	うち、女性	4人	
		有資格者数	保育士	1人	幼稚園 教諭	0人	幼稚園以 外の教諭	2人
	非常勤	職員数	7人	うち、男性	3人	うち、女性	4人	
		有資格者数	保育士	1人	幼稚園 教諭	0人	幼稚園以 外の教諭	0人

◆運営事業者のサービス提供方針

サービスの提供にあたって大切にしていること	「その子らしく伸びていく」 「学びと遊びのリズムを整える」 子供は、大人が成長させるものではなく自ら成長する芽をもっている。その手助けをしていくこと。それが健全な子供の育成に大切なことであることを保護者にも理解してもらいながら、支援する。
-----------------------	---

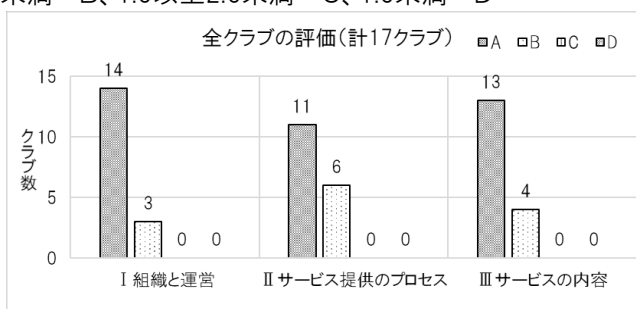
		事業者の強み アピールしたい取り組み	サービス改善に向けた取り組み 今後の展望
Ⅰ 組織と運営	1 運営	CPR研修や社の理念研修、男性スタッフ研修等、保育に必要な知識を研磨する研修に加え、想定されるシチュエーションに対応出来る専門性ある研修(感染症対策等)等、年間50以上の研修を実施しております。 安全・衛生面についても、感染症等発生時は施設内の消毒等マニュアルに則った対応を徹底している他、怪我が発生した際も、軽微なものでも社独自の伝票を用いご家庭に報告、経過観察を図り情報共有に努めております。 スタッフについても、年2回以上の面談を実施する他、拠点長はもとより本部・社直通の連絡先も周知されており、ご勤務頂くにあたり、相談や連絡を速やかに取れる風通しの良い環境創り、受付窓口を設置しており、気持ちよくご勤務頂けるよう努めております。	拠点長にかかる負担軽減の為、就労管理から勤務状況の把握にシステム化を図ることを検討しております。
	2 人事		
	3 情報		
	4 適正な会計事務の執行		
	5 危機管理		
	6 個人情報保護		
Ⅱ サービスの提供	1 利用希望者への対応	新たに採用したスタッフだけでなく、在勤の職員にも、理念(「その子らしく伸びていく」)の理解・実現力が深まる研修を毎年の必修としております。 入会に至る経緯やその後のご意見も、専門の連絡先を設けている他、叱咤を頂いたりマニュアルに則していない案件が発生した場合は、即時報告・本部からのヒアリング・現場検証の仕組みが確立されております。 保護者様から育児やお話の場をご要望頂いた際は、速やかに面談を実施している他、写真をふんだんに使ったお便りの発行等、日々の活動・生活を出来る限りお伝えし、安心につなげて頂いております。	子どもたちが安心して落ち着いて過ごせるよう、今以上のスタッフの定着を考えております。 その為に拠点・仕事内容の理解、スタッフ間の連携がより円滑に図れるように取組、「居場所がある・役割がある・やりがいがある」職場環境となるよう努めて参ります。
	2 計画作成・見直し		
	3 サービスの標準化		
	4 苦情解決		
	5 保護者に対するサポート		
	6 人権の尊重		
	7 地域との連携・交流		
Ⅲ サービスの内容	1 基本原則	子どもたちの意見・人権については、「その子らしく」の理念のもと、出来る限りの実現への援助と、見守る保育を基盤としております。 おやつも、四季や時期(節句や十五夜等)を感じられるように、月々にあったメニュー構成を図っております。アレルギー児童に関しても、状況に応じアレルギーを含むものを除去する事に加え、教室内にアレルギー対応食を提供するスペースを設け、共に食を楽しみつつも混入が発生しない仕様を取っております。 子どもたちの多様性・感受性が育つ事を狙いとし、積極的な外遊びや遠足、弊社拠点間でのイベント参加を推奨しております。一例として、異年齢交流として高齢者施設との交流機会も積極的に設けております。また、拠点では学びに向かう時間として、日々30分以上の自学自習時間を設け、遊びと学びのリズム創りに努めております。	おやつに関しては、捕食に近いメニューの提供が、ニーズとしてある為、炭水化物を多く含むようなメニューの組み込みも検討しております。 また、弊社スタッフにより実施する各種コンテンツ(理科実験等)に加え、積極的に多様な外部講師を招聘し、専門性に触れる機会創りに努めて参ります。
	2 コミュニケーション		
	3 相談等の援助		
	4 健康管理		
	5 自傷他害への対応		
	6 活動		
	7 おやつ提供		
	8 施設環境		
	9 来所・帰宅		

◆運営事業者による自己評価結果

児童育成クラブの自己評価(大項目評価)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・自己評価を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価:大項目平均値 3.5以上=A、2.5以上3.5未満=B、1.5以上2.5未満=C、1.5未満=D

評価項目 (大項目)	令和元年度
	(平成30年度)※
I 組織と運営	B
	(A)
II. サービス提供のプロセス	B
	(A)
III. サービスの内容	B
	(A)

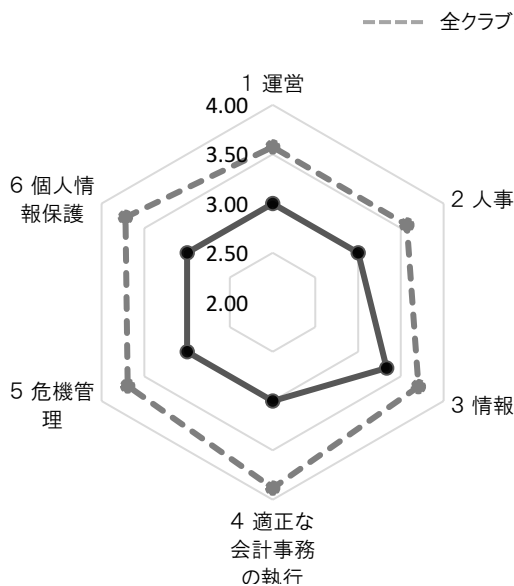


※令和元年度より評価基準が変更になったため、平成30年度は参考値となります。

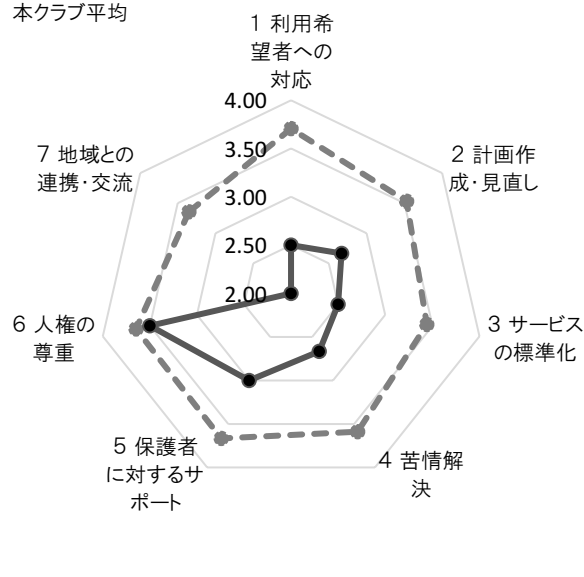
児童育成クラブの自己評価(中項目評価)

- ・各クラブの中項目の平均値と全クラブの平均値をグラフ化しています。
- ・平均値と比べることで、運営面やサービス面における本クラブの強みや弱みを把握します。
- ・評価:4=優れた取り組みができて、3=おおむねできている、2=あまりできていない、1=まったくできていない

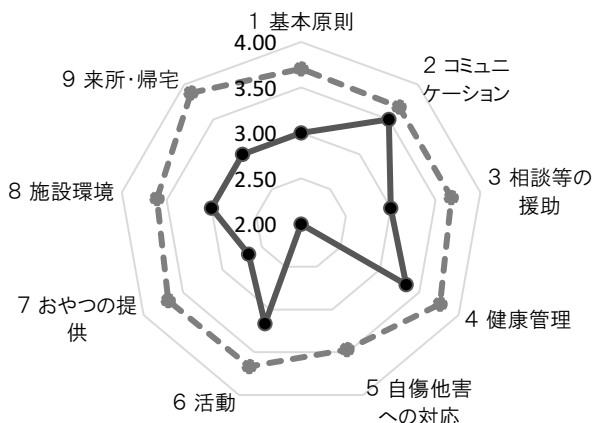
I. 組織と運営



II. サービス提供のプロセス



III. サービスの内容

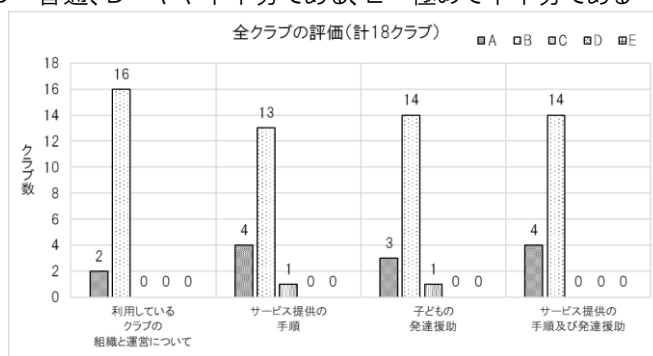


◆利用者による評価結果

児童育成クラブの利用者調査(テーマ別)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・当該クラブの評価結果を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価：A=大変優れている、B=優れている、C=普通、D=やや不十分である、E=極めて不十分である

テーマ		令和元年度 (平成30年度)
保護者	利用しているクラブの組織と運営について	B (B)
	サービス提供の 手順について	B (A)
	子どもの発達援助に ついて	B (A)
児童	サービス提供の手順 及び発達援助について	B (B)

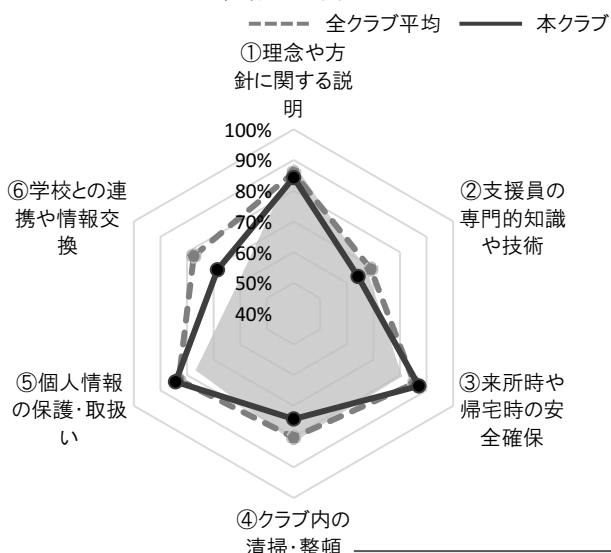


児童育成クラブの利用者調査(設問別)

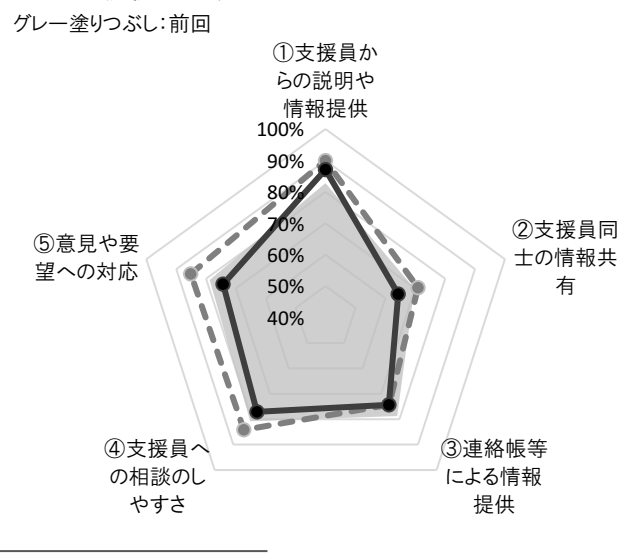
- ・設問別の評価について、本クラブと全クラブの回答(はいの割合)、前年度における本クラブの回答(はいの割合)を示しています。

I 保護者の回答

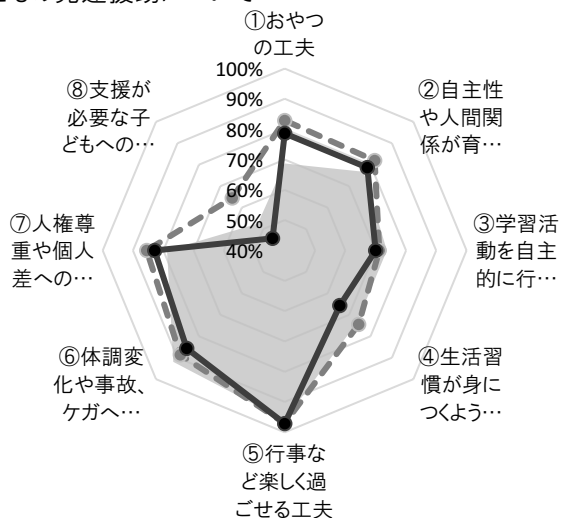
利用しているクラブ組織と運営について



サービス提供の手順について

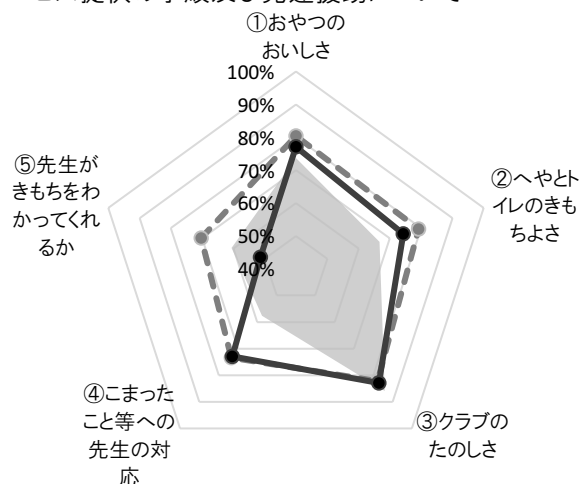


子どもの発達援助について



II 児童の回答

サービス提供の手順及び発達援助について



評価結果

令和元年度

美浜北小学校地区児童育成クラブ

◆クラブ・運営事業者のプロフィール

事業者の名称		株式会社明日葉							
クラブの所在地		浦安市美浜五丁目12番1号							
クラブの連絡先		電話	047-351-6050	F A X	047-351-6050				
当該クラブの運営開始日		平成 31年 4月 1日							
開設場所		小学校校舎内							
定員／現在の利用者数 (令和2年1月末現在)		定 員		78人		利用者数		39人	
職員数 (令和2年1月末現在)	常勤	職員数	5人	うち、男性		3人	うち、女性		2人
		有資格者数		保育士	1人	幼稚園 教諭	1人	幼稚園以 外の教諭	3人
	非常勤	職員数	4人	うち、男性		1人	うち、女性		3人
		有資格者数		保育士	0人	幼稚園 教諭	0人	幼稚園以 外の教諭	1人

◆運営事業者のサービス提供方針

サービスの提供にあたって大切にしていること	子どもたちが安心安全で過ごせる場、保護者様も安心して預けられる場の提供。また、地域との連携を大切にし、一体となって子どもたちを見守る。 子どもや保護者に寄り添ったものを考慮している。
-----------------------	--

		事業者の強み アピールしたい取り組み	サービス改善に向けた取り組み 今後の展望
Ⅰ 組織と運営	1 運営	保護者や児童一人ひとりに寄り添った支援ができています。 保護者や児童の意見に耳を傾け支援にあたれている。 全職員が危機管理できています。	2年目を迎えるにあたって、保護者・地域・学校との連携を一層強化していきたい。 運営責任者を軸として、主任支援員はじめ職員と定期的かつ積極的にコミュニケーションを図り、安定運営に努めていきたい。
	2 人事		
	3 情報		
	4 適正な会計事務の執行		
	5 危機管理		
	6 個人情報保護		
Ⅱ サービスの提供	1 利用希望者への対応	保護者とのコミュニケーションを大切にしている。 保護者や子どもたちのニーズを把握しながら、ニーズに応えられるよう配慮している。	今年度は、昨年度のものを継続して行う等、良い取り組みを引き継いでいる。 来年度は、さらにサービスの質の向上に努めていきたい。
	2 計画作成・見直し		
	3 サービスの標準化		
	4 苦情解決		
	5 保護者に対するサポート		
	6 人権の尊重		
	7 地域との連携・交流		
Ⅲ サービスの内容	1 基本原則	子どもたちが安心安全に過ごせるように環境作りができています。 また、子どもたちが楽しめるイベントを常に計画し、異年齢交流も積極的に行っている。 おやつに関しては、季節感やバランスを考慮し、提供できています。	職員のスキルアップに努め、職員の質の向上を図っていきたい。 本部や外部の機関と連携し、多種多様なサービスが提供できる環境を整備していきたい。
	2 コミュニケーション		
	3 相談等の援助		
	4 健康管理		
	5 自傷他害への対応		
	6 活動		
	7 おやつを提供		
	8 施設環境		
	9 来所・帰宅		

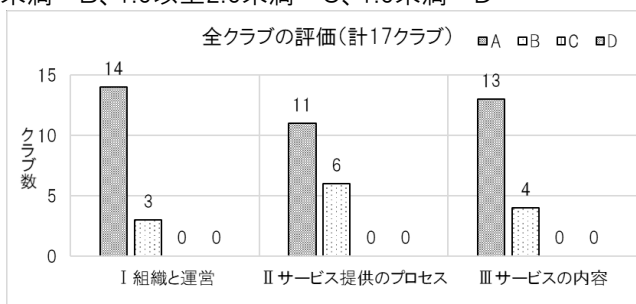


◆ 運営事業者による自己評価結果

児童育成クラブの自己評価(大項目評価)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・自己評価を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価:大項目平均値 3.5以上=A、2.5以上3.5未満=B、1.5以上2.5未満=C、1.5未満=D

評価項目 (大項目)	令和元年度
	(平成30年度)※
I 組織と運営	B
	(A)
II. サービス提供のプロセス	B
	(A)
III. サービスの内容	A
	(A)



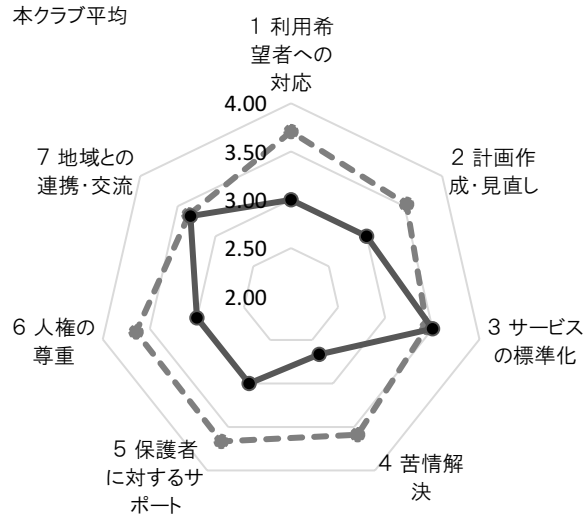
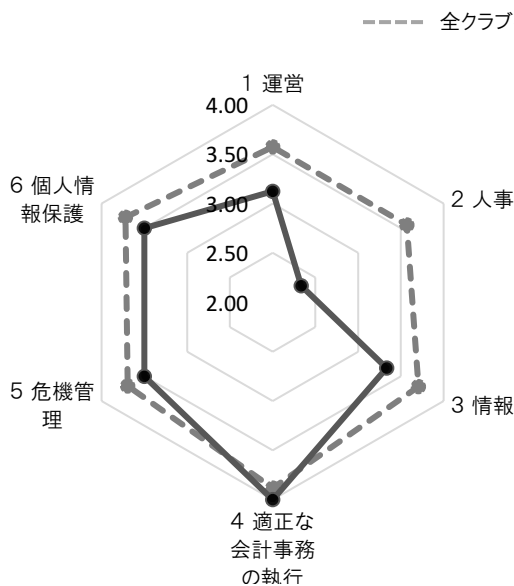
※令和元年度より評価基準が変更になったため、平成30年度は参考値となります。

児童育成クラブの自己評価(中項目評価)

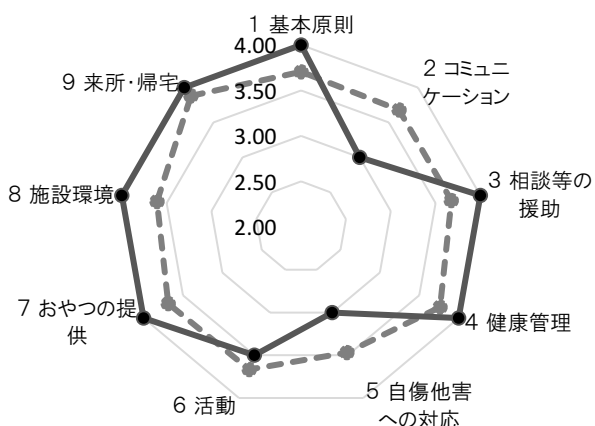
- ・各クラブの中項目の平均値と全クラブの平均値をグラフ化しています。
- ・平均値と比べることで、運営面やサービス面における本クラブの強みや弱みを把握します。
- ・評価:4=優れた取り組みができている、3=おおむねできている、2=あまりできていない、1=まったくできていない

I. 組織と運営

II. サービス提供のプロセス



III. サービスの内容

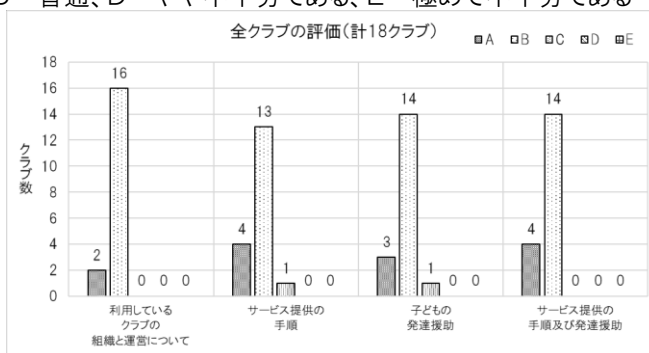


◆利用者による評価結果

児童育成クラブの利用者調査(テーマ別)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・当該クラブの評価結果を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価：A=大変優れている、B=優れている、C=普通、D=やや不十分である、E=極めて不十分である

テーマ		令和元年度 (平成30年度)
保護者	利用しているクラブの組織と運営について	B (B)
	サービス提供の手順について	B (B)
	子どもの発達援助について	B (B)
児童	サービス提供の手順及び発達援助について	B (B)

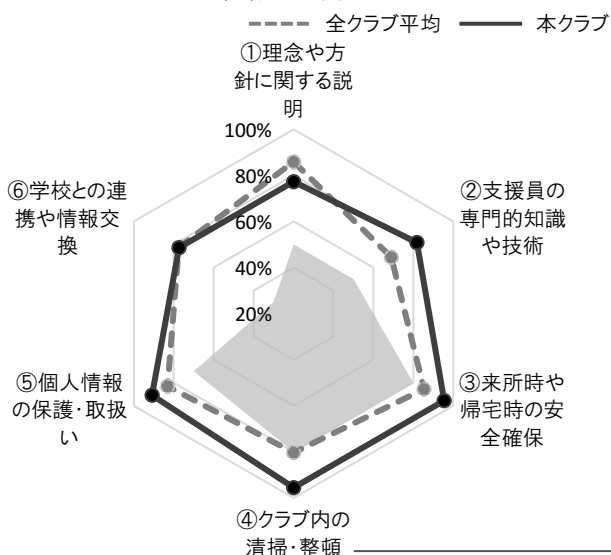


児童育成クラブの利用者調査(設問別)

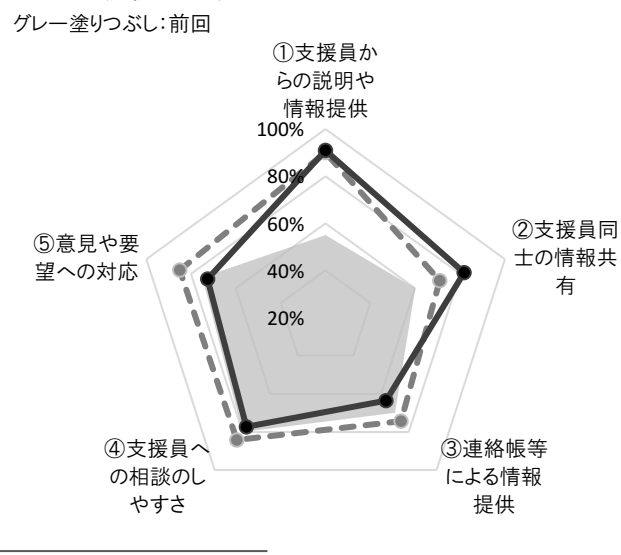
- ・設問別の評価について、本クラブと全クラブの回答(はいの割合)、前年度における本クラブの回答(はいの割合)を示しています。

I 保護者の回答

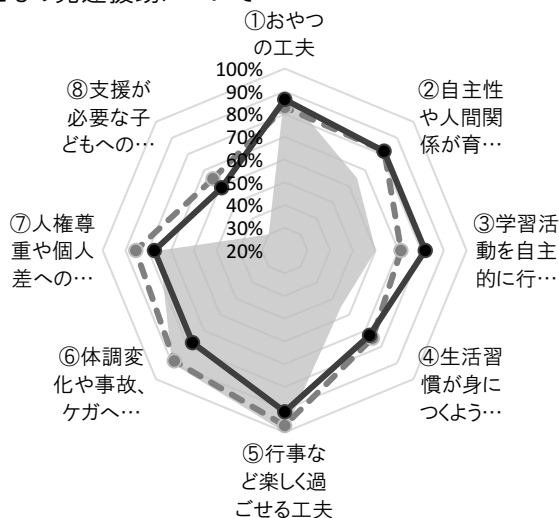
利用しているクラブ組織と運営について



サービス提供の手順について

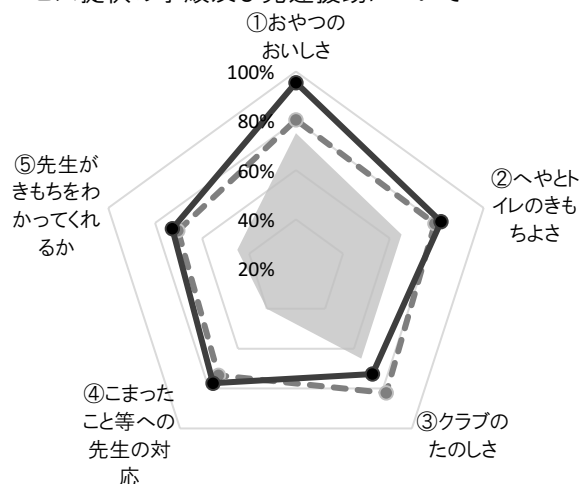


子どもの発達援助について



II 児童の回答

サービス提供の手順及び発達援助について



評価結果

令和元年度

日の出小学校地区児童育成クラブ

◆クラブ・運営事業者のプロフィール

事業者の名称		社会福祉法人わかみや福祉会						
クラブの所在地		浦安市日の出二丁目11番10号						
クラブの連絡先		電話	047-380-0666	F A X	047-380-0666			
当該クラブの運営開始日		平成 23年 4月 1日						
開設場所		小学校校舎内／小学校敷地外						
定員／現在の利用者数 (令和2年1月末現在)		定 員	138人		利用者数	106人		
職員数 (令和2年1月末現在)	常勤	職員数	5人	うち、男性	3人	うち、女性	2人	
		有資格者数		保育士	2人	幼稚園 教諭	0人	幼稚園以 外の教諭
	非常勤	職員数	15人	うち、男性	9人	うち、女性	6人	
		有資格者数		保育士	0人	幼稚園 教諭	0人	幼稚園以 外の教諭

◆運営事業者のサービス提供方針

サービスの提供にあたって大切にしていること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と一体となって子どもを支援するために、地域との交流を定期的に行う。</li> <li>・保護者が安心して働くことが出来るように支援の充実を目指す。</li> <li>・子育て機関としての役割を全職員が自覚し、地域に開かれた施設作りを目指す。</li> </ul>
-----------------------	---

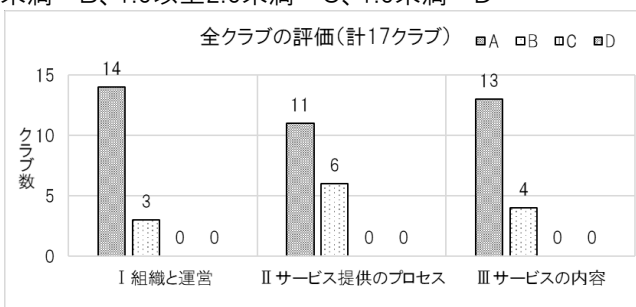
		事業者の強み アピールしたい取り組み	サービス改善に向けた取り組み 今後の展望
Ⅰ 組織と運営	1 運営	重要な決定事項はお便り、安全・安心メール、保護者会を通して発信している。 放課後子ども教室との定例の会議を通して情報共有を行い、一体となって改善に取り組んでいる。 必要に応じて、家庭と専門機関を繋ぐ役割を果たしている。	利用者と保護者に確実に伝達事項が伝わるようにお便りや保護者会の改善を図っていく。 災害時、緊急時を再現した環境を設定した避難訓練の実施。近隣の方、施設に協力をして頂き、実践的な訓練を行い、子どもたちの防災意識を高めていく。
	2 人事		
	3 情報		
	4 適正な会計事務の執行		
	5 危機管理		
	6 個人情報保護		
Ⅱ サービス提供の	1 利用希望者への対応	利用希望者には随時見学や説明を行っている。 利用者や保護者の不安や悩みを受け止めて全職員で共有し、時には関係機関と連携を取り支援している。 近隣保育園、老人介護施設、大学との交流を積極的に実施し、子どもたちの心を育てている。 車椅子利用者を講師に招いての親子向け講演会を開催して大きな反響を得た。	支援マニュアルを定期的に見直し、内容を更新していく。 地域との共育を行っていくために、小学校、保育園・老人施設・近隣自治会との連携をより高め、育成クラブへの理解と協力を得る。 放課後子ども教室との連携を通して小学校の全児童を支援していく。
	2 計画作成・見直し		
	3 サービスの標準化		
	4 苦情解決		
	5 保護者に対するサポート		
	6 人権の尊重		
	7 地域との連携・交流		
Ⅲ サービスの内容	1 基本原則	職員の得意分野を活かし、子どもたちに色々な遊び、行事を提供している。 子どもたちが主体となり、進めていく行事の企画、実施をしている。 気になる児童や支援児は小学校の校長、SLCや担任の先生との連携を密にするために、定期的な情報交換を行っている。	手作りおやつや季節の行事、クラス活動を通じて、子どもたちに温かい支援を提供していく。 子ども一人ひとりの思いを大切に、かつ保護者に寄り添い、包括的に支援していく。小学校、専門機関など、様々な立場の大人が関わることで、子ども達にとって最善の支援をしていく。
	2 コミュニケーション		
	3 相談等の援助		
	4 健康管理		
	5 自傷他害への対応		
	6 活動		
	7 おやつ提供		
	8 施設環境		
	9 来所・帰宅		

◆運営事業者による自己評価結果

児童育成クラブの自己評価(大項目評価)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・自己評価を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価:大項目平均値 3.5以上=A、2.5以上3.5未満=B、1.5以上2.5未満=C、1.5未満=D

評価項目 (大項目)	令和元年度
	(平成30年度)※
I 組織と運営	A
	(A)
II. サービス提供のプロセス	A
	(A)
III. サービスの内容	A
	(B)



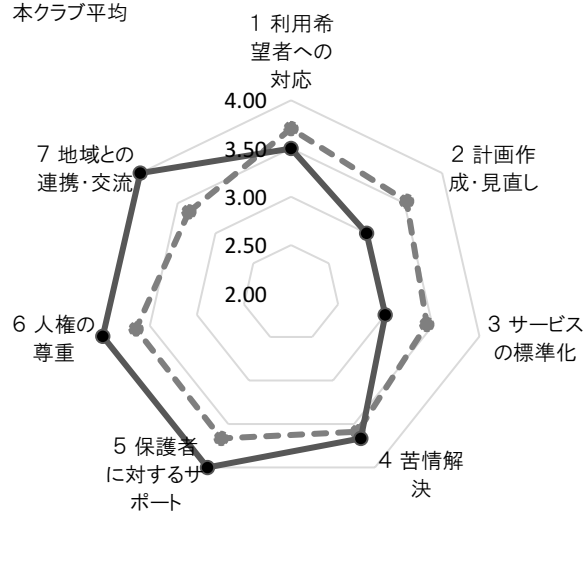
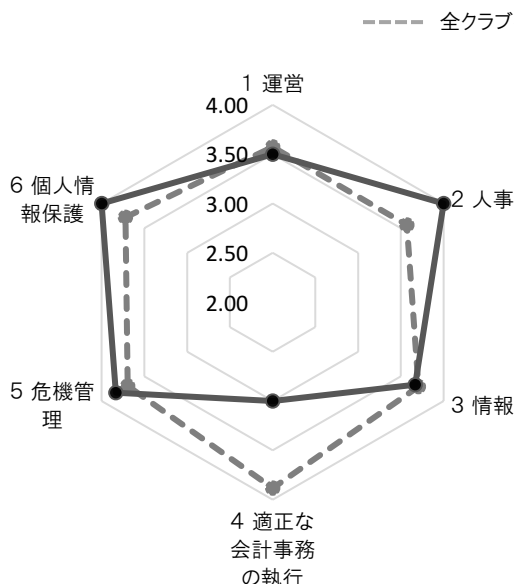
※令和元年度より評価基準が変更になったため、平成30年度は参考値となります。

児童育成クラブの自己評価(中項目評価)

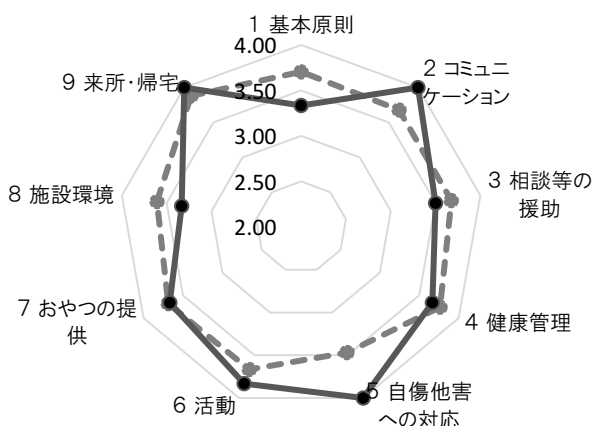
- ・各クラブの中項目の平均値と全クラブの平均値をグラフ化しています。
- ・平均値と比べることで、運営面やサービス面における本クラブの強みや弱みを把握します。
- ・評価:4=優れた取り組みができて、3=おおむねできている、2=あまりできていない、1=まったくできていない

I. 組織と運営

II. サービス提供のプロセス



III. サービスの内容

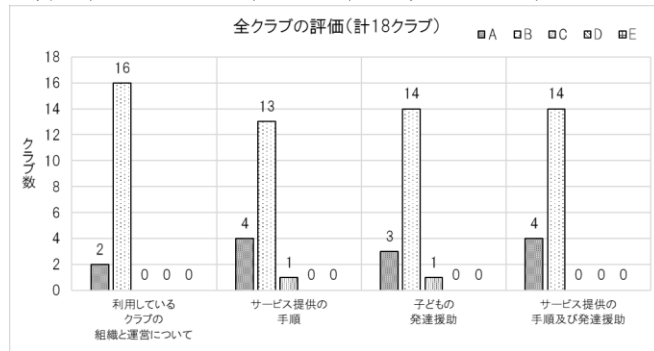


◆利用者による評価結果

児童育成クラブの利用者調査(テーマ別)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・当該クラブの評価結果を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価：A=大変優れている、B=優れている、C=普通、D=やや不十分である、E=極めて不十分である

テーマ		令和元年度 (平成30年度)
保護者	利用しているクラブの組織と運営について	B (A)
	サービス提供の手順について	B (A)
	子どもの発達援助について	B (A)
児童	サービス提供の手順及び発達援助について	B (B)

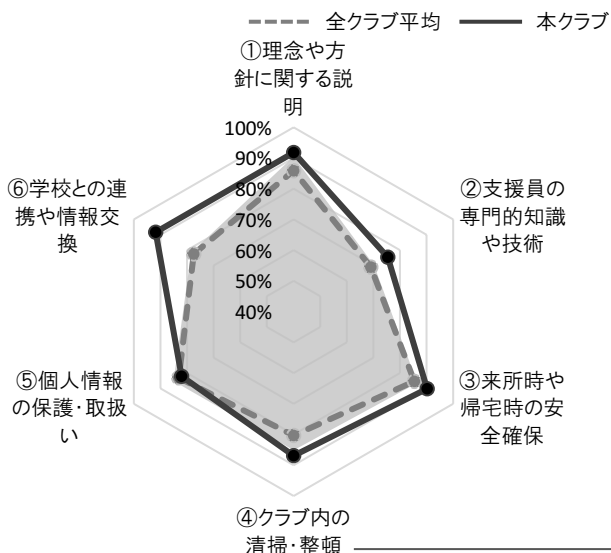


児童育成クラブの利用者調査(設問別)

- ・設問別の評価について、本クラブと全クラブの回答(はいの割合)、前年度における本クラブの回答(はいの割合)を示しています。

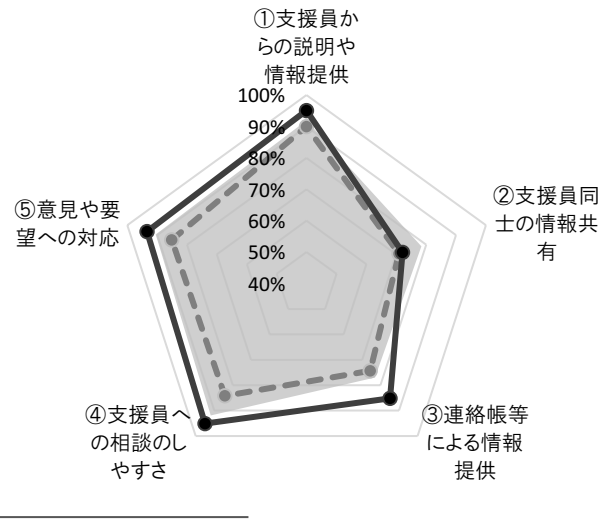
I 保護者の回答

利用しているクラブ組織と運営について

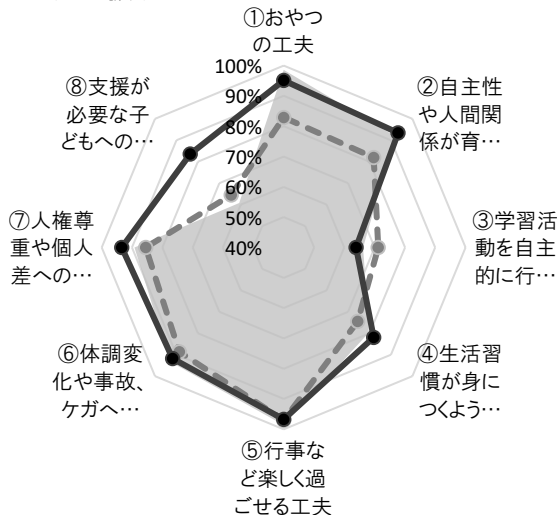


サービス提供の手順について

グレー塗りつぶし: 前回

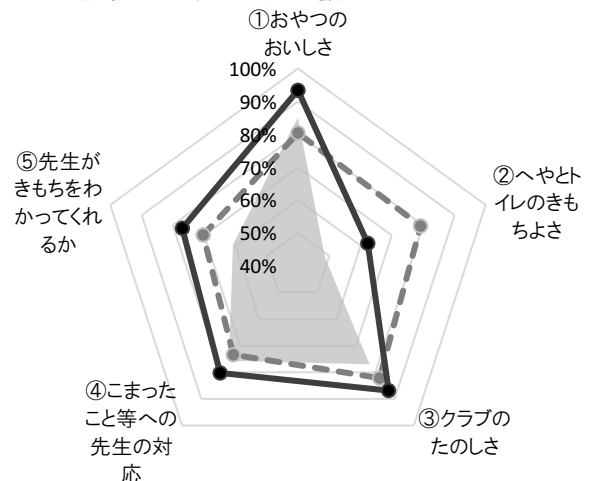


子どもの発達援助について



II 児童の回答

サービス提供の手順及び発達援助について



評価結果

令和元年度

明海小学校地区児童育成クラブ

◆クラブ・運営事業者のプロフィール

事業者の名称		特定非営利活動法人 ワーカーズコープ						
クラブの所在地		浦安市明海二丁目13番1号						
クラブの連絡先		電話	047-305-0220	F A X	047-305-0220			
当該クラブの運営開始日		平成 21年 4月 1日						
開設場所		小学校敷地外／その他(明海認定こども園第二園舎)						
定員／現在の利用者数 (令和2年1月末現在)		定 員	112人		利用者数	90人		
職員数 (令和2年1月末現在)	常勤	職員数	5人	うち、男性	1人	うち、女性	4人	
		有資格者数		保育士	1人	幼稚園 教諭	0人	幼稚園以 外の教諭
	非常勤	職員数	4人	うち、男性	2人	うち、女性	2人	
		有資格者数		保育士	0人	幼稚園 教諭	0人	幼稚園以 外の教諭

◆運営事業者のサービス提供方針

サービスの提供にあたって大切にしていること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども一人一人の自主性、自発性、創造性を育てます。</li> <li>・子どもたち同士の話し合いや提案を大切に、実行できるようにサポートしていきます。</li> <li>・地域の中で子育てをするという視点を大切に、地域交流を積極的に行います。</li> </ul>
-----------------------	--

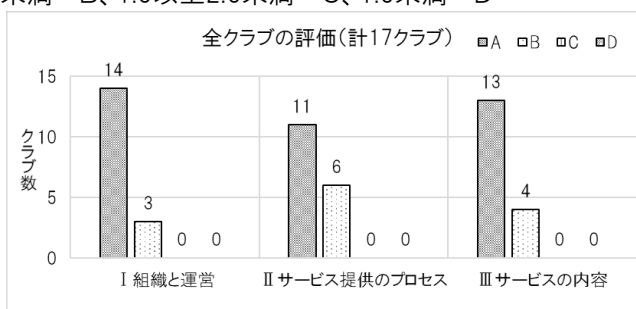
		事業者の強み アピールしたい取り組み	サービス改善に向けた取り組み 今後の展望
Ⅰ 組織と運営	1 運営	支援員一人ひとりが経営者として、運営に責任を持っている。毎日のミーティングや毎月の会議において話し合いや情報の共有を頻繁に行い、支援に活かすようにしている。 また、同事業者2クラブが連携してマニュアル作成を行うことで、運営体制を整えている。それと共に、ほぼ毎月合同で研修会を行い、学びを深めるとともに支援員同士で情報交換を行っている。	支援員が保護者、学校、地域の連携をはかり一緒に子どもを育てていけるようますます働きかけていく。支援員研修の内容を充実することで、継続して働きやすい環境を整えていきたい。 利用者が意見を出したり相談したりしやすくなるようなシステムを作っている。(寄り道カフェ)
	2 人事		
	3 情報		
	4 適正な会計事務の執行		
	5 危機管理		
	6 個人情報保護		
Ⅱ サービス提供の	1 利用希望者への対応	子どもを中心に、子どもが主役になれるような支援を目指している。自分たちで生活や遊びの決まりを考えたり、行事においては、実行委員を立て企画するところから子どもが参加できるようにしてきた。運営においては、地域で子育てをするという視点を大切にしており、地域のイベントにも積極的に参加している。	継続してお世話になっている自治会の方、近隣の幼保育園、地域の達人と、さらに関わり合いが持てるようになっていきたい。そのことによって、子ども自身が地域の方々に見守られながら大切に育てられているという実感を持てるようにしたい。
	2 計画作成・見直し		
	3 サービスの標準化		
	4 苦情解決		
	5 保護者に対するサポート		
	6 人権の尊重		
	7 地域との連携・交流		
Ⅲ サービスの内容	1 基本原則	子ども達にとって安心できる居場所になるようにしている。季節や伝統行事を大切にしながら、子ども達と共に自主性、自発性、創造性を育てるような行事を企画、実行している。 おやつに関しては、スナック菓子ではなく、手作り安心して食べられるものを提供している。	遊びや生活の中で、異学年、支援児が自然に関わりが持てるように、工夫していきたい。子ども達が安全に過ごせる環境づくりをしていきたい。行事においては、今年度以上に子どもの参加や活躍の場を増やしていきたい。興味・関心に合うレベルや内容を一緒に選び、実践を積み重ねることで、保護者と共に子どもの成長を喜び合えるようになりたい。
	2 コミュニケーション		
	3 相談等の援助		
	4 健康管理		
	5 自傷他害への対応		
	6 活動		
	7 おやつを提供		
	8 施設環境		
	9 来所・帰宅		

◆運営事業者による自己評価結果

児童育成クラブの自己評価(大項目評価)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・自己評価を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価:大項目平均値 3.5以上=A、2.5以上3.5未満=B、1.5以上2.5未満=C、1.5未満=D

評価項目 (大項目)	令和元年度
	(平成30年度)※
Ⅰ 組織と運営	A
	(A)
Ⅱ. サービス提供のプロセス	B
	(A)
Ⅲ. サービスの内容	B
	(B)

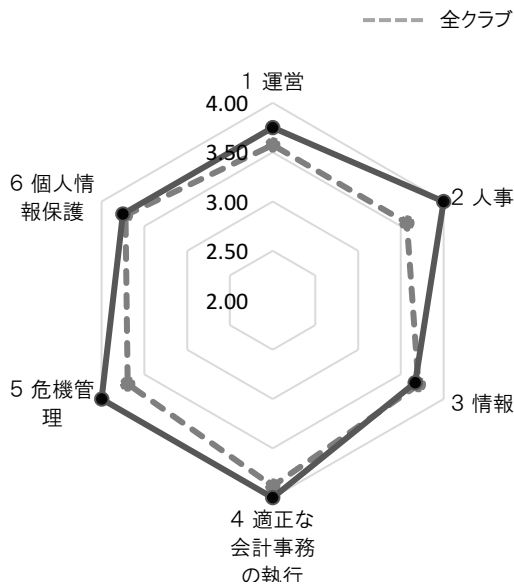


※令和元年度より評価基準が変更になったため、平成30年度は参考値となります。

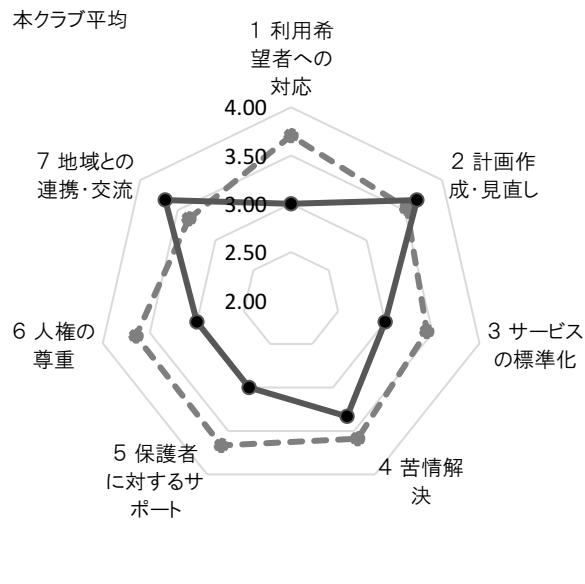
児童育成クラブの自己評価(中項目評価)

- ・各クラブの中項目の平均値と全クラブの平均値をグラフ化しています。
- ・平均値と比べることで、運営面やサービス面における本クラブの強みや弱みを把握します。
- ・評価:4=優れた取り組みができている、3=おおむねできている、2=あまりできていない、1=まったくできていない

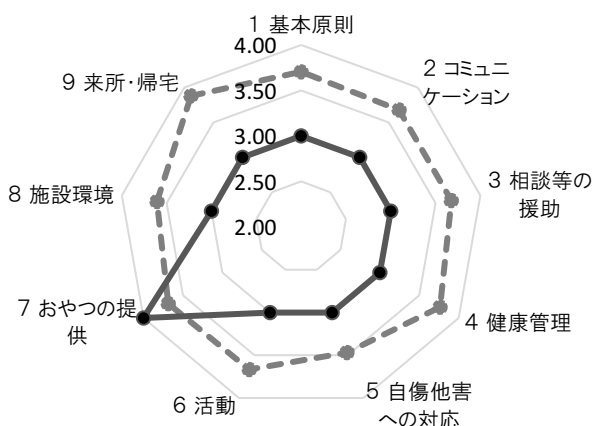
Ⅰ. 組織と運営



Ⅱ. サービス提供のプロセス



Ⅲ. サービスの内容

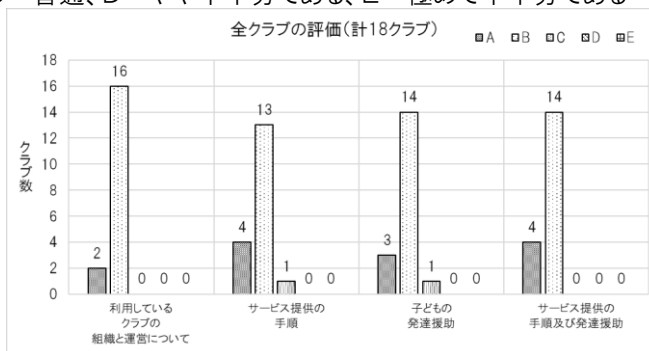


◆利用者による評価結果

児童育成クラブの利用者調査(テーマ別)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・当該クラブの評価結果を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価：A=大変優れている、B=優れている、C=普通、D=やや不十分である、E=極めて不十分である

テーマ		令和元年度 (平成30年度)
保護者	利用しているクラブの組織と運営について	B (A)
	サービス提供の手順について	A (A)
	子どもの発達援助について	A (A)
児童	サービス提供の手順及び発達援助について	A (A)

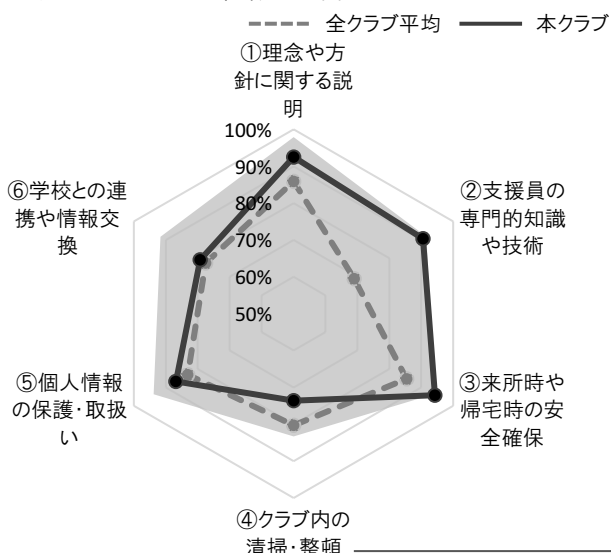


児童育成クラブの利用者調査(設問別)

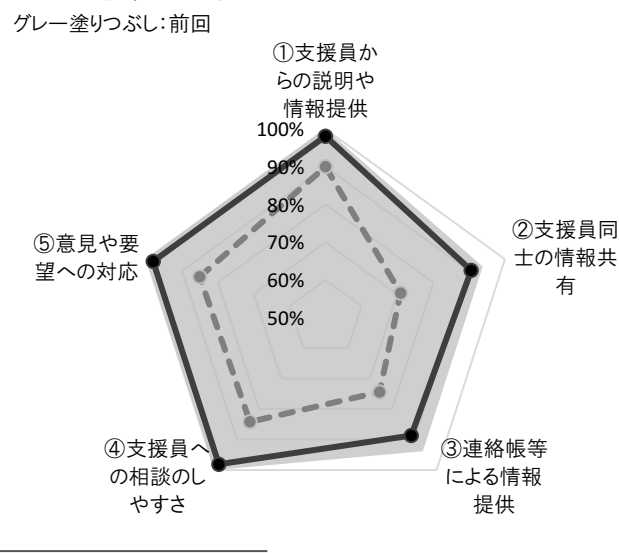
- ・設問別の評価について、本クラブと全クラブの回答(はいの割合)、前年度における本クラブの回答(はいの割合)を示しています。

I 保護者の回答

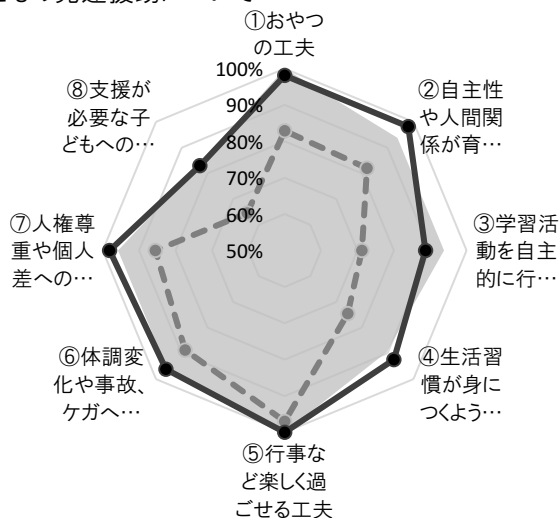
利用しているクラブ組織と運営について



サービス提供の手順について

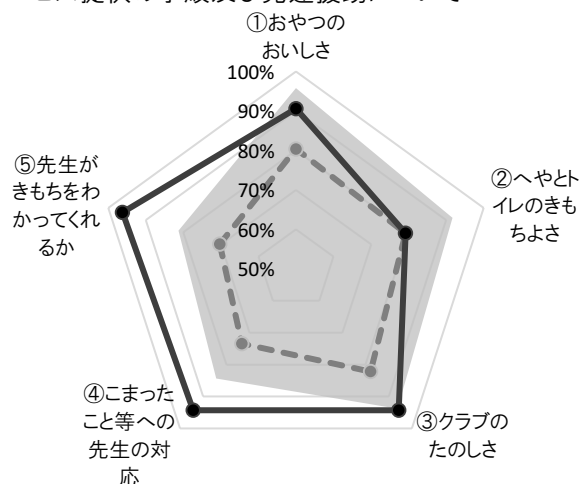


子どもの発達援助について



II 児童の回答

サービス提供の手順及び発達援助について





評価結果

令和元年度

高洲小学校地区児童育成クラブ

◆クラブ・運営事業者のプロフィール

事業者の名称		株式会社日本デイクアセンター							
クラブの所在地		浦安市高洲四丁目2番8号							
クラブの連絡先		電話	047-351-1015	F A X	047-351-1015				
当該クラブの運営開始日		平成 15年 4月 1日							
開設場所		小学校敷地外							
定員／現在の利用者数 (令和2年1月末現在)		定 員		170人		利用者数		142人	
職員数 (令和2年1月末現在)	常勤	職員数	9人	うち、男性		3人	うち、女性		6人
		有資格者数		保育士	2人	幼稚園 教諭	2人	幼稚園以 外の教諭	1人
	非常勤	職員数	13人	うち、男性		1人	うち、女性		12人
		有資格者数		保育士	1人	幼稚園 教諭	0人	幼稚園以 外の教諭	1人

◆運営事業者のサービス提供方針

サービスの提供にあたって大切にしていること	「あかるく・たくましく・生きる“ちから”のある子ども」の健全育成
-----------------------	----------------------------------

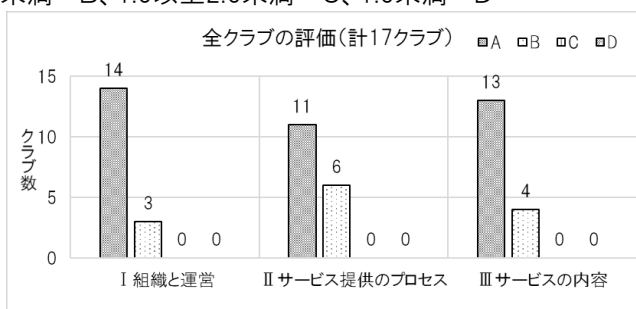
		事業者の強み アピールしたい取り組み	サービス改善に向けた取り組み 今後の展望
Ⅰ ・ 組 織 と 運 営	1 運営	小さなことでもミーティングで報告相談し職員間で情報を共有している。市や学校とも情報のやり取りを怠らない。職員同士が話しやすい環境になっている。子どもたちが安心して帰ってこられる場所作りで全員で取り組んでいる。施設独自のマニュアルがあり、全員で活用ができています。	支援員一人ひとりの意識を今よりも高めていきたい。 全支援員で定期的なAEDの講習や非常時に備えての準備をしたい。参加を計画していく。以前確認した内容も、定期的に再確認の機会を作っていきたい。保護者会への参加率をあげたい。
	2 人事		
	3 情報		
	4 適正な会計事務の執行		
	5 危機管理		
	6 個人情報保護		
Ⅱ ・ サ ー ビ ス プ ロ 提 供 セ ス の	1 利用希望者への対応	保護者とのコミュニケーションを一番大切にしている、何気ない会話から情報を収集するようにしている。保護者にとっても楽しくお迎えに来られる、そんな場所に心がけている。保護者からの要望や子どもの変化など報告がきちんと行えている。忙しい中でも、児童の悩みにも寄り添えるようにしている。	苦情や相談などに柔軟に対応はしているが、一人一人が対応の仕方を熟知していないと困る部分がある為、ベテラン職員へ対応を任せている部分がある。新人教育の方法を見直す。入社すぐの研修参加を可能にしていきたい。
	2 計画作成・見直し		
	3 サービスの標準化		
	4 苦情解決		
	5 保護者に対するサポート		
	6 人権の尊重		
	7 地域との連携・交流		
Ⅲ ・ サ ー ビ ス の 内 容	1 基本原則	子ども達の「やりたい！」を大切にしている。子どもと同じ目線で同じ気持ちで寄り添い、一緒に楽しむことも大切にしている。子どもの安全安心を第一に、楽しく過ごせるよう職員全員で取り組んでいる。手を出すのではなくサポート役にまわり、成長を見守るようにしている。	自ら発言することが苦手な児童への対応をもっと考えていきたい。児童の意見を取り入れた遊び・イベントを更に増やしていきたい。子どもの「やりたい！」も尊重するが、人数が多いなりの工夫も取り入れていきたい。子どもが自らかたづけようとするような収納の工夫を行いたい。
	2 コミュニケーション		
	3 相談等の援助		
	4 健康管理		
	5 自傷他害への対応		
	6 活動		
	7 おやつ提供		
	8 施設環境		
	9 来所・帰宅		

◆運営事業者による自己評価結果

児童育成クラブの自己評価(大項目評価)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・自己評価を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価:大項目平均値 3.5以上=A、2.5以上3.5未満=B、1.5以上2.5未満=C、1.5未満=D

評価項目 (大項目)	令和元年度
	(平成30年度)※
Ⅰ 組織と運営	A
	(A)
Ⅱ. サービス提供のプロセス	A
	(A)
Ⅲ. サービスの内容	A
	(A)

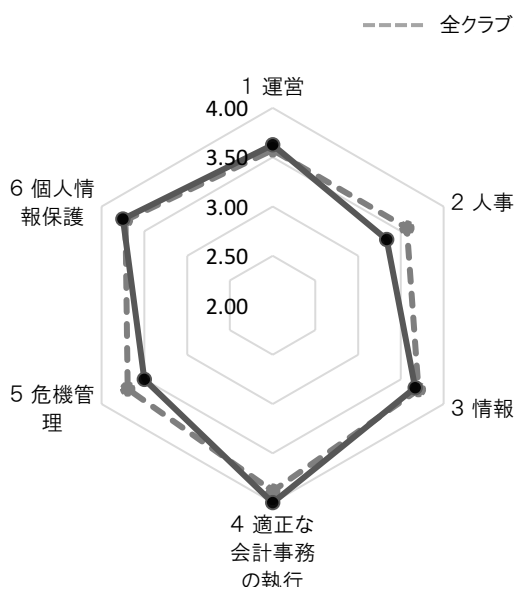


※令和元年度より評価基準が変更になったため、平成30年度は参考値となります。

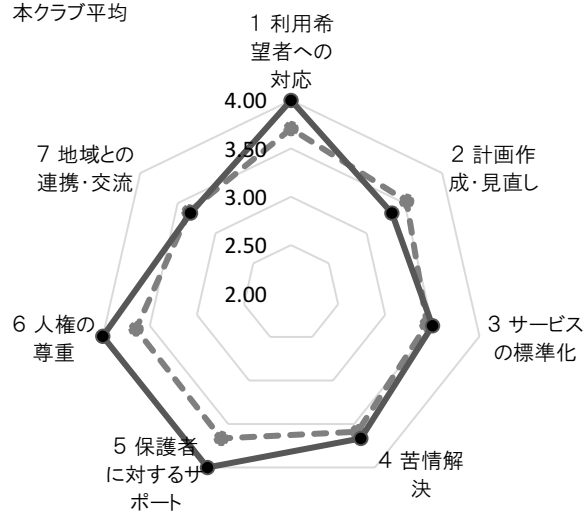
児童育成クラブの自己評価(中項目評価)

- ・各クラブの中項目の平均値と全クラブの平均値をグラフ化しています。
- ・平均値と比べることで、運営面やサービス面における本クラブの強みや弱みを把握します。
- ・評価:4=優れた取り組みができている、3=おおむねできている、2=あまりできていない、1=まったくできていない

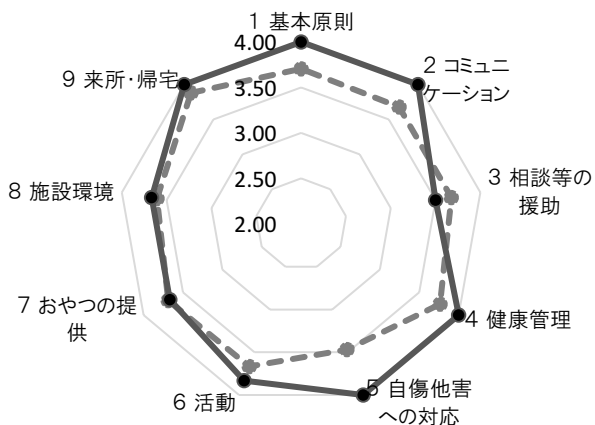
Ⅰ. 組織と運営



Ⅱ. サービス提供のプロセス



Ⅲ. サービスの内容

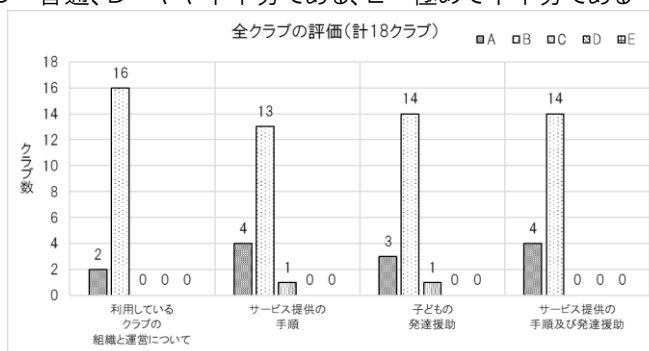


◆利用者による評価結果

児童育成クラブの利用者調査(テーマ別)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・当該クラブの評価結果を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価：A=大変優れている、B=優れている、C=普通、D=やや不十分である、E=極めて不十分である

テーマ		令和元年度 (平成30年度)
保護者	利用しているクラブの組織と運営について	B (A)
	サービス提供の手順について	A (A)
	子どもの発達援助について	A (A)
児童	サービス提供の手順及び発達援助について	A (A)

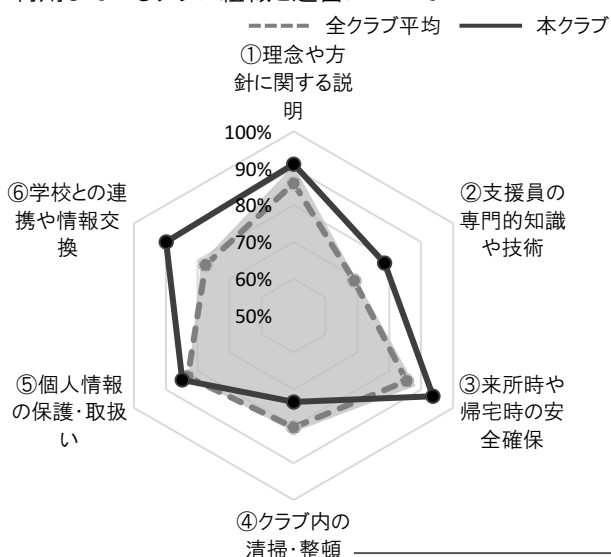


児童育成クラブの利用者調査(設問別)

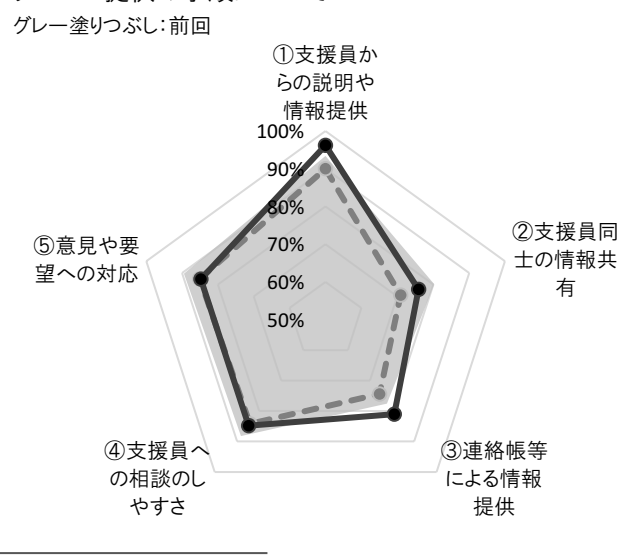
- ・設問別の評価について、本クラブと全クラブの回答(はいの割合)、前年度における本クラブの回答(はいの割合)を示しています。

I 保護者の回答

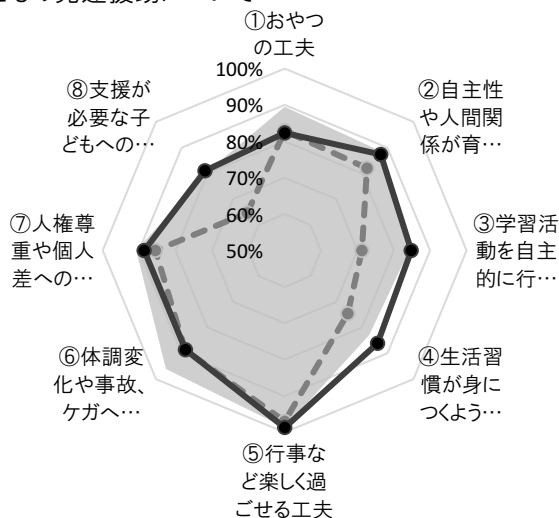
利用しているクラブ組織と運営について



サービス提供の手順について

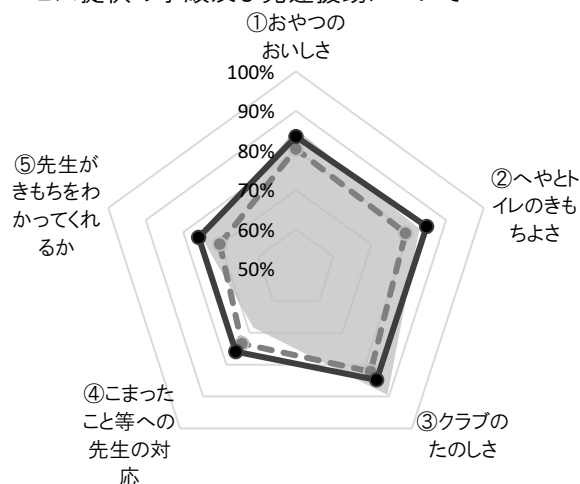


子どもの発達援助について



II 児童の回答

サービス提供の手順及び発達援助について



評価結果

令和元年度

日の出南小学校地区児童育成クラブ

◆クラブ・運営事業者のプロフィール

事業者の名称	ライクアカデミー株式会社						
クラブの所在地	浦安市日の出五丁目4番3号						
クラブの連絡先	電話	047-305-1345	F A X	047-305-1345			
当該クラブの運営開始日	平成 24年 4月 1日						
開設場所	小学校敷地内						
定員／現在の利用者数 (令和2年1月末現在)	定 員	120人		利用者数	103人		
職員数 (令和2年1月末現在)	常勤	職員数	6人	うち、男性	2人	うち、女性	4人
		有資格者数	保育士	2人	幼稚園教諭	1人	幼稚園以外の教諭
	非常勤	職員数	12人	うち、男性	2人	うち、女性	10人
		有資格者数	保育士	0人	幼稚園教諭	0人	幼稚園以外の教諭

◆運営事業者のサービス提供方針

サービスの提供にあたって大切にしていること	「ありがとう」といわれるサービスの提供 子ども一人ひとりの人格を大切に、今 その子に必要な支援を行うこと
-----------------------	---

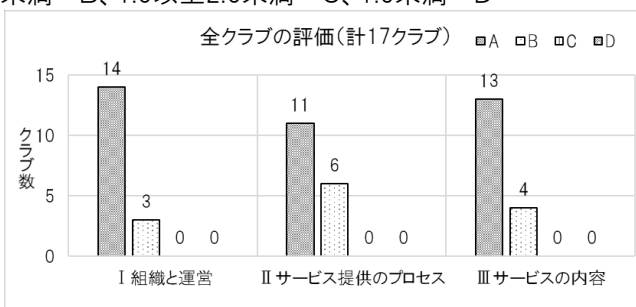
		事業者の強み アピールしたい取り組み	サービス改善に向けた取り組み 今後の展望
Ⅰ 組織と運営	1 運営	組織として目指すべき目標を明確にし、それに向かって、十分な意見交換を活発に行っているため、支援員間の意思の疎通がスムーズである。そのことが日々の育成に活かされている。具体的には小さな子どもの変化や安全に関する情報共有が多く、問題があっても早急な解決へとつながっている。	一人帰りの3,4年生は保護者と会うことが少ないため子ども一人ひとりの、日々の様子を保護者へ定期的に伝えることを考えている。 支援員の専門性を高めるため、継続した研修の受講を考えている。
	2 人事		
	3 情報		
	4 適正な会計事務の執行		
	5 危機管理		
	6 個人情報保護		
Ⅱ サービス提供の	1 利用希望者への対応	避難訓練の毎月の実施、支援員の救命救急講習の実施を欠かさず行い、避難訓練の様子は保護者へも都度伝えている。 個人情報保護者に関しても本社がISOを取得し、個人情報の管理について全社を挙げて取り組んでいる。	子どものスケジュールの変更が頻繁にあるので、間違いの無い方法をもう策している。メールや電話等のほか、アプリ等のツールを活用できればと考えている。
	2 計画作成・見直し		
	3 サービスの標準化		
	4 苦情解決		
	5 保護者に対するサポート		
	6 人権の尊重		
	7 地域との連携・交流		
Ⅲ サービスの内容	1 基本原則	1年生と2年生 3年生と4年生の2学年別に分けてクラスを編成している。それぞれの学年にあった活動を考えて実行している。その効果が落ち着いた雰囲気がある。物を扱いも丁寧になってきており、2学年別クラスと担任制が上手く機能している。	子ども達に作成する学童新聞等の試みを始めている。 保護者からの子育てに関する相談も多く、子育てのサポーターとしての役割が浸透している。
	2 コミュニケーション		
	3 相談等の援助		
	4 健康管理		
	5 自傷他害への対応		
	6 活動		
	7 おやつ提供		
	8 施設環境		
	9 来所・帰宅		

◆運営事業者による自己評価結果

児童育成クラブの自己評価(大項目評価)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・自己評価を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価:大項目平均値 3.5以上=A、2.5以上3.5未満=B、1.5以上2.5未満=C、1.5未満=D

評価項目 (大項目)	令和元年度
	(平成30年度)※
I 組織と運営	A
	(A)
II. サービス提供のプロセス	A
	(A)
III. サービスの内容	A
	(A)



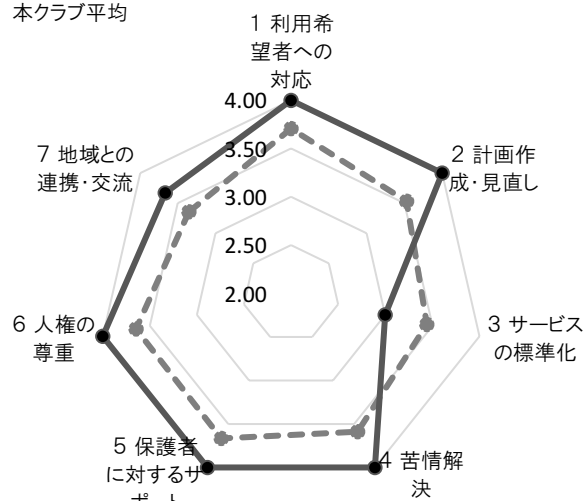
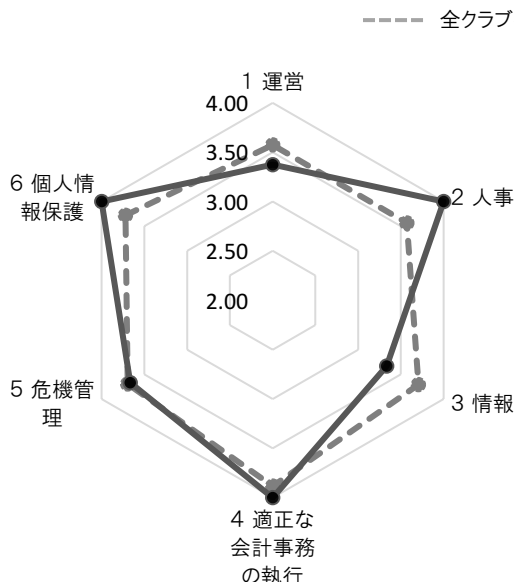
※令和元年度より評価基準が変更になったため、平成30年度は参考値となります。

児童育成クラブの自己評価(中項目評価)

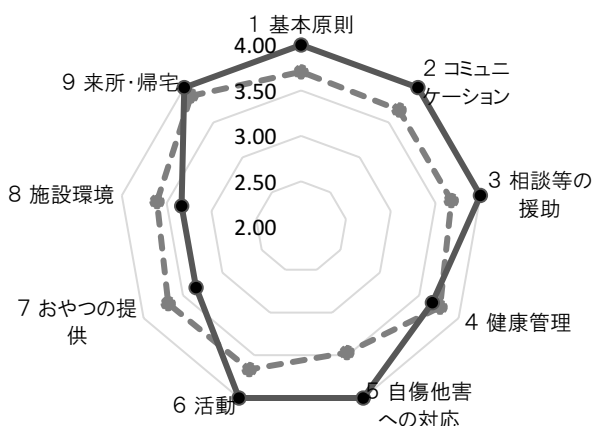
- ・各クラブの中項目の平均値と全クラブの平均値をグラフ化しています。
- ・平均値と比べることで、運営面やサービス面における本クラブの強みや弱みを把握します。
- ・評価:4=優れた取り組みができている、3=おおむねできている、2=あまりできていない、1=まったくできていない

I. 組織と運営

II. サービス提供のプロセス



III. サービスの内容

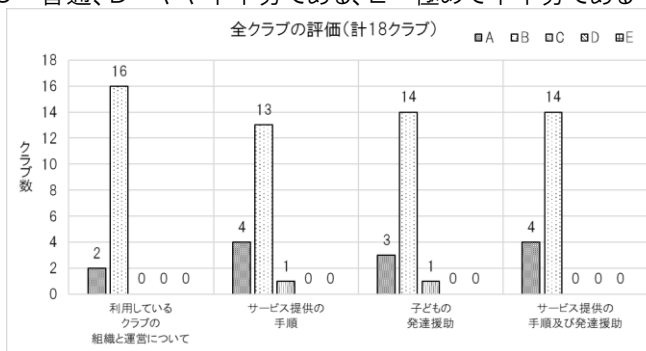


◆利用者による評価結果

児童育成クラブの利用者調査(テーマ別)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・当該クラブの評価結果を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価：A=大変優れている、B=優れている、C=普通、D=やや不十分である、E=極めて不十分である

テーマ		令和元年度 (平成30年度)
保護者	利用しているクラブの組織と運営について	B (A)
	サービス提供の手順について	B (A)
	子どもの発達援助について	B (A)
児童	サービス提供の手順及び発達援助について	B (B)

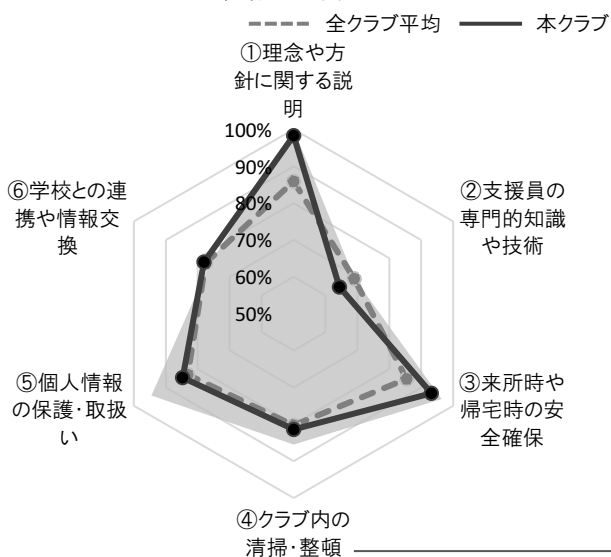


児童育成クラブの利用者調査(設問別)

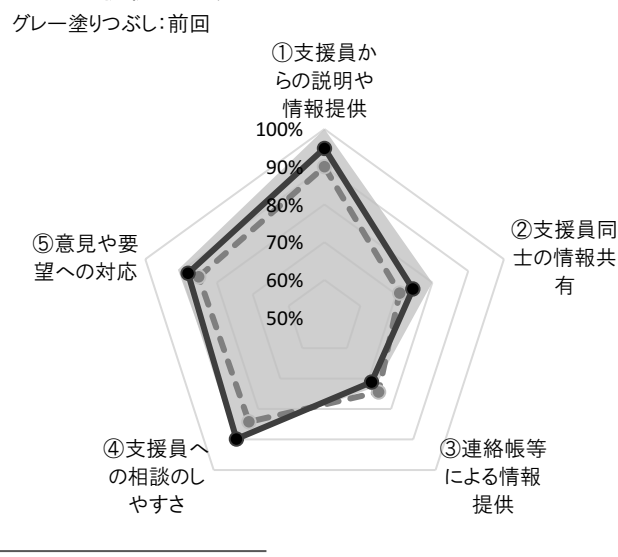
- ・設問別の評価について、本クラブと全クラブの回答(はいの割合)、前年度における本クラブの回答(はいの割合)を示しています。

I 保護者の回答

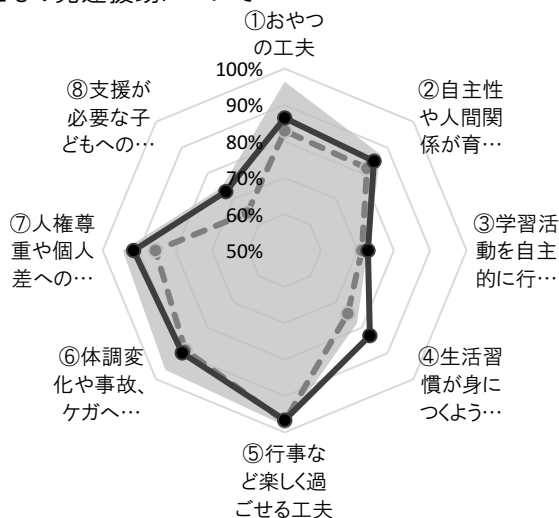
利用しているクラブ組織と運営について



サービス提供の手順について

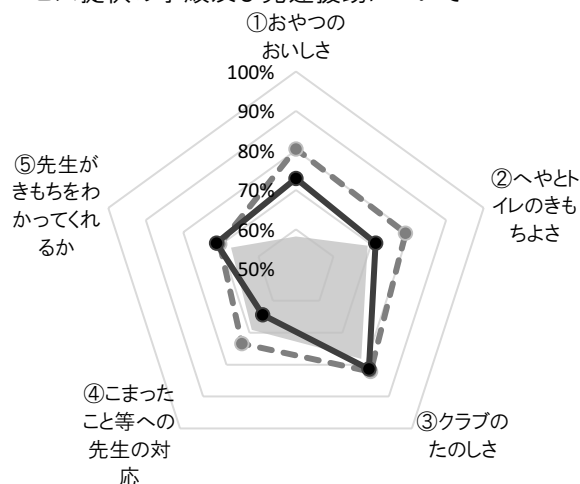


子どもの発達援助について



II 児童の回答

サービス提供の手順及び発達援助について



評価結果

令和元年度

明海南小学校地区児童育成クラブ

◆クラブ・運営事業者のプロフィール

事業者の名称	株式会社日本デイケアセンター						
クラブの所在地	浦安市明海五丁目5番1号						
クラブの連絡先	電話	047-382-2901	F A X	047-382-2901			
当該クラブの運営開始日	平成 21年 4月 1日						
開設場所	小学校敷地内						
定員／現在の利用者数 (令和2年1月末現在)	定 員	80人		利用者数	68人		
職員数 (令和2年1月末現在)	常勤	職員数	4人	うち、男性	1人	うち、女性	3人
		有資格者数	保育士	0人	幼稚園 教諭	0人	幼稚園以 外の教諭
	非常勤	職員数	6人	うち、男性	3人	うち、女性	3人
		有資格者数	保育士	0人	幼稚園 教諭	0人	幼稚園以 外の教諭

◆運営事業者のサービス提供方針

サービスの提供にあたって大切にしていること	「あかるく・たくましく・生きる“ちから”のある子ども」の健全育成
-----------------------	----------------------------------

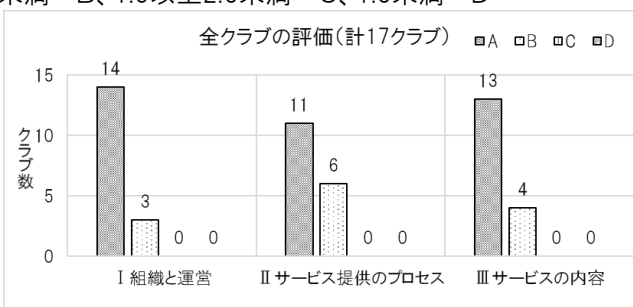
		事業者の強み アピールしたい取り組み	サービス改善に向けた取り組み 今後の展望
Ⅰ 組織と運営	1 運営	毎日のミーティングにより、あらゆる角度から話し合い協議し合うことで、全支援員が同じ方向性を持つことで意欲的に保育に取り組んでいる。 また、保護者、学校との連携を密にすることで子どもにとってよりよい環境づくりに努めている。 学校で起こった怪我・病気などを書面化した手段を通じて学校とクラブ、そして保護者が繋がり合って子どもを見守れる良い体制が取れている。この取り組みを設けてから、より保護者が安心して学童に預けられるようになってきている。 災害や緊急事態に備え、様々な状況を想定した予告無しの避難訓練を年に数回実施している。その際子どもには学童滞留時の避難方法を教えると共に、自宅での一人留守番においても速やかに対処できるよう、自分の身を自分で守る事の必要さを伝えている。 外部講師をお呼びし、実際に帰宅時に不審者から声を掛けられるシミュレーションを子ども自身が体験し安全ブザーの大切さなど知ることが出来た。	マネージャーとの連携を密にし、市との情報共有を今後もより一層努めていく。 年二回マネージャーによる面談を行っており今後はさらに回数を増やし長期的な具体対策実現に努めていく。 また、各自支援員としての自覚、目標を持ち、互いに認め合い、高め合いながら目標達成にむけて仕事に取り組んでいく。 浦安市内で、日本デイケアセンターが運営する施設に支援員が出向き、資質向上の為に研修を行っている。 各施設で子どもの特性も異なるので各支援員が目標を持ち保育をすることにより、各自目標や課題など見つめる力が身に着くよう取り組んでいる。
	2 人事		
	3 情報		
	4 適正な会計事務の執行		
	5 危機管理		
	6 個人情報保護		
Ⅱ サービス提供の	1 利用希望者への対応	年二回遠方のボランティアの方や日頃接する機会がない方をお招きし、子どもが日常では経験できないような体験をし、貴重な時間を過ごせるよう「体験教室」を行っている。 今後も外部ボランティアの方だけではなく、地域ボランティアの方との交流を増やして行けるよう、情報収集に努めていく。	子どもの意思尊重、子どもの状況に合った支援方法、支援が必要な子どもを子どもたち自身が認め合えるような環境づくりをしていくために、毎日のミーティングで協議すると共に現状に満足しないよう、支援員自身の日々資質向上に努めていく。
	2 計画作成・見直し		
	3 サービスの標準化		
	4 苦情解決		
	5 保護者に対するサポート		
	6 人権の尊重		
	7 地域との連携・交流		
Ⅲ サービスの内容	1 基本原則	子どもが安心して過ごせるよう、より良い環境づくりに配慮し、学童生活の中にある人と人の関わりや様々な体験を通じて「相手を思いやる心」「人を大切にする心」を育てていけるよう取り組んでいる。 子どもの状態、状況を確実に把握するとともに、子どもが話しやすい、相談しやすい環境であるよう学年担任制で保育を行っている。 誘拐、動物虐待等、残忍卑劣な事件が多発する昨今、子どもの命が確実に守られるよう、万が一の時に子ども自身が正しい対処が出来るよう、子ども自身にも認識を持ってもらえるための防犯訓練を行っている。	アレルギー疾患のある子どもに対する食品への配慮やアナフィラキシーショック発症時の対処法、熱性けいれんの対処について、全支援員が情報を共有し適切に対応しているが、今後どのようなアレルギー症状を持つ児童にでも対応できるよう、また突然のアレルギー症状等にも迅速な対応が出来るよう、さらなる知識向上の為に積極的に研修への参加をする等努めていく。 またこれからも定期的に確認するとともに、他事業者他クラブの事例をふまえた情報共有を今後も続けて行き、いかなる状況でも対処できるよう備えていく。
	2 コミュニケーション		
	3 相談等の援助		
	4 健康管理		
	5 自傷他害への対応		
	6 活動		
	7 おやつ提供		
	8 施設環境		
	9 来所・帰宅		

◆ 運営事業者による自己評価結果

児童育成クラブの自己評価(大項目評価)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・自己評価を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価:大項目平均値 3.5以上=A、2.5以上3.5未満=B、1.5以上2.5未満=C、1.5未満=D

評価項目 (大項目)	令和元年度
	(平成30年度)※
Ⅰ 組織と運営	A
	(A)
Ⅱ. サービス提供のプロセス	A
	(A)
Ⅲ. サービスの内容	A
	(A)



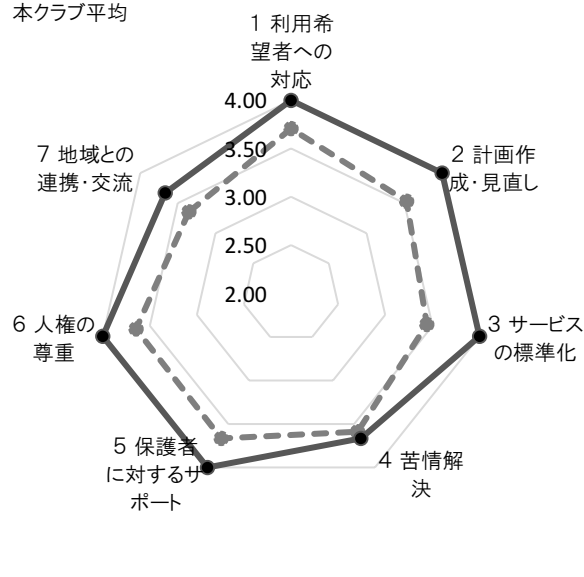
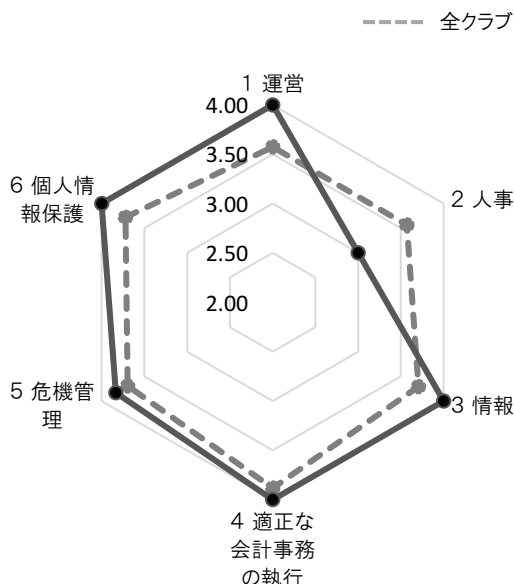
※令和元年度より評価基準が変更になったため、平成30年度は参考値となります。

児童育成クラブの自己評価(中項目評価)

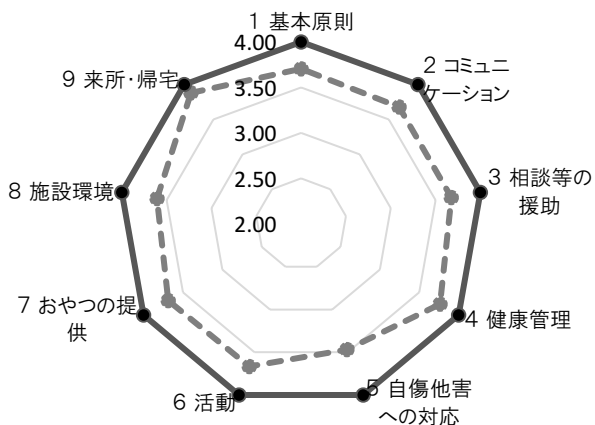
- ・各クラブの中項目の平均値と全クラブの平均値をグラフ化しています。
- ・平均値と比べることで、運営面やサービス面における本クラブの強みや弱みを把握します。
- ・評価:4=優れた取り組みができている、3=おおむねできている、2=あまりできていない、1=まったくできていない

Ⅰ. 組織と運営

Ⅱ. サービス提供のプロセス



Ⅲ. サービスの内容



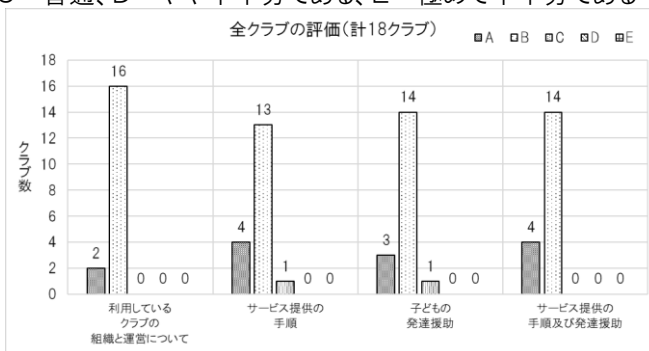


◆利用者による評価結果

児童育成クラブの利用者調査(テーマ別)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・当該クラブの評価結果を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価：A=大変優れている、B=優れている、C=普通、D=やや不十分である、E=極めて不十分である

テーマ		令和元年度 (平成30年度)
保護者	利用しているクラブの組織と運営について	A (A)
	サービス提供の手順について	A (A)
	子どもの発達援助について	A (B)
児童	サービス提供の手順及び発達援助について	A (B)

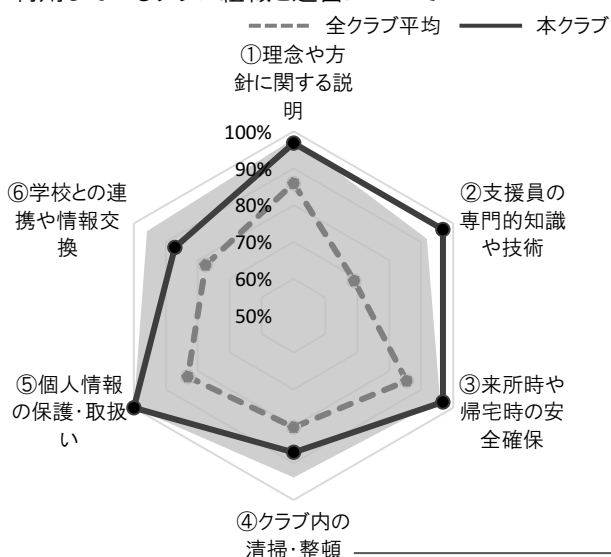


児童育成クラブの利用者調査(設問別)

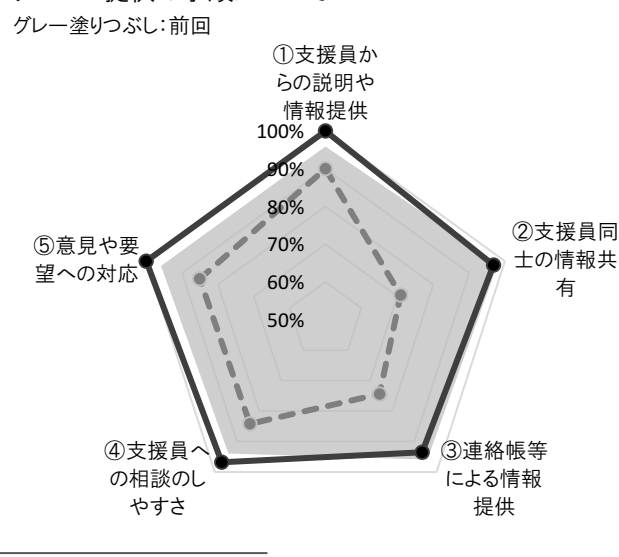
- ・設問別の評価について、本クラブと全クラブの回答(はいの割合)、前年度における本クラブの回答(はいの割合)を示しています。

I 保護者の回答

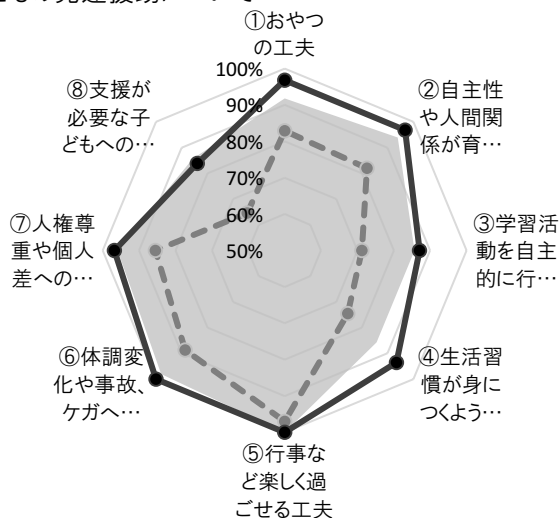
利用しているクラブ組織と運営について



サービス提供の手順について

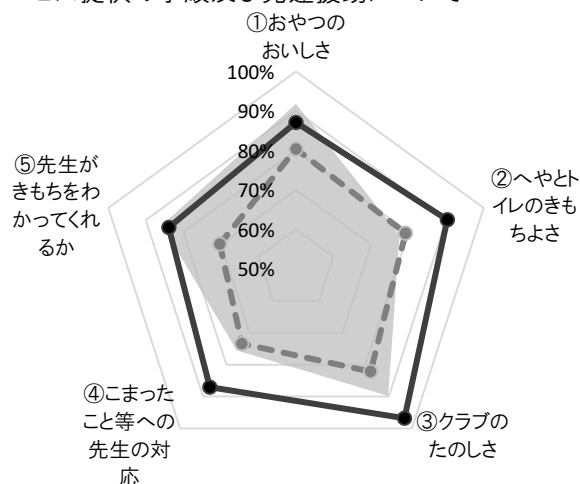


子どもの発達援助について



II 児童の回答

サービス提供の手順及び発達援助について



評価結果

令和元年度

高洲北小学校地区児童育成クラブ

◆クラブ・運営事業者のプロフィール

事業者の名称	ライクアカデミー株式会社						
クラブの所在地	浦安市高洲二丁目2番1号						
クラブの連絡先	電話	047-381-5201	F A X	047-381-5201			
当該クラブの運営開始日	平成 18年 4月 1日						
開設場所	小学校校舎内／小学校敷地内						
定員／現在の利用者数 (令和2年1月末現在)	定 員	128人		利用者数	102人		
職員数 (令和2年1月末現在)	常勤	職員数	5人	うち、男性	1人	うち、女性	4人
		有資格者数	保育士	0人	幼稚園教諭	0人	幼稚園以外の教諭
	非常勤	職員数	16人	うち、男性	2人	うち、女性	14人
		有資格者数	保育士	0人	幼稚園教諭	0人	幼稚園以外の教諭

◆運営事業者のサービス提供方針

サービスの提供にあたって大切にしていること	<p>1. あたたかな環境の中で、一人ひとりの心に寄り添い、子どもにとって、ありのままの姿を何のためらいもなく出せる場所であること。</p> <p>2. 自己肯定感を育む場所であること。</p> <p>上記2点を常に大切にしています。</p> <p>保護者の方々には信頼してお子さんを預けていただけるように支援員一人ひとりが自覚と責任を持って、施設運営に努めております。環境整備を基本とした安全管理を保護者の安心につなげます。</p>
-----------------------	---

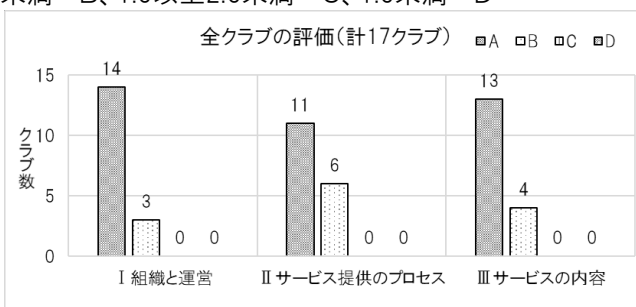
		事業者の強み アピールしたい取り組み	サービス改善に向けた取り組み 今後の展望
I ・ 組 織 と 運 営	1 運営	保護者や、児童一人ひとりと丁寧に向き合い、貴重な意見やニーズ、思いに耳を傾けることができました。運営事業者と検討を繰り返しながら、最善のサービスを提供すること、児童が安全安心の中で主体的に活動できる運営ができました。	全支援員が高い意識を持って、業務に取り組むには、スキルや、認識に差があり、利用者に対して、十分なサービスを提供できたとは言い難いため、支援員のスキルアップや底上げを図り、支援員によって、対応の差が生じないように、改善していきたいです。
	2 人事		
	3 情報		
	4 適正な会計事務の執行		
	5 危機管理		
	6 個人情報保護		
II ・ サ ー ビ ス の 提 供 の 方 針	1 利用希望者への対応	利用者の不安感や心配事を察することができるように、配慮しながら寄り添った対応ができました。事前に丁寧な説明を行うように心がけました。行事に関しては、大幅に変えることなく、毎年反省、改善を通じて、今年度ベストな企画ができたと感じます。	顔を合わせるが少ない保護者に対しては、まだ理解を得られていないことが多いと思うので、全支援員が同じ対応ができるように、全体で共有し、一丸となって運営にあたっていることをアピールできるように、支援員全体で改善、努力をしていきたいと思います。
	2 計画作成・見直し		
	3 サービスの標準化		
	4 苦情解決		
	5 保護者に対するサポート		
	6 人権の尊重		
	7 地域との連携・交流		
III ・ サ ー ビ ス の 内 容	1 基本原則	夏に個人情報の取り扱いについて、利用者へ多大な迷惑をかけてしまいました。迅速な対応を優先し、メール配信を活用させたことにより、結果、重大なミスを引き起こしてしまいました。本来の業務や最優先事項を見直し、改善に取り組むよう努めました。	あらためて“サービスとはなにか”を考え、今までの反省点や改善点など支援員一人ひとりが受け止め、再発防止に努めていきます。また、利便性を求めるのか、正確性を求めるのか、1つずつ、業務を見直し、クラブの運営や行事計画など、利用者の信頼を取り戻せるように努力していきます。
	2 コミュニケーション		
	3 相談等の援助		
	4 健康管理		
	5 自傷他害への対応		
	6 活動		
	7 おやつ提供		
	8 施設環境		
	9 来所・帰宅		

◆ 運営事業者による自己評価結果

児童育成クラブの自己評価(大項目評価)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・自己評価を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価:大項目平均値 3.5以上=A、2.5以上3.5未満=B、1.5以上2.5未満=C、1.5未満=D

評価項目 (大項目)	令和元年度
	(平成30年度)※
Ⅰ 組織と運営	A
	(A)
Ⅱ. サービス提供のプロセス	A
	(A)
Ⅲ. サービスの内容	A
	(A)



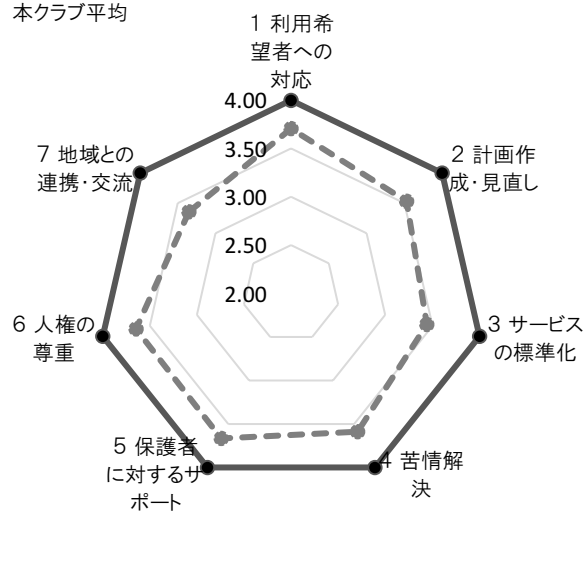
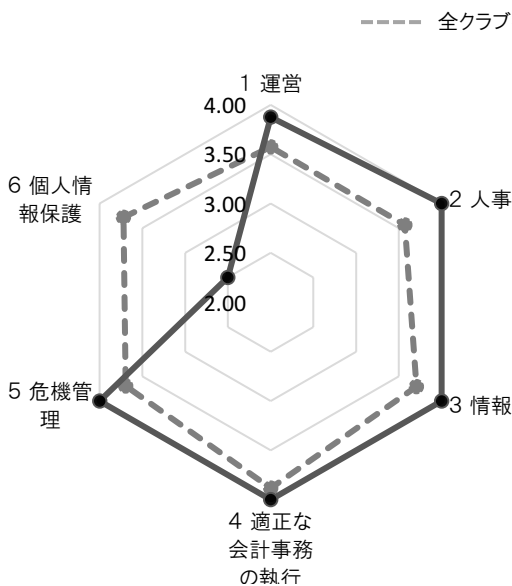
※令和元年度より評価基準が変更になったため、平成30年度は参考値となります。

児童育成クラブの自己評価(中項目評価)

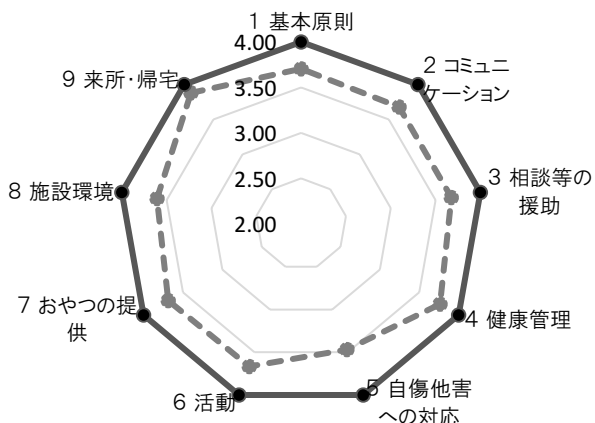
- ・各クラブの中項目の平均値と全クラブの平均値をグラフ化しています。
- ・平均値と比べることで、運営面やサービス面における本クラブの強みや弱みを把握します。
- ・評価:4=優れた取り組みができている、3=おおむねできている、2=あまりできていない、1=まったくできていない

Ⅰ. 組織と運営

Ⅱ. サービス提供のプロセス



Ⅲ. サービスの内容

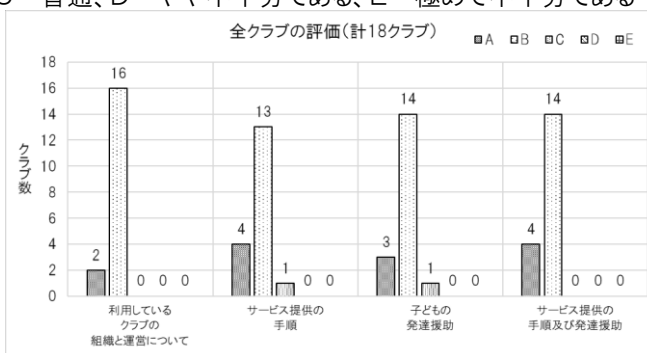


◆利用者による評価結果

児童育成クラブの利用者調査(テーマ別)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・当該クラブの評価結果を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価：A=大変優れている、B=優れている、C=普通、D=やや不十分である、E=極めて不十分である

テーマ		令和元年度 (平成30年度)
保護者	利用しているクラブの組織と運営について	B (A)
	サービス提供の手順について	B (A)
	子どもの発達援助について	B (B)
児童	サービス提供の手順及び発達援助について	B (B)

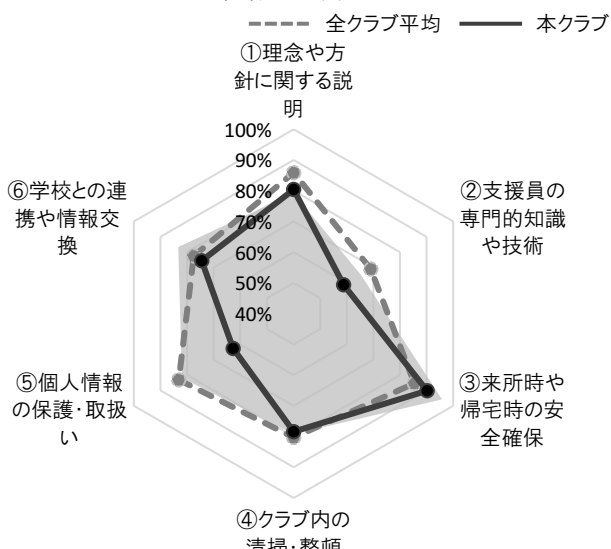


児童育成クラブの利用者調査(設問別)

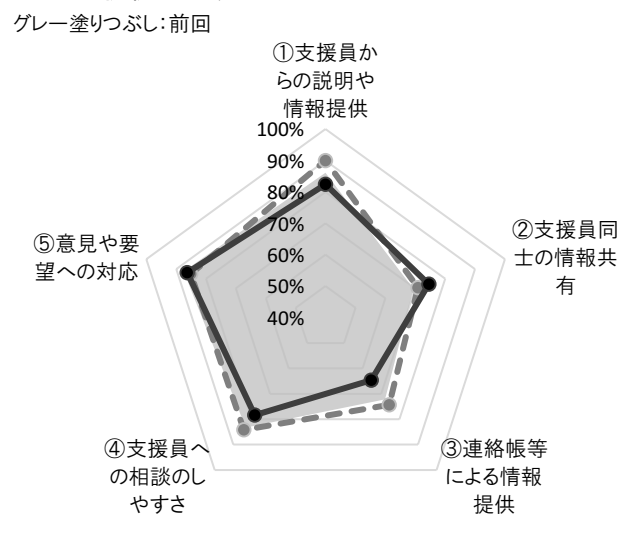
- ・設問別の評価について、本クラブと全クラブの回答(はいの割合)、前年度における本クラブの回答(はいの割合)を示しています。

I 保護者の回答

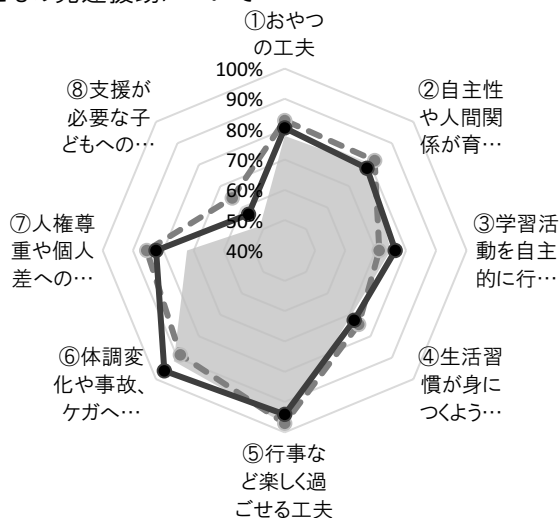
利用しているクラブ組織と運営について



サービス提供の手順について

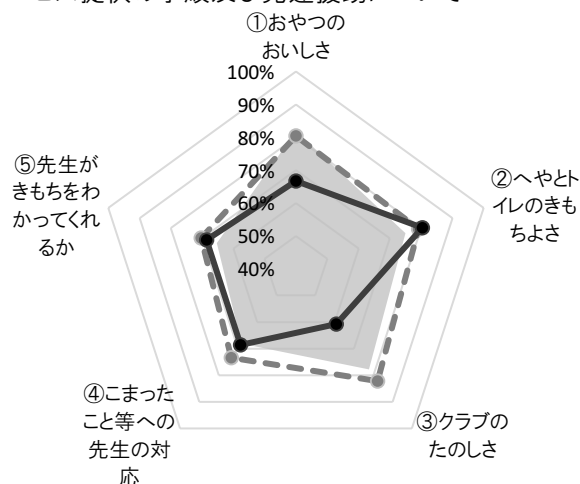


子どもの発達援助について



II 児童の回答

サービス提供の手順及び発達援助について



評価結果

令和元年度

東野小学校地区児童育成クラブ

◆クラブ・運営事業者のプロフィール

事業者の名称	社会福祉法人 浦安市社会福祉協議会						
クラブの所在地	浦安市東野一丁目7番3号						
クラブの連絡先	電話	047-304-1880	F A X	047-304-1880			
当該クラブの運営開始日	平成 22年 4月 1日						
開設場所	小学校校舎内						
定員／現在の利用者数 (令和2年1月末現在)	定 員	198人		利用者数	160人		
職員数 (令和2年1月末現在)	常勤	職員数	14人	うち、男性	2人	うち、女性	12人
		有資格者数	保育士	3人	幼稚園 教諭	3人	幼稚園以 外の教諭
	非常勤	職員数	8人	うち、男性	0人	うち、女性	8人
		有資格者数	保育士	0人	幼稚園 教諭	1人	幼稚園以 外の教諭

◆運営事業者のサービス提供方針

サービスの提供にあたって大切にしていること	児童育成クラブは、「一人ひとりが主役となる場」、「異年齢児による遊びを通じ、社会性・自主性を育てる場」、「安心して楽しく育てる場」をモットーに子どもとの信頼関係を築けるよう保育に努めている。
-----------------------	---

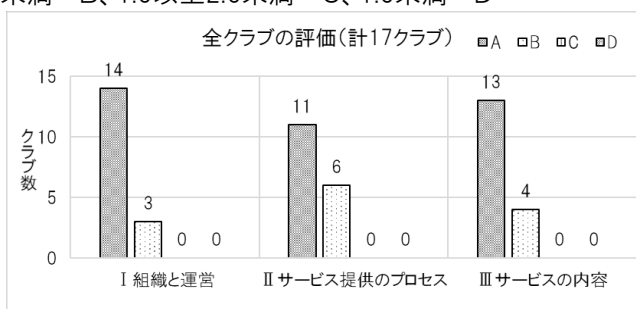
		事業者の強み アピールしたい取り組み	サービス改善に向けた取り組み 今後の展望
Ⅰ 組織と運営	1 運営	富岡育成クラブと子ども教室と連携し、合同イベントを行ったり、支援員の交流ができることを生かし、支援員の資質の向上に努めている。 ミーティング等で、今まで起きた事例を検討し、支援員会議などで話し合い、サービス向上に努めている。	運営指針の理解とこれからの育成クラブのあり方について検討し、内容を支援員で共通理解できるよう取り組んでいるが、難しさを感じている。 何か心配なことがあった時には学校との連携が取れているが、学校・育成クラブでの様子の違いなど、気になる児童の情報について定期的に連絡が取れる仕組みを作っていきたい。
	2 人事		
	3 情報		
	4 適正な会計事務の執行		
	5 危機管理		
	6 個人情報保護		
Ⅱ サービス提供の	1 利用希望者への対応	個々の支援として、家庭や本人の状況を理解し、臨機応変な対応もできるようなミーティングを多く持っている。 全体だけでなくクラスミーティングを行い、体調の変化など細かなことも共有するよう心掛けている。 子どもたちの主体性を考え、イベントの内容や自分たちの過ごし方について、子ども自身が考えられるようにしている。	保護者の理解、子どもたちの安全面を重視したサービスに加え、「子どもの主体性」とは何かを考え育成しているが、家庭・児童によって、反応が様々あり、試行錯誤を繰り返している。 居残り等で、学校の下校時間が遅くなったり、クラブ活動、習いごとをする児童が増え、出家咳の管理が課題になっている。 また、クラブで過ごす時間が少なくなっている児童への継続的な支援の在り方の検討が必要となっている。
	2 計画作成・見直し		
	3 サービスの標準化		
	4 苦情解決		
	5 保護者に対するサポート		
	6 人権の尊重		
	7 地域との連携・交流		
Ⅲ サービスの内容	1 基本原則	保護者にとっても、子どもたちにとっても安心して生活できる場になるように日々務めている。 家庭において親子で過ごす時間を大切にしてほしいという思いから、宿題等に取り組みめるよう学習の時間を設けている。 クラブでの様子を保護者に伝える際には、保護者支援となるように心がけ、相談や、トラブルがあった際は、2人で対応するようにしている。	一部の子どもたちだけではなく、皆が楽しめるよう子どもたちの意見も取り入れ活動してきた。 玩具や、色鉛筆などについても、貸出方法を考えたことで丁寧に使用してくれるようになった。 保護者への対応は、家庭の環境によって保護者支援の場としての育成クラブの在り方を検討していきたい。
	2 コミュニケーション		
	3 相談等の援助		
	4 健康管理		
	5 自傷他害への対応		
	6 活動		
	7 おやつを提供		
	8 施設環境		
	9 来所・帰宅		

◆運営事業者による自己評価結果

児童育成クラブの自己評価(大項目評価)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・自己評価を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価:大項目平均値 3.5以上=A、2.5以上3.5未満=B、1.5以上2.5未満=C、1.5未満=D

評価項目 (大項目)	令和元年度
	(平成30年度)※
Ⅰ 組織と運営	A
	(A)
Ⅱ. サービス提供のプロセス	A
	(A)
Ⅲ. サービスの内容	A
	(A)



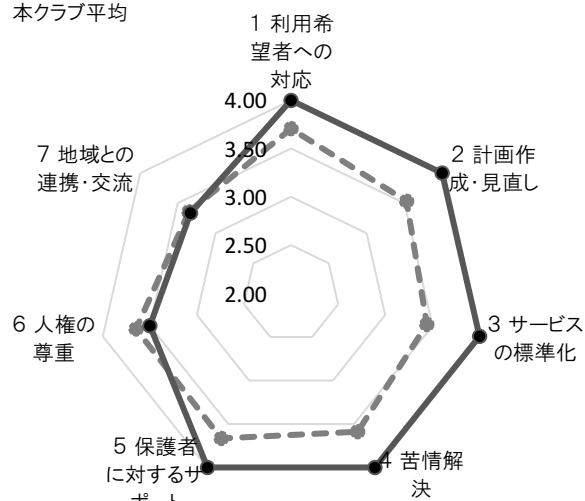
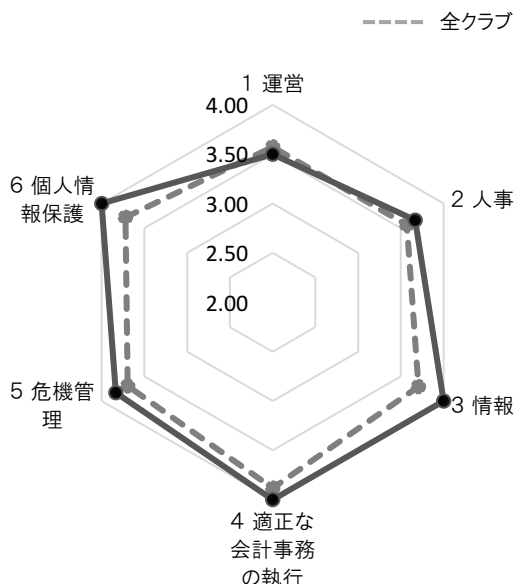
※令和元年度より評価基準が変更になったため、平成30年度は参考値となります。

児童育成クラブの自己評価(中項目評価)

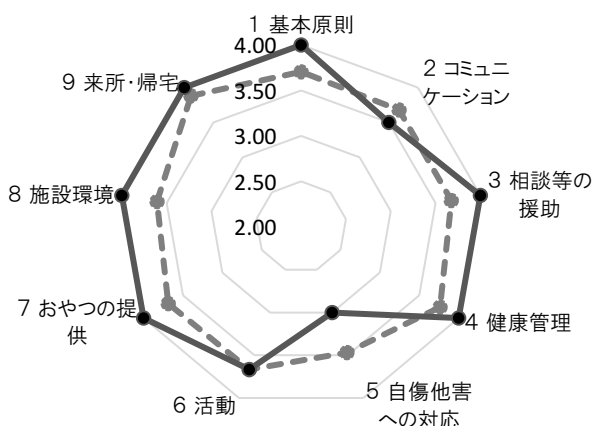
- ・各クラブの中項目の平均値と全クラブの平均値をグラフ化しています。
- ・平均値と比べることで、運営面やサービス面における本クラブの強みや弱みを把握します。
- ・評価:4=優れた取り組みができている、3=おおむねできている、2=あまりできていない、1=まったくできていない

Ⅰ. 組織と運営

Ⅱ. サービス提供のプロセス



Ⅲ. サービスの内容

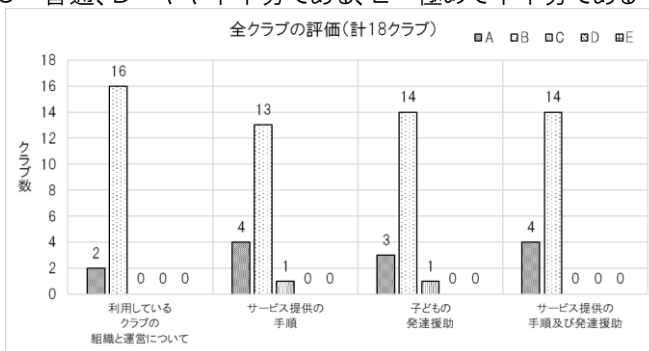


◆利用者による評価結果

児童育成クラブの利用者調査(テーマ別)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・当該クラブの評価結果を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価：A=大変優れている、B=優れている、C=普通、D=やや不十分である、E=極めて不十分である

テーマ		令和元年度 (平成30年度)
保護者	利用しているクラブの組織と運営について	A (A)
	サービス提供の手順について	B (A)
	子どもの発達援助について	B (A)
児童	サービス提供の手順及び発達援助について	B (B)

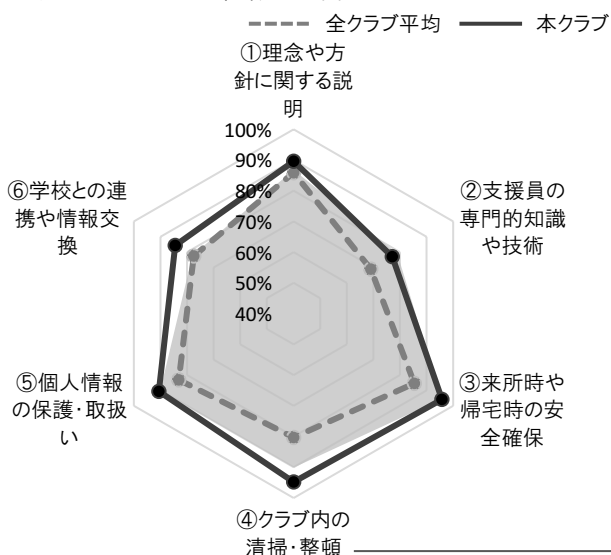


児童育成クラブの利用者調査(設問別)

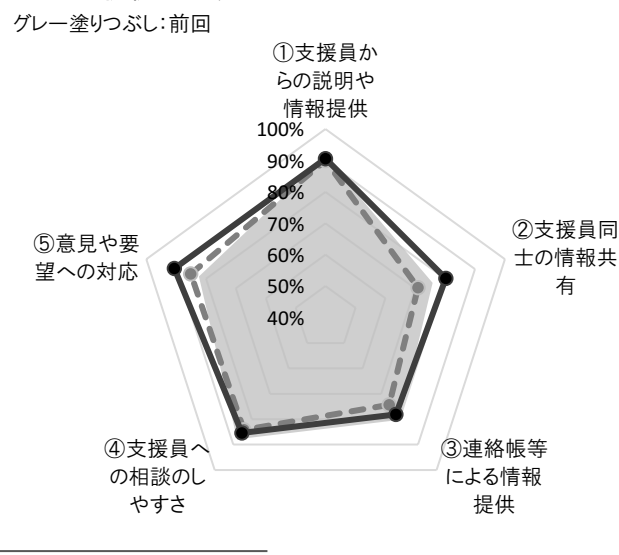
- ・設問別の評価について、本クラブと全クラブの回答(はいの割合)、前年度における本クラブの回答(はいの割合)を示しています。

I 保護者の回答

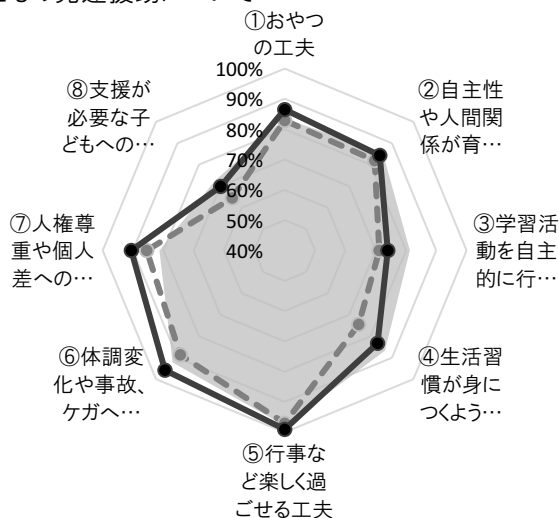
利用しているクラブ組織と運営について



サービス提供の手順について

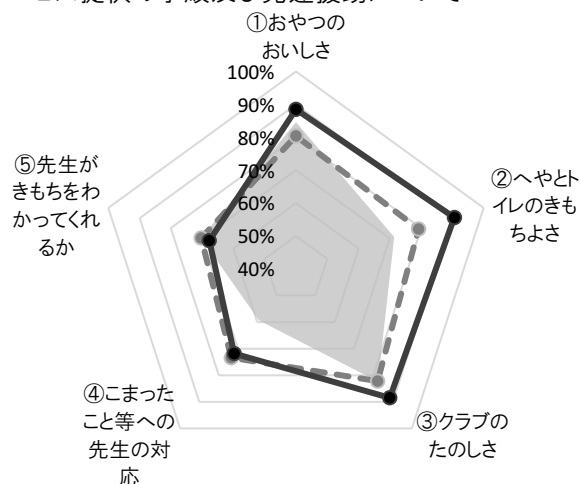


子どもの発達援助について



II 児童の回答

サービス提供の手順及び発達援助について



評価結果

令和元年度

入船小学校地区児童育成クラブ

◆クラブ・運営事業者のプロフィール

事業者の名称		社会福祉法人わかみや福祉会							
クラブの所在地		浦安市入船三丁目66番1号							
クラブの連絡先		電話	047-352-1415	F A X	047-352-1415				
当該クラブの運営開始日		平成 23年 4月 1日							
開設場所		小学校敷地内							
定員／現在の利用者数 (令和2年1月末現在)		定 員		118人		利用者数		125人	
職員数 (令和2年1月末現在)	常勤	職員数	4人	うち、男性		2人	うち、女性		2人
		有資格者数		保育士	1人	幼稚園 教諭	1人	幼稚園以 外の教諭	1人
	非常勤	職員数	11人	うち、男性		1人	うち、女性		10人
		有資格者数		保育士	0人	幼稚園 教諭	0人	幼稚園以 外の教諭	4人

◆運営事業者のサービス提供方針

サービスの提供にあたって大切にしていること	地域との一体型支援 子どもの自主性を育てる 仲間との共通認識を持って連携していく
-----------------------	--

		事業者の強み アピールしたい取り組み	サービス改善に向けた取り組み 今後の展望
Ⅰ 組織と運営	1 運営	保育園運営実績も踏まえながら育成クラブ、放課後子ども教室運営に取り組んでいる。児童の自主性、主体性を育み、児童自らが考え、覚えたことを実践できるように支援をしている。小学校含む地域、保護者との連携を重視し、「子育て」ができる環境づくりに努めている。	新体制「放課後うらっこクラブ」として「放課後の楽しく遊べる場」と「放課後の安心して過ごせる場」である第二の家庭として、異年齢児交流と共に「子育て支援」を推進し、子ども達と保護者への総合的な放課後対策の機関として、学校・地域との温かい繋がりで、保護者へ切れ目のない子育て支援に努めている。
	2 人事		
	3 情報		
	4 適正な会計事務の執行		
	5 危機管理		
	6 個人情報保護		
Ⅱ サービス提供の	1 利用希望者への対応	利用希望者の方には、随時見学や相談の対応・説明を行っている。出来るだけ利用者のニーズに応えられるよう小学校や同法人の保育園と情報を共有しながら、支援の質を高められるよう努力している。また、子どもの人権を尊重し、一人ひとりの思いを受け止め、愛情を持った関わりを行っている。 支援が必要な子どもや家庭環境が複雑で日々の生活に影響している子どもには、小学校と市役所青少年課と連携をとり、虐待等の早期発見や問題解決、心のケアに努めている。	放課後うらっこクラブとして、総合的な放課後支援を行っているが、児童と保護者との過ごし方の要望の相違がみられる。(子=遊び 親=学習等)活動の様子や児童の姿を保護者会やおたよりでもっとわかりやすく発信し、子どもの成長を共有することで、遊びの中でも様々な成長をすることを理解してもらい、よりよい子育て支援できるよう努めている。
	2 計画作成・見直し		
	3 サービスの標準化		
	4 苦情解決		
	5 保護者に対するサポート		
	6 人権の尊重		
	7 地域との連携・交流		
Ⅲ サービスの内容	1 基本原則	子ども一人ひとりの自主性を尊重しながら、計画や見直しを持って遊びや行事、活動に取り組んでいる。気になる児童や支援児には、学校との連携を密にし、その子に添った対応をしている。行事等、子ども達が自主的に参加し取り組めるよう配慮している。	おやつや行事は現状で満足することなく、より子ども達が楽しめるようなものを提供していく。また、自主的・主体的に活動できる環境作りや、安全面に気をつけ、一人ひとりが快適に過ごせるようにしていく。
	2 コミュニケーション		
	3 相談等の援助		
	4 健康管理		
	5 自傷他害への対応		
	6 活動		
	7 おやつ提供		
	8 施設環境		
	9 来所・帰宅		

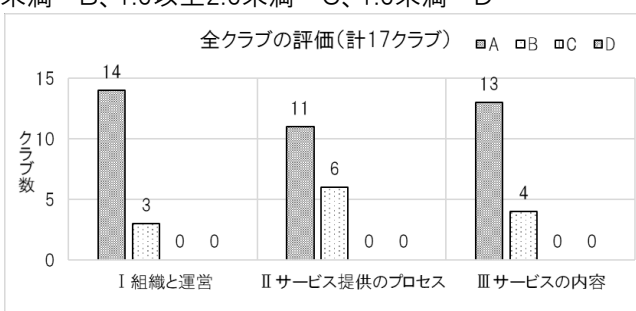


◆ 運営事業者による自己評価結果

児童育成クラブの自己評価(大項目評価)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・自己評価を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価:大項目平均値 3.5以上=A、2.5以上3.5未満=B、1.5以上2.5未満=C、1.5未満=D

評価項目 (大項目)	令和元年度
	(平成30年度)※
I 組織と運営	B
	(B)
II. サービス提供のプロセス	B
	(B)
III. サービスの内容	B
	(B)



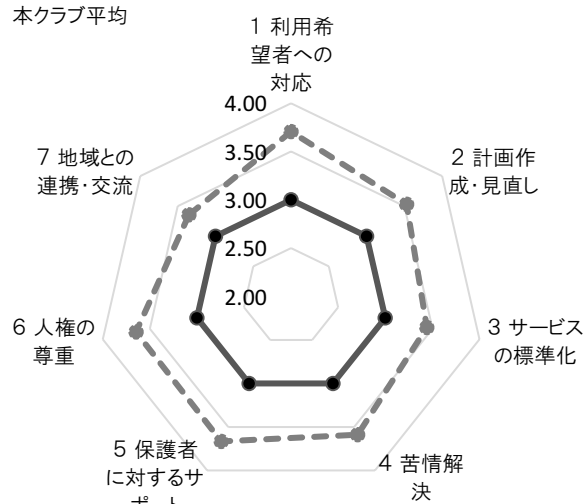
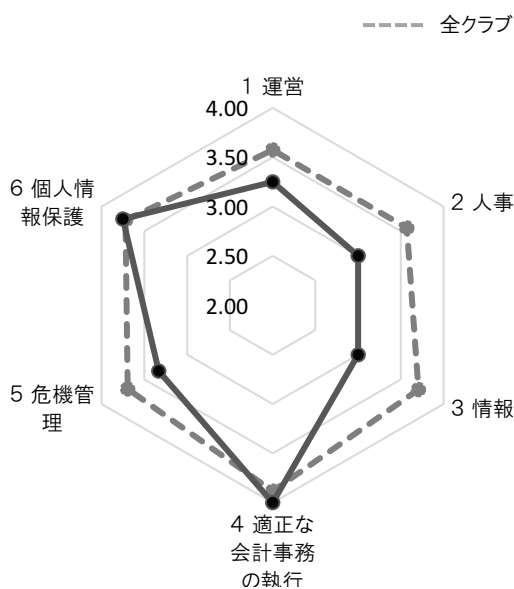
※令和元年度より評価基準が変更になったため、平成30年度は参考値となります。

児童育成クラブの自己評価(中項目評価)

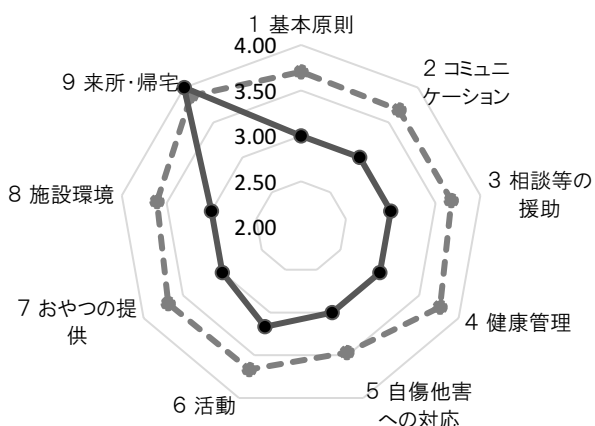
- ・各クラブの中項目の平均値と全クラブの平均値をグラフ化しています。
- ・平均値と比べることで、運営面やサービス面における本クラブの強みや弱みを把握します。
- ・評価:4=優れた取り組みができています、3=おおむねできている、2=あまりできていない、1=まったくできていない

I. 組織と運営

II. サービス提供のプロセス



III. サービスの内容

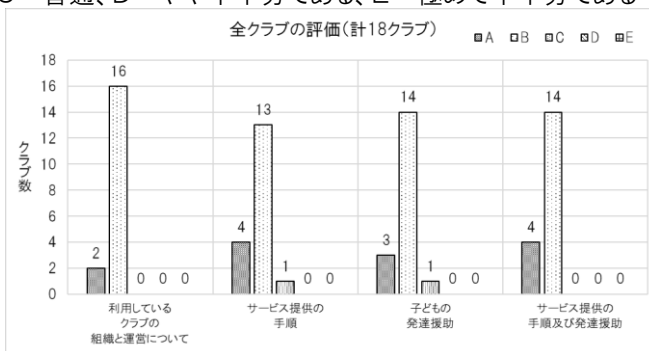


◆利用者による評価結果

児童育成クラブの利用者調査(テーマ別)

- ・全クラブの評価は、児童育成クラブの全体の傾向を表しています。
- ・当該クラブの評価結果を全クラブの評価と比較することにより、各クラブがどのような位置にあるかを示しています。
- ・評価：A=大変優れている、B=優れている、C=普通、D=やや不十分である、E=極めて不十分である

テーマ		令和元年度 (平成30年度)
保護者	利用しているクラブの組織と運営について	B (A)
	サービス提供の手順について	B (A)
	子どもの発達援助について	B (A)
児童	サービス提供の手順及び発達援助について	B (A)

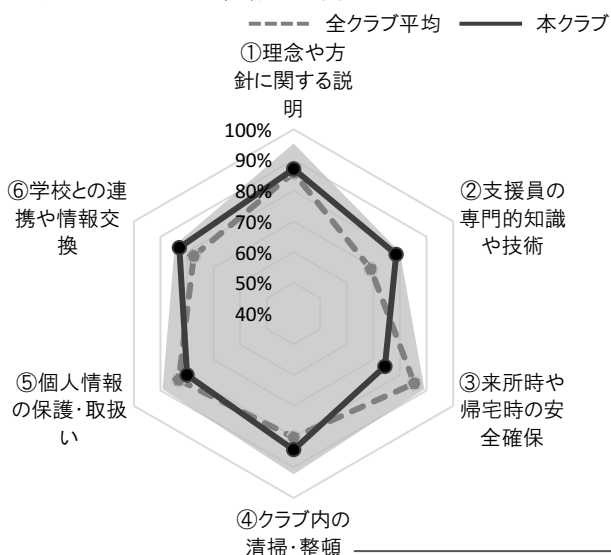


児童育成クラブの利用者調査(設問別)

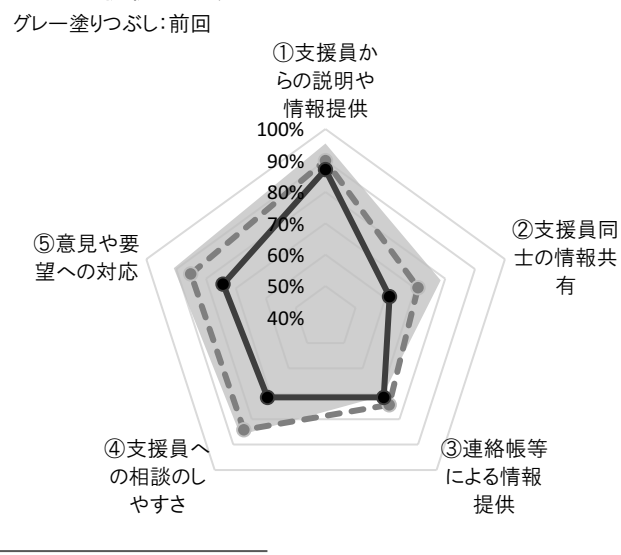
- ・設問別の評価について、本クラブと全クラブの回答(はいの割合)、前年度における本クラブの回答(はいの割合)を示しています。

I 保護者の回答

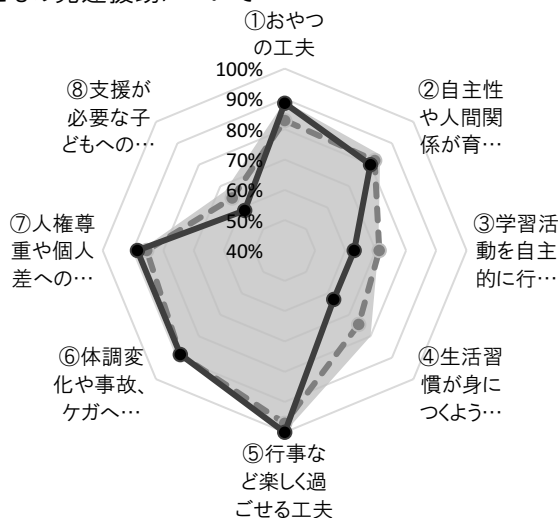
利用しているクラブ組織と運営について



サービス提供の手順について

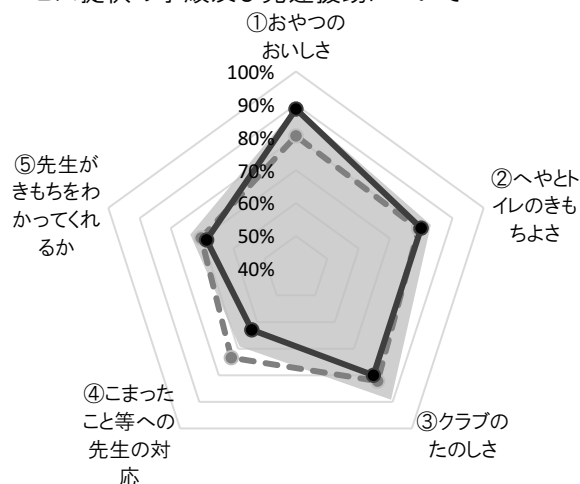


子どもの発達援助について



II 児童の回答

サービス提供の手順及び発達援助について



資料

---

---

## 令和元年度 事業者自己評価シート

### I. 組織と運営

■それぞれの「評価の視点」において、「自己評価」の欄に以下の4段階での記入をお願いします。

自己評価の定義	
4 : 優れた取組ができている	3 : おおむねできている
2 : あまりできていない	1 : まったくできていない

評価項目	評価の視点(判断基準)	自己評価	工夫している点や課題があればご記入ください
1 運営	① 放課後児童クラブ運営指針が職員に周知され、すべての職員がそれを理解し、実現に向けて取り組んでいる。		
	② 重要な決定事項について、関係する職員や保護者等に説明する場があり、十分に伝えている。		
	③ 職員が意見を言ったり、提案を出しやすい雰囲気をつくるための工夫がある。		
	④ 児童から出された意見については必ず検討し、その対応について児童や保護者への説明や報告がなされている。		
	⑤ 利用者満足度調査等を実施し、結果をもとに改善策をつくり、事業計画に活かしている。		
	⑥ 全職員でサービス改善について取り組んでいる。		
	⑦ 市に対する活動報告を適切に行い、市との情報共有に努めている。		
	⑧ 学校との連携に積極的であり、適切な情報交換を行っている。		

評価項目	評価の視点(判断基準)	自己評価	工夫している点や課題があればご記入ください
2 人事	① 子どもの発達の特徴や子どもとの関わり方、支援員の役割など、職員研修を行い、学んだ内容を職員間で共有している。		
	② 責任者は、面談や日々の会話等により、職員が抱えている課題や業務に対する要望等を把握し、対策を講じている。		
	③ 職員の雇用は、書類審査・面接等により適正に行い、運営事業者の理念等を理解している者を採用している。		
3 情報	① 職員会議や日常的な引継ぎなど、指示・連絡・報告・相談の体制が確立しており、機能している。		
	② 「おたより」の発行や連絡帳などを通じて、児童の様子を保護者に定期的・具体的に伝えている。		
	③ サービス提供やクラブ運営の情報を、求めに応じて公開する仕組みがある。		
4 適正な会計事務の執行	① 現金の取り扱いが発生する場合は、複数チェック体制が構築され、遵守されている。		
	② 当施設に関する経費等は、他の事業費とは別に管理され、帳簿類も明確に区分されている。		

評価項目	評価の視点(判断基準)	自己評価	工夫している点や課題があればご記入ください
5 危機管理	① 災害や緊急時の対応についてマニュアルを整備し、職員に周知するとともに、定期的な避難訓練を実施している。		
	② 事故防止のため、施設や設備の安全性について点検を実施し、危険箇所に対し速やかに対処している。		
	③ クラブにおいて発生したケガや急病に対処するために、応急手当やAED操作に関する職員研修を行っている。		
	④ 児童に対する手洗いの徹底や、嘔吐物の処理方法のルール化など、感染症の拡大防止に努めている。		
	⑤ 食品や食器の取り扱いに注意し、食中毒等の防止に努めている。		
	⑥ ケガや事故の情報を記録し、再発防止のための対策を行っている。		
6 個人情報保護	① 職員への研修は、児童および保護者の個人情報の取り扱い、守秘義務に関する内容を含めて行っている。		
	② 個人情報(名簿等)が流出しないよう、具体的な取り組みを行っている。		
	③ 個人情報の利用目的を、児童や保護者に明示している。		
	④ 面談は個室で行うなど、プライバシーの保護に配慮している。		

## II. サービス提供のプロセス

■それぞれの「評価の視点」において、「自己評価」の欄に以下の4段階での記入をお願いします。

自己評価の定義	
4：優れた取組ができている	3：おおむねできている
2：あまりできていない	1：まったくできていない

評価項目	評価の視点(判断基準)	自己評価	工夫している点や課題があればご記入ください
1 利用希望者への対応	① 入会説明会や見学は、なるべく意向に沿って受け入れ、見学者に対して、サービスの内容や規則について、正確に、わかりやすく説明するよう努めている。		
	② 入会のしおり等は読みやすく、わかりやすいものを作成している。		
2 計画作成・見直し	① 年間の支援計画は、子どもや保護者の要望、関係者の意見を取り入れて作成している。		
	② 年間の支援計画は、運営協議会や保護者会等を通じて保護者への説明を行い、同意を得ている。		
	③ 定期的に、支援計画の見直しについて検討している。		
3 サービスの標準化	① 個々のサービスについて、標準的な実施方法を定め、マニュアルなどを作成している。		
	② 新人職員に対し、業務内容を学ぶ研修を実施している。		

評価項目	評価の視点(判断基準)	自己評価	工夫している点や課題があればご記入ください
4 苦情解決	① 苦情を受け付ける仕組みや書式が整備されており、職員や児童・保護者に周知され、サービスの改善に活用されている。		
	② 苦情解決にあたっては、直ちに会議等で対応を検討し、迅速な解決を心掛けている。		
	③ 苦情の申し出から解決まで、一連の流れが記録され、情報として蓄積・共有化できる仕組みができており、機能している。		
5 対するサポート 保護者に	① 自宅での生活を含め、子育ての不安や悩みなど、保護者からの相談や面談に応じる体制を整えている。		
6 人権の尊重	① 職員から児童への体罰防止マニュアルの作成や研修実施など、虐待防止のための具体的な仕組みがあり、機能している。		
	② 家庭等での虐待の兆候を感じ取るなど、児童に対する虐待の早期発見やその後の見守りに努めている。		
7 地域との連携・交流	① 地域行事への参加など、施設外における活動の範囲を広げるための取り組みを行っている。		
	② ボランティア・実習生の受け入れにあたり、担当者を配置するとともに、ボランティア・実習生に対して必要な事前説明をしている。		
	③ それぞれの関係諸機関・団体とのかかわり方を明確にし、それぞれに応じた連携を図るための定期的・具体的な取り組みを行っている。		



### Ⅲ. サービスの内容

■それぞれの「評価の視点」において、「自己評価」の欄に以下の4段階での記入をお願いします。

自己評価の定義	
4：優れた取組ができている	3：おおむねできている
2：あまりできていない	1：まったくできていない

評価項目	評価の視点(判断基準)	自己評価	工夫している点や課題があればご記入ください
1 基本原則	① 児童の人格や意思を尊重し、主体的に活動できるよう援助している。		
	② 児童の発達の特徴や発達過程を理解し、心身の状態に応じた支援方法を検討し、支援している。		
	③ 業務の実施状況に関する日誌(出欠記録や業務日誌等)等、サービスの記録を行っている。		
2 コミュニケーション	① 児童の自己決定や意見の表明を促し、それを受け止めるように心がけている。		
	② 児童の人格、価値観等を尊重したマナー、言葉づかいを心がけている。		
3 相談等の援助	① 児童が相談したい時にはその方法や相手を選択して相談することができるなど、対応する方法が定められている。		
	② 日頃から児童の行動特性や生活リズム、興味・嗜好、対人関係、服薬の状況などを観察・記録し、その結果を職員が共有し、支援に生かしている。		
4 健康管理	① 保護者との連携のもと、服薬管理が適切に行われている。		
	② 児童のケガや急病が発生した場合は速やかに対処し、保護者にも報告している。		
	③ アレルギー疾患のある児童に対する食品への配慮や、アナフィラキシーショック発症時の対処法について、全職員が情報を共有し適切に対応している。		

評価項目	評価の視点(判断基準)	自己評価	工夫している点や課題があればご記入ください
5 自傷他害への対応	① 自傷、他害、物損などの危険な行為に対して、児童の心身を傷つけずに対応するための具体的な方法が定められている。		
	② 必要に応じて専門家の協力を得て、支援方法について工夫を行っている。		
6 活動	① 自然との触れ合いや社会体験など、多様な活動が用意されており、児童が選んで参加することができるようになっている。		
	② 児童が自由に遊べる時間が確保されている。		
	③ 宿題や自習などの学習活動を自主的に行える環境を整えている。		
	④ 遊びや生活を通して、豊かな人間関係が育つような配慮を行っている。		
	⑤ 児童が性差や国籍、障がいの有無、考え方の違いなどにとらわれず、互いに認め合い、尊重し合えるよう支援している。		
	⑥ 障がいのある児童が遊びや活動に参加しやすいように支援している。		

評価項目	評価の視点(判断基準)	自己評価	工夫している点や課題があればご記入ください
7 おやつ の提供	① 味、温度、盛り付け等の配慮、季節感を取り入れた献立など、質の高いおやつを提供している。		
	② 児童の嗜好や成長に基づき、栄養面や活力面から必要とされるおやつを提供している。		
	③ 行事や季節を織り込み、児童がおやつの時間を楽しく過ごせるように工夫している。		
8 施設環境	① 児童が落ち着いて快適に過ごせるように、音や光、室温、換気、くつろげる場所の整備等に配慮している。		
	② 部屋やトイレ、手洗い場などについて、清掃・整理された状態を維持している。		
	③ 児童が安全に活動できるように、設備・備品に配慮している。		
9 来所・ 帰宅	① 児童ひとりでの来所や帰宅にあたって、安全面での指導を行っている。		

総合評価と事業プロフィール

必ずご記入ください。空欄の場合には、再提出をお願いすることがあります。

評価項目(大項目)	事業者の強み、 アピールしたい取り組み (事業者のサービスとして「良いと思うこと」、「これ からも続けていきたいこと」など、具体的な取組み の事実をあげながら記入してください。)	サービス改善に向けた取り組み、 今後の展望 (サービスを提供するにあたって「改善が必要だ」 と思うことを記入してください。また、改善に向け た具体的な取組みがあれば書き添えてくださ い。)
I 組織と運営  P1～P3 の設問を参考にして 回答してください。		
II サービス提供のプロセス  P4～P5 の設問を参考にして 回答してください。		
III サービスの内容  P6～P8 の設問を参考にして 回答してください。		

評価シート作成日	令和 年 月 日
評価シートの作成方法 (いずれか1つ○印をつけて ください。「3. その他」に○ 印をつけた事業者は具体的 な方法もご記入ください。)	1. 幹部職員および一般職員による評価チームをつくり、自己評価を行った  2. 通常の職員会議等の場を活用し、自己評価を行った  3. その他(具体的に: )

児童育成クラブの名称					
事業者の名称					
事業者の所在地					
事業者の連絡先		電話	FAX		
		E-mail			
貴法人が当該クラブの運営を開始した日		昭和／平成／令和 年 月 日			
開設場所(○印を付けてください。複数回答可)		小学校校舎内・小学校敷地内・小学校敷地外・その他( )			
定員／現在の利用者数(令和2年1月末現在)		定員 人、利用者数 人			
職員数 (令和2年1月末現在)  ※常勤: 週5日勤務、 かつ、30時間以上  ※非常勤: 常勤職員以外	常勤	職員数 人(うち、男性 人、女性 人)			
		有資格者数	うち	放課後児童支援員……( )人	
				保育士……( )人	幼稚園教諭……( )人
				幼稚園以外の教諭……( )人	その他( ) ……………( )人
		うち	放課後児童支援員以外……( )人		
	非常勤	有資格者数	うち	放課後児童支援員……( )人	
				保育士……( )人	幼稚園教諭……( )人
				幼稚園以外の教諭……( )人	その他( ) ……………( )人
うち		放課後児童支援員以外……( )人			
		職員数 人(うち、男性 人、女性 人)			
サービスの提供にあたって大切にしていること					

「利用者調査ご協力をお願い」の配付数	
--------------------	--

○「利用者調査ご協力をお願い」は、原則として全員に配付してください。

事業者調査票の記入者	氏名:
------------	-----

○記入内容等について、お問合せをさせていただくことがあります。

## 令和元年度 浦安市児童育成クラブ利用者調査

お子さんが利用しているサービスについておたずねします。

次の質問について、あなたの気持ちに近いものを1つ選び、○をつけてください。

### <利用しているクラブの組織と運営について>

質 問		はい	どちらとも いえない	いいえ
Q 1	クラブの理念や方針について、保護者に十分な説明や情報提供がありましたか。	⇒ 1	2	3
Q 2	支援員は、育成支援に関する専門的知識や技術を有していると思いますか。	⇒ 1	2	3
Q 3	出席確認や不審者対応など、来所時や帰宅時の安全確保に向けた取組みがなされていると思いますか。	⇒ 1	2	3
Q 4	クラブ内の部屋について清掃・整頓が行き届いていると思いますか。	⇒ 1	2	3
Q 5	支援員は、お子さんや保護者の個人情報の保護・取扱いに注意を払っていると思いますか。	⇒ 1	2	3
Q 6	学校との連携や情報交換が適切に行われていると思いますか。	⇒ 1	2	3

### <サービス提供の手順について>

質 問		はい	どちらとも いえない	いいえ
Q 7	支援員からクラブに関する内容等について、事前に十分な説明や情報提供がありましたか。	⇒ 1	2	3
Q 8	あなたは、支援員同士の情報共有が十分になされていると思いますか。	⇒ 1	2	3
Q 9	連絡帳やおたよりを通じて、お子さんのクラブでの様子が伝わってきますか。	⇒ 1	2	3
Q 10	お子さんのクラブでの様子など、気になっていることを支援員に相談しやすいですか。	⇒ 1	2	3
Q 11	クラブに関する意見や要望に対して、クラブ側が誠実に対応していると感じますか。	⇒ 1	2	3

＜子どもの発達援助について＞

質 問		はい	どちらとも いえない	いいえ
Q 12	支援員は、おやつを楽しく食べられるように、さまざまな工夫をしていると思いますか。	⇒ 1	2	3
Q 13	支援員は、遊びや生活を通して自主性や人間関係が育つような配慮をしていると思いますか。	⇒ 1	2	3
Q 14	支援員は、お子さんが宿題や自習等の学習活動を自主的に行える環境を整えていると思いますか。	⇒ 1	2	3
Q 15	支援員は、お子さんの成長にあわせて、基本的な生活習慣が身につくよう、配慮をしていると思いますか。	⇒ 1	2	3
Q 16	季節の行事など、お子さんが楽しく過ごせるような工夫が計画的に行われていると思いますか。	⇒ 1	2	3
Q 17	クラブにおける発熱など体調変化があった場合や、事故やケガが発生した場合に、処置や保護者への連絡が、適切に行われていると思いますか。	⇒ 1	2	3
Q 18	支援員は、子どもの人権を尊重し、個人差に配慮しながら、お子さんと接していると思いますか。	⇒ 1	2	3
Q 19	特別な支援が必要なお子さんが、他のお子さんと交流しやすいよう配慮されていると思いますか。	⇒ 1	2	3

＜放課後うらっこクラブについて＞

Q20 児童育成クラブと放課後子ども教室※が交流活動をする「放課後うらっこクラブ」を知っていますか？

1. はい          2. いいえ

※「放課後子ども教室」についての詳細はこちらのサイトをご覧ください。

<http://www.city.urayasu.lg.jp/kodomo/gakko/1011200/1001035.html>

Q21 放課後うらっこクラブの交流活動を評価するとしたら、どのような評価をしますか？

1. 大変優れている    2. 優れている    3. 普通    4. やや不十分である    5. 極めて不十分である

Q22 Q21 の評価をした理由を教えてください。

( )

Q23 今後の「放課後うらっこクラブ」の交流活動について、ご意見やご希望があればご自由にお書きください。

( )

<児童育成クラブ内でのトラブルについて>

質問			1	2	3	4
Q 24	お子さんは児童育成クラブでのことを話しますか	⇒	はい	どちらともいえない	いいえ	
Q 25	支援員は子ども同士のケンカ等があった場合、適切に対応していると思いますか	⇒	対応している	どちらともいえない	対応していない	ケンカ等はない

ここからは、お子さんにご回答をお願いします。あてはまるものに○をつけてください。

しつもん			1	2	3
Q 26	じどういくせいクラブのおやつはおいしいですか。	⇒	おいしい	どちらともいえない	おいしくない
Q 27	じどういくせいクラブのへややトイレはきもちよくつかうことができますか。	⇒	きもちよくつかえる	どちらともいえない	きもちよくつかえない
Q 28	じどういくせいクラブはたのしいですか。	⇒	たのしい	どちらともいえない	たのしくない
Q 29	じどういくせいクラブで、こまったことやいやなことがあったとき、クラブの先生は、どうしたらよいか、いっしょにかんがえてくれましたか。	⇒	かんがえてくれた	どちらともいえない	かんがえてくれなかった
Q 30	じどういくせいクラブの先生は、あなたのきもちをよくわかってくれますか。	⇒	わかってくれる	どちらともいえない	わかってくれない

じどういくせいクラブについてかんじていることを、なんでもかいてください。

.....

.....

.....

ご協力ありがとうございました。